

### 警察官吏召集規則

明治二十二年二月十五日  
廳達乙第十一號

警察〔本部〕 警察署 警察分署

警察官吏召集規則別紙之通相定ム

警察官吏召集規則

第一條 本則ハ警察官吏ヲ召集スル場合ニ於テ適用スルモノトス

第二條 召集ヲ分テ二トス

一 平時召集

二 非常召集

第三條 平時召集トハ平時急速召集ヲ要スル事件アルニ際シ全部若クハ一部ノ警察官吏ヲ召集スルヲ云ヒ非常召集トハ非常事變アルニ際シ全部若クハ一部ノ警察官吏ヲ召集スルヲ云フ

第四條 召集ヲ要スル時ハ左ノ木製ノ符票ヲ發ス

平時召集票

四寸

○	召集票
此票ヲ受ケタルトキハ速ニ參集スヘシ	
部	(署) 名

地黒塗  
文字白

非常召集票

四寸

○	召集票
此票ヲ受ケタルトキハ速ニ參集スヘシ	
部	(署) 名

地白塗  
文字黒

第五條 指定地名ハ便宜別票ヲ召集票ニ付送ス

第六條 横濱〔區〕内ニ於テハ警察官吏ノ宿所ヲ數方面ニ分割シ組合ヲ設ケ召集票ノ配賦ヲ便ニスヘシ

第七條 横濱〔區〕内ニ於テ召集ヲ行フトキハ巡查又ハ使丁ヲシテ召集票ヲ各組合中在宿ノ一人ニ配付セシムルモノトス

第八條 配付ヲ受ケタル者ハ速ニ召集票ヲ組合員ノ宿所ニ配付スルモノトス

第九條 但駐在所巡查不在ナルトキハ其管区内〔戸長〕役場ヘ配賦方ヲ囑託スヘシ

第十條 召集票ノ配賦ヲ受ケタルトキハ成規ノ服装ヲナシ該召集票ヲ携帯シ速ニ指定ノ場所ヘ參集スヘシ

駐在所巡查不在ナルトキハ召集票ヲ戸長役場ニ囑託スヘシ

明治二十二年三月四日  
達甲第十三號

駐在所巡查ヲ召集スル場合ニ於テ本人ノ不在ナルトキハ召集票〔札〕ヲ所在地ノ〔戸長〕役場ニ囑託シ送達セシムルモノニ付本人出向先キヘ速ニ送達方取計フヘシ

### 巡查結婚ハ認可ヲ要ス

明治二十一年十一月二日  
廳達甲第十八號

警察〔本部〕 警察署 警察分署

自今巡查ニシテ結婚セント欲スル者ハ配偶者ノ族籍氏名年齢等ヲ詳記シ豫メ所屬署長ヘ届出其認可ヲ受クヘシ但警察〔本部〕及ヒ巡查教習所詰巡查ハ〔警部長〕ノ認可ヲ受クヘシ

### 巡查結婚セントスルトキ届出認可ヲ受クヘキ件ヲ消

### 防手ニ準用ノ件

大正九年四月二十三日  
訓令第三十號

明治二十一年十一月十一日 廳達甲第十八號 巡查結婚セントスルトキ届出認可ヲ受クヘキ件ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ  
之ヲ準用ス

警察署 警察分署 消防署

### 官吏ハ相當ノ手續ヲ經スシテ商業ヲ爲スヘカラス

明治二十一年四月  
時内第一〇號

官吏ニシテ商業ヲ營メント欲スル者ハ直接間接ノ別ナク出願許可ヲ受クヘキ義ニ有之候處間其手續キチ爲ササル  
哉ノ趣相聞不都合ニ候條此際各課署僚員ニ諭示シ心得違ヒナキ様致スヘク此段内達ス

### 皇族大臣下賜ノ酒饌料ハ受否伺出ニ及ハス

明治二十二年一月  
廳達乙第六號

皇族大臣以上ヨリ警部巡查ヘ下賜相成候酒饌料受否ノ義自今伺出ニ及ハス署長分署長ニ於テ之ヲ認可シ其旨届出ツ  
ヘシ

### 町村長若シクハ人民ヨリ贈遺ヲ受クヘカラス

明治二十八年十月  
示令第六四號

警察官吏ノ職務ニ對シ町村長若シクハ人民ヨリ金品贈與方出願スルモ一切受領ス可カラサル旨二十六年三月別紙寫  
ノ通り長官ノ命ニ依リ及示達置候處近日傳染病消毒ノ勞ニ對シ人民ヨリ直接金員ヲ受領セシ者有之趣相聞候右ハ以  
テノ外ノ次第ニ候條萬一右等金品ヲ受領セシ者有之候ハ其ノ金品ハ速ニ返付セシメ其ノ贈與者並ニ受領品目箇數

等詳細取調報告セラレヘシ

(別紙)寫 發第二四三號

從來巡查ノ職務ニ對シ町村長若シクハ人民ヨリ慰勞又ハ謝儀トシテ金圓物品等贈與方出願受領候儀モ有之候處元來  
巡查當然ノ職務ニ就テハ謝狀等ハ格別斯ル贈遺ヲ受クヘキ謂ハレ無之ニ付自今右等贈遺受領ノ義ハ一切採用不相成  
長官ノ命ニ依リ此段訓令ス

### 贈與金謝絶ノ場合ニ於ケル申報

明治三十年三月  
示令第二二號

團體又ハ一般人民ヨリ警察官吏ニ職務上金品ヲ贈與セントスルヲ謝絶シタルトキハ當該警察官吏ヨリ直チニ所屬署  
長ニ報告セシメ隨時本官ニ申報セラレヘシ

### 警察ノ職ニ在ル者ニハ各種私設團體等ノ會員寄附金 ノ勧誘募集ニ關涉セシメサル件

明治四十年四月二十六日  
內務大臣官房丙第三四三號

地方官カ各種私設團體ノ囑託ニ應スルコトニ付テハ曩ニ明治三十二年九月地甲第九二號ヲ以テ及通牒置候次第モ有  
之候處殊ニ職務上最モ公平嚴正ヲ要スヘキ「警察長」其他警察官ニシテ各種私設團體等ノ會員寄附金ノ勧誘募集ニ關  
係スルカ如キハ或ハ外間ノ批難ヲ生シ威信ニ影響ヲ及ホスノ恐レモ有之候ニ付將來警察ノ職ニ在ル者ニハ此等事務  
ニ關涉セシメサル様御取計相成度依命此段及通牒候也

## 第九節 服制

警察官及消防官制服

明治四十一年二月五日  
勅令第七號

改正 明治四十二年五月勅令第一四七號、四十二年三月第二三號、第一二九號、一月二月第四四三號、四十四年四月第九八號、大正元年一月三月三號、二年六月第二四三號、六年一月第二二二號、一二年一月第四五〇號  
朕警察官及消防官制服改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
警察官及消防官制服

警察官及消防官制服圖例

上		地質	製式	警視總監	警視廳官房主	警視廳各部	警視廳警務部	警視廳及消防機關	警士部	警部	補形狀
肩章	袖章										
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白布	立襟一行鈕釦長シヤケツト前	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

衣		袴		短袴		正帽	
鈕釦	領章	地質	製式	地質	製式	地質	製式
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白布	普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入	濃紺又ハ黒羅紗	濃紺又ハ黒羅紗	濃紺又ハ黒羅紗	濃紺又ハ黒羅紗
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同
略長五分座幅四分一寸五分	略長五分座幅四分一寸五分	同	同	同	同	同	同



備考

- 一 略肩章ハ夏衣ニ之ヲ著セサルモノトス
- 一 短袴ハ長靴脚絆又ハゲートルヲ用ウルトキ之ヲ著用スルモノトス
- 一 短刀ハ消防、水上又ハ交通取締ノ勤務ノ者其ノ他土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官ノ指定スル者之ヲ佩用スルモノトス
- 一 乘馬ノ際刀帶中第二ノ釣革ハ之ヲ用井サルコトヲ得鈎鎖ハ第二ノ釣革ヲ用井サル場合ニ限り第一ノ釣革ニ代ヘ之ヲ用井ルコトヲ得
- 一 乙種外套ハ防水布製長マントヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 一 土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ樺太廳長官又ハ廳府縣長官ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ拳銃ヲ帶用セシムルコトヲ得
- 一 土地ノ狀況ニ依リ防寒具ノ必要アルトキ又ハ消防官ニ特種ノ制帽若ハ防火具ノ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム

(圖略ス)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警察官及消防官ハ明治四十一年十二月迄ハ仍從前ノ制服ヲ著用スルコトヲ得

明治二十二年勅令第百二十二號ハ之ヲ廢止ス

警察官及消防官服裝規則

明治二十三年七月二十九日 內務省訓令第二十七號

改正 明治二十七年三月內務省訓令第八號、四一年二月第一號、大正四年一〇月第一〇號、六年二月第六號、一二年五月第一三號、一三年一〇月第一四號、一四年一月第二號

廳府縣(東京府)ヲ除ク

警察官及消防官服裝規則

警察官及消防官服裝規則

- 第一條 警察官及消防官ノ服裝ヲ分テ正裝禮裝常裝ノ三種トス
- 第二條 正裝トハ正帽、衣、袴、正肩章、刀、正緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第三條 禮裝トハ正帽、衣、袴、略肩章、刀、正緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第四條 常裝トハ正帽、衣、袴、略肩章、刀、短刀、常緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第五條 水上又ハ交通取締勤務其ノ他土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ廳府縣長官ノ指定シタル警察官、消防官ニ在リテハ常裝ヲ著用スルトキニ限り短刀ヲ佩用スルコトヲ得但シ消防機關士ハ便宜之ヲ脱スルモ妨ナシ
- 第六條 正裝ハ儀式祭典等總テ大禮ノトキ著用スルモノトス其場合概ネ左ノ如シ
  - 一 新年參賀
  - 一 三大節 新年宴會紀元節 參賀
  - 一 天機 天長節 其他拜謁ノ爲メ參内スルトキ
  - 一 靖國神社招魂社大祭參拜
  - 一 國儀式及公式行幸啓御先驅並供奉ノトキ
  - 一 任官敘位敘勳
  - 一 一般大禮服著用ノ場合
  - 一 成規上明文アル場合
- 第七條 禮裝ハ概ネ左ニ列記スル場合ニ於テ著用スルモノトス
  - 一 宮中ニ於テ御宴ニ陪スルトキ
  - 一 通常行幸啓御先驅及供奉ノトキ
  - 一 天覽ノ場所ニ臨ミ陪覽スルトキ
  - 一 行幸啓ノ場所ヘ參集シ若ハ奉送奉迎スルトキ
  - 一 正式勅使警備

- 一 政始出廳
- 一 歳暮参賀
- 一 任官叙位叙勳ノ御禮及之ニ齊シキ場合ニテ参内スルトキ
- 一 巡閱ヲ行ヒ及巡閱ヲ受クルトキ
- 一 夜會其他廉アル宴會ニ臨ムトキ
- 一 通常禮服及フロックコート着用ノ場合
- 一 自家親屬其他ノ賀儀葬祭
- 第八條 常装ハ平常勤務ノ際着用スル所ノ服装トス
- 第九條 巳ムヲ得サル場合ニ於テハ國儀式並公式行幸啓御先驅ニ参スルトキ任官叙位叙勳ノトキニ限り禮装ヲ着用スルコトヲ得
- 第十條 行幸啓ノ道筋警衛及監臨等ノ場合ニ於テハ常装ニ正帽ヲ用フヘキモノトス但急遽ノ場合ニ於テ監臨ヲ要スルトキハ正帽ヲ用ヒサルモ妨ケナシ
- 第十一條 夏衣ハ炎暑ノ際凡六月一日ヨリ九月常装ニ限り着用スルコトヲ得但シ夏衣ヲ着用スルトキハ夏袴ヲ着用スルモノトス
- 第十二條 夏袴ハ炎暑ノ際着用スルモノニシテ何レノ服装ニ在テモ袴ニ代用スルコトヲ得
- 第十三條 甲種外套ハ何レノ服装ヲ論セス雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ着用スルモノトス尤防寒ノ爲メ特ニ室内ニ於テ着用スルコトヲ得但儀式祭典ノ場所及上官ノ居室内ニ在テハ此限ニ在ラス
- 第十四條 乙種外套ハ防水布製長マントハ雨雪ノ際甲種外套ノ上ニ着用スルモノトス尤時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ着用スルモ妨ケナシ
- 第十五條 覆面ハ雨雪ノ際甲種又ハ乙種ノ外套ニ附屬シテ用フルモノトス
- 第十六條 日覆ハ夏袴ヲ着用スル際略帽ニ限り之ヲ用フルモノトス
- 第十七條 頭紐ハ何レノ服装ヲ論セス職務執行ノ場合ニ於テ必ラス之ヲ用フヘシ其他ノ場合ニ於テハ各自ノ便宜ニ依ル

- 第十八條 刀ハ室内ノ内外ヲ問ハス上部短刀ニ在リノ銀チ刀帶ノ鈎金ニ掛ケ乘馬ニ在テハ之ヲ掛ケサルヲ法トス
- 第十九條 刀帶短刀帶ハ衣ノ下ニ締ムルモノトス
- 第十九條ノ二 拳銃ハ革製袋ニ納メ携帶革チ以テ上衣ノ下右腰部ニ帶フルモノトス彈藥盒ヲ附屬セシムル場合亦同シ但シ勤務ノ狀況ニ依リ廳府縣長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ上衣又ハ外套ノ上ニ之ヲ帶ヒシムルコトヲ得
- 第二十條 正緒ハ正装禮装ノトキ常緒ハ常装ノトキ刀柄ニ裝著ス
- 第二十一條 (削除)
- 第二十二條 手套ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス但シ常装ノ場合ニ限り茶又ハ鼠色ノモノヲ用ウルコトヲ得
- 第二十三條 手套ハ炎暑ノ際常装ニ限り之ヲ着用セサルコトヲ得
- 第二十三條 下襟ハ何レノ服装ニ在テモ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ
- 第二十四條 靴ハ長短ヲ問ハス黒色革製トシ短靴ハ袴下ニ長靴ハ袴上ニ穿ツヲ法トス
- 長靴ハ乘馬勤務ノトキ又ハ雨雪泥濘等ノ際ニ於テ職務執行ノトキ短靴ハ其ノ他ノ場合ニ於テ用ユルモノトス但シ長途ノ旅行又ハ職務執行上特ニ必要ナル場合ニ於テハ短靴「ゲートル」(黒又ハ紺)又ハ鞋脚絆(黒又ハ紺)ヲ用ユルコトヲ得
- 乘馬者ニ在テハ短靴長靴共ニ必ス拍車ヲ附著シ其短靴ヲ穿ツトキハ袴ニ留革「スーヒ」チ附著スヘシ
- 第二十五條 勳章其ノ他ノ記章ハ何レノ服装ニ在リテモ之ヲ佩用スルコトヲ得
- 第二十六條 奉送奉迎御先驅正式勅使警備其他儀式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各員齊一ノ服装ヲ爲スヘシ
- 第二十七條 外套ヲ携帶スルニハ附屬品チ内ニ納メ適宜捲收シ乘馬者ニ在テハ後鞍ニ締結シ徒歩者ニ在テハ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛ケルモノトス

●特設消防署消防手消防員服装規程

大正八年十二月五日  
訓令第五十八號

消防署

特設消防署消防員服裝規程左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

消防員服裝規程

- 第一條 消防手ハ帽、衣袴、斧付帶革、手袋「白」、短靴「黒色」及グートルヲ著用スヘシ
- 消防員ハ帽、袴、股引及足袋草鞋若ハ靴ヲ著用スヘシ
- 第二條 水火災ニ出場其ノ他演習等ノ場合ニハ頭紐ヲ使用スヘシ
- 第三條 消防手水火災ニ出場又ハ演習ノ場合ニハ金屬製帽又ハ刺子頭巾刺子袴及刺子手袋ヲ用ユルコトヲ得
- 第四條 消防手ハ毎年六月一日ヨリ夏袴同月二十一日ヨリ夏衣袴九月十一日ヨリ冬衣袴ヲ六月一日乃至九月末日ノ間ハ帽ニ日覆ヲ著用スルモノトス但警察部長ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ著用期間ヲ變更スルコトヲ得
- 第五條 外套ハ雨雪若ハ寒冷ノ際著用スルモノトシ儀式祭典ノ場所及上官ノ室内ニ在リテハ著用スルコトヲ得ス
- 第六條 休憩時間睡眠スル場合ニ限リ帽斧付帶革手袋及靴ヲ著用セサルコトヲ得

●警部警部補服裝注意

明治二十二年一月 訓令甲天第三號

自今警部警部補公務ニ服スルトキハ如何ナル場合ヲ問ハス總テ制服制帽ヲ著用シ且ツ佩劍スヘシ

明治二十一年七月 訓令甲天第一七號

警部補以上外部旅行ノ節ハ私服ヲ著用スルコトヲ得ヘシト雖モ其本部へ出頭ノ場合及ヒ部内ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ必ス制服制帽ノ上佩劍スヘシ且ツ脱帽脱劍ニテ署門ヲ出入スヘカラス

●巡查服制

明治四十一年二月五日 勅令第八號

改正 大正六年二月勅令第二二三號、七年九月第三四八號、一二年八月第三五四號、一二年一〇月第四五一號  
 朕巡查服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡查服制

巡查服制圖例

袴	衣							上	
	地質	領章	鈕釦	肩章		袖章	製式		
				略肩章	正肩章				
普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白小倉	徑三分ノ眞鍮略日章二箇ヲ附ス	徑六分五厘ノ無地眞鍮鈕釦五箇ヲ前部ニ附ス	兩緣及上端緣ハ幅一分ノ赤色線ヲ附ス餘ハ正肩章ニ同シ	線紗兩緣及上端緣ハ幅一分五厘平織金線ヲ附シ徑四分ノ金色鈕釦一箇及徑五分ノ銀色略日章一箇ヲ附ス	長四寸幅一寸七分地質濃紺又ハ黒羅紗兩緣及上端緣ハ幅一分五厘平織金線ヲ附シ徑四分ノ金色鈕釦一箇及徑五分ノ銀色略日章一箇ヲ附ス	立襟一行鈕釦長シヤケツト前面ノ左右ニ各二箇ノ物入ヲ附ス但シ乘馬勤務ノ者ノ上衣(夏衣ヲ除ク)ニハ幅一分ノ赤色線ヲ以テ緣邊ニ玉線ヲ附ス	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白小倉	
同	同	同	同	銀色略日章ヲ附セス餘ハ同上	平織銀線ヲ附ス餘ハ同上	筒チ附ス餘ハ同上	同	同	
上	上	上	上	如圖	如圖	如圖	如圖	上	巡查形狀

短袴	地質	製式	帽			短刀	地質	製式	地質	短刀	地質	製式
			徽章	製式	地質							
濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	長襟上ニ止ム裾口ヲ裂クコト五寸之	圓形シ	圓形シ	圓形シ	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

短刀	地質	製式	外			短刀	地質	製式	地質	短刀	地質	製式
			種	種	種							
鎖ハニツケル鍍鋼長一尺幅七分附屬	鎖ハニツケル鍍鋼長一尺幅七分附屬	鎖ハニツケル鍍鋼長一尺幅七分附屬	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗	濃紺又ハ萌黃羅紗
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

備考

一 略肩章ハ夏衣ニ之ヲ裝著セサルモノトス  
 一 短袴ハ長靴脚絆又ハゲートルヲ用ウルトキ之ヲ著用スルモノトス  
 一 但シ萌黃短袴ハ乘馬勤務ノ者之ヲ著用スルモノトス  
 一 短刀ハ水上又ハ交通取締ノ勤務ノ者其ノ他土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ得



- 一 太廳長官又ハ廳府縣長官ノ指定スル者之ヲ佩用スルモノトス
- 一 刀帶ノ鈎鎖ハ乘馬勤務ノ者ニ限り鈎革ニ代ヘ之ヲ用井ルコトヲ得
- 一 乙種外套ハ防水布製長マントヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 一 土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ樺太廳長官又ハ廳府縣長官ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ拳銃ヲ帶用セシムルコトヲ得
- 一 土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要ナル防寒具又ハ特殊ノ制帽ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム
- 一 勤務ノ性質ニ依リ當時附著スル必要アル腕章ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム

(圖略ス)

附則

本令ハ明治四十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 巡查服裝規則

明治二十九年十一月二十六日  
內務省訓令第十一號

改正 明治三十四年一月內務省訓令第一九號、四一年二月第二號、大正四年一〇月第一號、一二年五月第一四號、三年一〇月第一五號

警視廳 府縣 東京府  
ヲ除ク

巡查服裝規則左ノ通相定ム

巡查服裝規則

- 第一條 巡查ノ服裝トハ帽、衣、袴、肩章、刀短刀ヲ、刀緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
  - 第二條 服裝ハ正肩章ヲ著ケルヲ正裝トシ略肩章ヲ著ケルヲ常裝トス但シ正裝ノ場合ニ於テハ乘馬勤務ノ者ノ外短袴ヲ用キサルモノトス
- 夏期正裝ノ場合ニ於テハ衣ハ絨衣ヲ著ケルモノトス但シ袴ハ夏袴ヲ用ウルモ妨ナシ

第三條 正裝ハ警察官及消防官服裝規則第六條、第七條ノ場合ニ於テ用ユル所ノ服裝トス

第四條 常裝ハ平常勤務ノ際用ユル所ノ服裝トス

第五條 夏衣、夏袴ハ炎暑ノ際(凡ソ六月一日ヨリ九月)用ユルコトヲ得

第六條 甲種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲ニ用ユルモノトス但シ儀式祭典ノ場所及上官ノ室内ニ在テハ用ユルコトヲ得ス

第七條 乙種外套 防水布製長マント ハ雨雪ノ際甲種外套ノ上ニ用ユルモノトス但シ時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ用ユルモ妨ケナシ

第八條 覆面ハ雨雪ノ際甲種外套又ハ乙種外套ニ附著シテ用ユルモノトス

第九條 日覆ハ炎暑ノ際常裝ニ限り之ヲ用ウルモノトス

第十條 頤紐ハ何レノ服裝ニ在テモ職務執行ノ場合ニ於テハ之ヲ用ユルモノトス

第十一條 手套ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス但シ常裝ノ場合ニ限り茶又ハ鼠色ノモノヲ用ウルコトヲ得

第十二條 靴ハ長短ノ二種トシ立襟ヲ用ウルモノトス

第十三條 靴ハ長短ノ二種トシ黑色革製トス

第十四條 長靴ハ乘馬勤務ノトキ又ハ雨雪泥濘等ノ際ニ於テ職務執行ノトキ短靴ハ其他ノ場合ニ於テ用ユルモノトス但シ長途ノ旅行又ハ職務執行上特ニ必要ナル場合ニ於テハ短靴「ゲートル」(黒又ハ紺)又ハ鞋脚絆(黒又ハ紺)ヲ用ユルコトヲ得

第十五條 勳章其他ノ記章ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ佩用スルコトヲ得

第十六條 樣式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各自齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ

第十七條 外套ヲ携帶スル者ハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲取シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛ケルモノトス

第十八條 拳銃ハ革製袋ニ納メ携帶革ヲ以テ上衣ノ下右腰部ニ帶フルモノトス彈藥盒ヲ附屬セシムル場合亦同シ但シ勤務ノ狀況ニ依リ廳府縣長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ上衣又ハ外套ノ上ニ之ヲ帶ヒシムルコトヲ得

附則

第十六條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

● 巡査冬衣袴夏袴着用ノ件

明治三十二年六月一日  
内務省訓令第十八號

七五〇  
廳府縣 東京府  
ヲ除ク

巡査ノ服裝ハ寒暑ノ度著シク相違セル地ヲ除キ一定ノ期間整一ニ冬衣袴夏袴ヲ用ヒシムルコトヲ得

● 巡査服裝姿勢規則及心得

大正九年十一月二日  
訓令第七十六號

警察署 警察分署

巡査服裝姿勢規則及心得左之通相定ム

巡査服裝姿勢規則及心得

第一章 服裝、姿勢

第一條 帽ハ端正ニ冠戴スヘシ

第二條 服裝ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ警察部長ニ於テ必要ト認ムルトキハ着用期間ヲ變更スルコトヲ得

一 冬衣冬袴 自十月一日 至五月三十一日

一 冬衣夏袴 (自六月一日 至同月二十日  
自九月二十一日 至同月三十日)

一 夏衣夏袴 自六月二十一日 至九月二十日

一日 覆 自六月一日 至九月三十日

第三條 交通取締其ノ他特ニ必要ナル場合ニ於テハ短靴ニダートルヲ着用スルコトヲ得

第四條 制服ヲ著シタルトキハ必ラス左ノ物品ヲ携帯スヘシ

一、手帳 二、捕繩 三、警笛 四、名刺

第五條 外套ハ降雨雪霰ノ時ニ非ラスト雖防寒ノ爲左ノ期限内着用スルコトヲ得

自十月一日 至五月三十一日

六月九月二箇月間ノ自日出 至日出

第六條 雨雪ノ時ヲ除キ晝間ハ乙種外套ヲ著スヘカラス

但微雨雪ノ時ハ乙種外套ノミヲ著スルコトヲ得

第七條 室内ニ於テハ外套ヲ著スルコトヲ得ス

第八條 制服ヲ著シタルトキハ必ラス帶劍スヘシ

第九條 帶劍ハ常ニ刀柄ヲ前ニシ外套ヲ著シタルトキハ内部ニ帶ヒ刀柄ヲ外部ニ顯出スヘシ

第十條 劍ハ常ニ手入ヲ善クシ錆ヲ生セシムヘカラス

第十一條 劍ハ護身ノ用ニ供スルモノナレハ宜シク注意シ濫リニ之ヲ弄シ苟モ人ヲ威嚇スル等ノ振舞ナキハ勿論兇

賊逮捕ノ際ト雖戒慎スヘシ

第十二條 左ノ場合ニ於テ已ムヲ得サルトキハ拔劍スルコトヲ得ヘシト雖苟モ兇人畏服ノ狀アルトキハ穩カニ取押

ヘ決シテ勢ニ乗シ負傷セシムル等ノ舉アルヘカラス

一、兇器ヲ持シ人ノ身體財產ニ對シ暴行ヲ爲ス者アルニ當リ到底他ニ保護ノ術ナキトキ

二、兇人兇器ヲ持シ暴行スルヲ受クルニ當リ到底他ニ防禦ノ術ナキトキ

三、犯罪人逮捕ノ時又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シ抗拒スルニ當リ到底他ニ防禦ノ術ナキトキ

第十三條 前條已ムヲ得ス拔劍スル場合ト雖過テ他人ニ負傷セシメサル様深ク注意スヘシ

第十四條 如何ナル場合ト雖拔劍シタルトキハ速ニ所屬課署長ニ報告スヘシ

第十五條 囚人護送又ハ犯罪人逮捕ノ場合不意ニ乘シ劍ヲ奪ハレサル様注意スヘシ

第十六條 正式敬禮ヲ行フ外他ノ敬禮法ヲ用ウヘカラス

第十七條 休憩室ニ在ル時ノ外徒ラニ衣囊ニ手指ヲ入ルヘカラス

第十八條 立番又ハ見張中蹲居又ハ物ニ寄り掛リ其ノ他不體裁ノ所爲ヲ爲スヘカラス

第十九條 手帳ハ上衣ノ左隠シニ警笛ハ上衣ノ右下隠シニ捕繩ハ袴ノ右隠シニ容レ出入ニ便ニスヘシ

第二十條 杖及傘ヲ携帯シ若ハ頸卷ヲ用キ又ハ許可ヲ得スシテ色眼鏡ヲ用ウヘカラス

- 第二十一條 時計ノ鎖又ハ紐類ヲ現ハニ出スヘカラス
- 第二十二條 勤務中喫煙スヘカラス
- 第二十三條 私用他行ノ節ト雖制服ヲ着用スルコトヲ得
- 第二十四條 被服ハ常ニ清潔ニシテ正シク嵌ムヘシ
- 第二十五條 頭髮ハ一寸五分ヲ超ユヘカラス

第二章 心得

- 第二十六條 警察規則ハ勿論他ノ法令及諸達ヲ常ニ服膺シ上官ノ指揮命令ヲ遵奉シ職務ヲ勉勵スヘシ
- 第二十七條 常ニ人民ノ動靜及百般ノ事物ニ注意シ苟モ機密ニ關スル事件ハ勿論警察上必要ナリト認ムル事件ヲ目撃耳聞シタル時ハ速ニ所屬課署長ニ報告スヘシ
- 第二十八條 機密ニ關スル事件又ハ人ノ名譽ニ關スル事件ハ所屬課署長ニ報告スルノ外他ニ漏洩スヘカラス
- 第二十九條 職務ニ服スルトキハ活潑ニシテ威儀嚴肅ヲ保チ人民ニ接スルニハ溫和丁寧ヲ旨トシ苟モ粗慢倨傲ノ所爲アルヘカラス
- 第三十條 非常事變ニ際シテハ奮發挺身保護官タルノ任ヲ盡シ苟モ逡巡卑怯ノ舉動アルヘカラス
- 第三十一條 巡查ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第三十二條 巡查ハ上官ノ允許ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 第三十三條 平素交際ヲ慎ミ苟モ不品行ノ輩ト往來シ行狀ヲ紊リ部民ノ侮慢ヲ受クルコトナキ様深ク注意スヘシ
- 第三十四條 私人ノ同僚相會飲シ又ハ酒樓ニ登ルヘカラス
- 第三十五條 他人ノ訴訟事件等ニ關係シ又ハ金錢貸借等ノ請人若ハ證人トナルヘカラス
- 第三十六條 私人ノ際ト雖出署スルトキハ制服若ハ羽織又ハ袴ヲ穿ツヘシ但シ特別勤務ニ服スル者又ハ緊急ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
- 第三十七條 外出スルトキハ必ラス行先ヲ家族又ハ同居者ニ告ケ置クヘシ其ノ所屬課署所在地ヨリ二里以外ニ外出スルトキハ書面ヲ以テ所屬課署長ニ届出認可ヲ受ケ宿泊スル場合ハ願出認可ヲ受クヘシ

第三十八條 戸口調査及旅舎検査ノ際ハ殊ニ懇切ヲ旨トシ旅客或ハ家人ノ迷惑ナラサルヲ要ス然レトモ狎昵シテ輕侮ヲ招カサル様注意スヘシ

第三十九條 休暇中ト雖非常事變ノ際ハ直チニ出署スヘシ

第四十條 但水火災等直チニ其ノ現場ヘ駆付ルヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニアラス

第四十一條 病氣引籠ノ節ハ巡查病氣引籠手續ニ據リ届出ツヘシ

第四十二條 勤儉節約ヲ旨トシ浪費シテ負債ヲ爲スヘカラス

七寸

分五寸二

巡查	氏名
----	----

明治二十二年二月 附則  
 二月 應達甲第八號同年 同應達甲第九號ハ之ヲ廢止ス

● 雇洋服著用ノ件

明治二十四年八月 規乙第二號

自今雇ニシテ公務ニ從事スルトキハ洋服著用ヲスヘシ但シ病氣等ニシテ實際洋服ヲ着用シ難キ場合ハ警察部ハ課長ニ警察署ハ署長ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

● 炎暑ニ際シ警察巡閱ノ場合ニ於ケル服裝ノ件

明治四十二年七月二日  
内務省訓令第七號

炎暑ノ際ニ於テ警察巡閱チ行ヒ又ハ受クル者ノ服裝ハ常裝ヲ用ウルコトヲ得

警視廳 府縣 東京府  
ヲ除ク

### ●防水布製長マントニ關スル件通牒

大正十二年十月二十四日  
内務省警發第三八號警保局長

本月二十二日警察官消防官制服制並巡査制服制中改正相成乙種外套ニ代フルニ防水布製長マントヲ用キルコトヲ得ルコトニ相成候處右ハ雨季警邏ニ從事中ノ如キ現在ノ外套ハ雨水浸潤シ殊ニ暑熱ノ候ニ於テモ降雨ノ際ハ甲乙兩種ノ外套ヲ著用セサルヘカラサル爲苦熱ニ堪ヘサルノ實情ニ顧ミ防水布製ノモノヲ採用シ得ルコトト爲シタル儀ニ有之候條地方ノ實際ニ應シテ今後新ニ調製スル分ヨリ漸次之ヲ用フルノ方法ヲ講セラレ度尙右長マントヲ採用ノ場合ハ大體左記ニ準據セラレ候様致度右申進候也

左記

一、色 黒

一、製 式 長サ約長靴ノ上端ニ至ルヲ以テ度トス  
折襟隠紐釦後面裾ヲ裂ク

一、使用期間 二年ノ見込

### ●服裝ニ關スル件

大正十三年六月二十六日  
一三警發第一七三號

近來警部補以上ニシテ炎暑ノ際略帽ニ日覆ヲ付スル場合區區ニ亘リ統一ヲ缺クハ甚々遺憾ニ有之候條警察官消防官服裝規則ノ法意ヲ酌ミ爾今夏衣又ハ夏袴ノミヲ著用スル場合ニ限リ使用スル事ニ致度依命此段及通牒候也

### ●巡査名刺寸法及記載方

明治二十四年十月  
規甲第一四號

本縣巡査名刺寸法及記載方左ノ通り定ム

縦 二寸五分

同上

横 一寸二分

神奈川縣警察部保安課
巡査 氏 名

神奈川縣(何何)警察署(何何)分署詰
巡査部長
巡査 氏 名

同上

同上

神奈川縣(何何)警察署(何)(分署)詰
(第何管區駐在所)
(何何巡査派出所)(詰)
巡査 氏 名

神奈川縣巡査教習所
(本)(別)科受業生
巡査 氏 名

用紙適宜但シ歐文ヲ併用スルモノハ之ヲ裏面ニ記載スヘシ

### ●[警部長]以下提燈徽章

明治十五年二月二十一日  
太政官達第十三號

府 東京府  
縣 東京府  
ヲ除ク

第一編 警務 第二章 庶務

〔警部長〕以下〔正帽正服並〕提燈ノ儀別紙圖式ノ通制定候條此旨相違候事  
 〔但帶劍ノ儀ハ從前ノ通適宜ノ制ヲ用ヒ不苦候事〕  
 〔別紙中帽服圖式略ス〕

〔警部長〕



警部  
補部

豎線 赤色幅壹寸三條 三ヶ所  
 横線 赤色幅六分一條  
 黒色幅六分一條



同 上

● 巡查提燈燈徽章

明治十年三月六日  
 太政官達第三十三號

〔警部制服徽章並〕巡查用小丸提燈〔大小區〕記載方別紙ノ通改正候條此旨相違候事  
 〔但本文ノ外ハ總テ明治八年十一月 第九十四號ノ通〕  
 〔別紙中制服徽章略ス〕

(朱ハ)



巡查用小丸

地名警察署  
 或ハ地名  
 警察署地名分署

● 巡查部長提燈雛形

明治二十三年十月  
 廳訓第三八號

第一編 警務 第二章 庶務

府 東京府  
 縣 除ク

巡查部長用提燈雛形左ノ通相定ム  
提燈及ヒ徽章ノ寸法ハ一般巡查ノ制ニ同シ



● 出火消防ノ際警部ハ提燈ヲ携帯スヘシ

明治二十四年九月  
令第二六四號

夜中出火消防之際警部ニシテ提燈ヲ携ヘサル者モ有之候處自今以後可成的携持セシムヘシ

● 出火消防ノ際警部ハ提燈ヲ携帯スヘシ

明治二十四年九月  
令第二六五號

警部夜中出火消防其ノ他職務ヲ執行スル場合ニ於テハ必ス徽章アル提燈ヲ携燈スヘキ管ノ處往往携持セサルノミナ  
ラス平素スラ之ヲ所持セサル向モ有之哉ニ相聞ヘ候處右ハ職務ヲ表章シ威嚴ヲ示スノ要具ニ候條平素豫メ用意シ職  
務執行ノ場合ハ必ス携燈スヘキ様注意スヘシ

● 警察官及消防官鞍褥ノ件依命通牒

大正四年八月二十六日  
内務省警發第八一號警保局長

警察官及消防官鞍褥ノ義從來各地適宜ノ分使用相成居候處大禮其他ノ際ニ於テ御警衛ニ從事候節區々ニ相成候モ體  
裁上如何歟ト思料被致候ニ付御調製ノ場合ハ別紙様式ニ據ラレ候事ニ致度存候間御參考迄右申進候

警察官及消防官鞍褥圖例

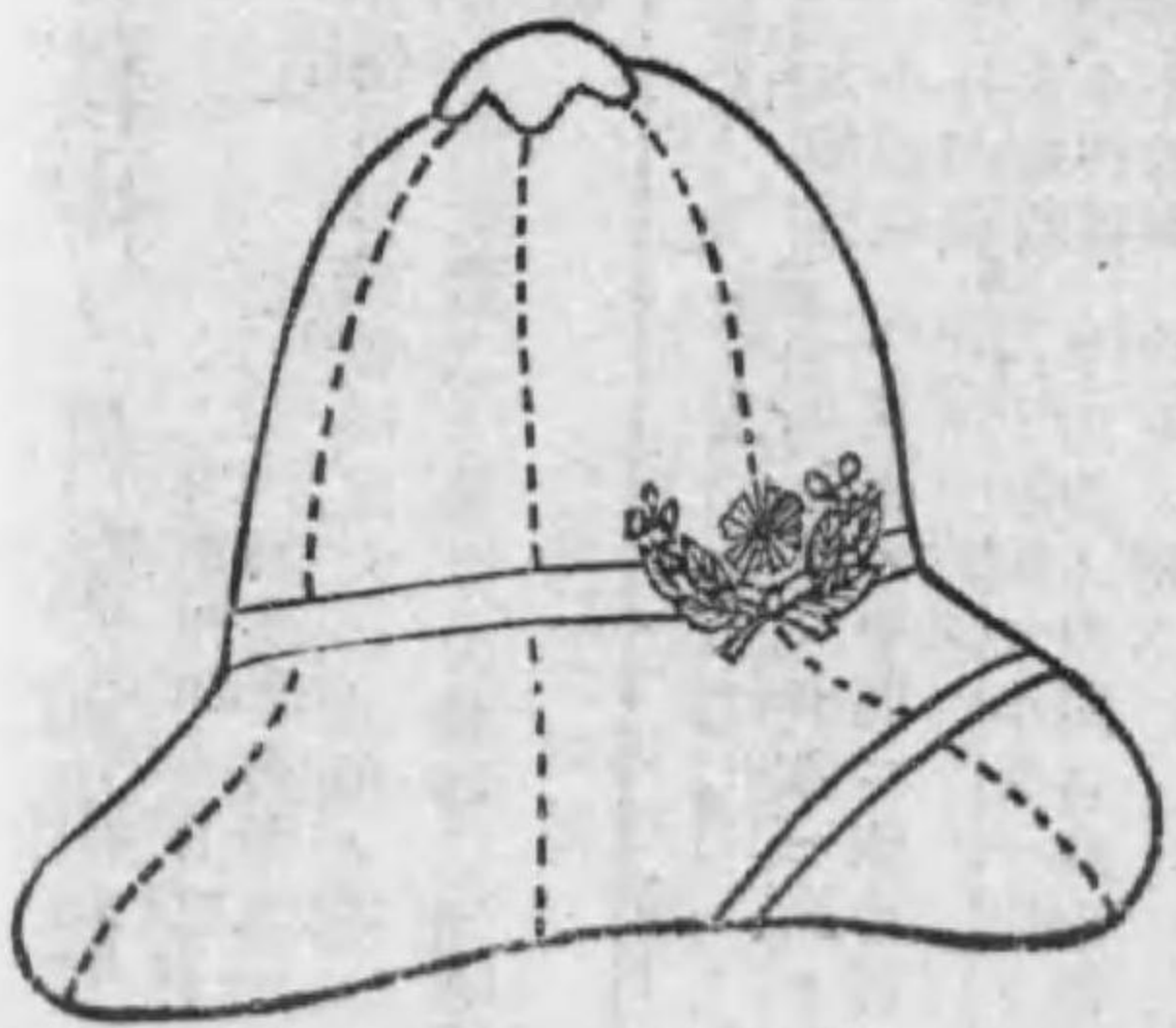
名	稱	地質	品	線	質	裝	邊	式	保	褥	革	形	狀
警視總監	濃紺絨	綾織金線	大線幅四分	金線大小各一條ヲ附シ	黑	色	如	圖					
警視廳官房主事	同上	綾織銀線	大線幅四分	銀線大小各一條ヲ附シ	同	上	同	上					
同各部部長	同上	綾織銀線	小線幅四分	其ノ中間ニ金小線一條ヲ附シ	同	上	同	上					
同各部部長	同上	綾織銀線	小線幅四分	其ノ中間ニ金小線一條ヲ附シ	同	上	同	上					
消防司令	同上	綾織銀線	大線幅四分	大小線各一條ヲ附シ	同	上	同	上					
消防士	同上	綾織銀線	小線幅四分	大小線各一條ヲ附シ	同	上	同	上					
消防士	同上	綾織銀線	小線幅四分	大小線各一條ヲ附シ	同	上	同	上					
消防士	同上	綾織銀線	小線幅四分	大小線各一條ヲ附シ	同	上	同	上					
消防士	同上	綾織銀線	小線幅四分	大小線各一條ヲ附シ	同	上	同	上					

備考 本制ハ正裝又ハ禮裝ニテ乘馬勤務ノ際之ヲ使用スルモノトス  
(圖ハ略ス)

### ● 特種ノ制帽ニ關スル件依命通牒

今般勅令第三百五十四號ヲ以テ巡查服制中改正ノ義公布相成候處右ハ巡查ニシテ寒氣ノ烈シク又暑氣ノ酷シキ地方ニ在勤スル者又ハ以上ニ該當セサル地方ニ在勤スル者ト雖モ炎暑ノ候交通取締ニ從事スル等土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ特種ノ制帽ヲ使用セシムルコトヲ得シムルコトト爲シタル次第ニ有之右ニ付夏期ニ於テ交通取締ニ從事候巡查ニ別紙圖樣ノ制帽使用ノ義警視廳ノ申請ニ對シ今同認可相成候條暑熱ノ候貴廳ニ於テ本件特種制帽ヲ使用セシムルノ必要ヲ認メラレ候場合ニ於テハ大體右圖樣ノ如キ「ヘルメット」ヲ使用シ齊一時期スル様致度右申進候也

大正十一年八月十日  
内務省發警第五〇號警保局長



- 一、地質「キルク」燈心若ハ「ヘチマ」ニ白色ノ防水布ヲ覆ヒ裏ハ鼠色トス
- 二、製式上圖ノ如キ白色ヘルメット形トシ同色ノ幅七分帶ヲ纏ヒ後方部ニ之ヲ結ヒ褐色幅四分伸縮自在ノ頤紐ヲ付シ頤紐ノ兩端ハ左右ノ兩内側ニテ眞鍮金具ヲ以テ留ム左右兩側ニ各二個宛徑一分五厘中央上部ニ徑八分ノ通風孔ヲ穿チ中央通風孔ニハ半圓形ノ下ニ通風孔ヲ設ケタルモノニテ之ヲ覆フ
- 三、徽章ハ巡查服制ニヨルモノヲ前方中央ニ附著ス
- 四、使用期間六月一日ヨリ九月十五日マテ

### ● 交通取締巡查ノ腕章及特殊ノ夏帽ニ關スル件

大正十二年五月五日  
内務省發警第四八號

巡查ノ常時附著スル腕章及特殊ノ制帽ヲ定メラレ候場合ハ巡查服制ニ依リ當省大臣ノ認可ヲ受クルコトニ相成居候處大正七年十二月二十四日發警第一四五號及同十一年八月十日發警第五〇號ヲ以テ及通牒置候交通取締巡查ノ腕章並ヘルメット形夏帽ニ付テハ既ニ警視廳ニ對シ認可候モノニモ有之貴廳巡查ニ右通牒ニ添付ノ圖樣ト同一形狀ノ腕章並ニ夏帽ヲ用キシメラルル場合ハ當省大臣ノ認可ヲ受ケタルモノトシテ取扱ヒ其旨報告ニ止メラレ可然ニ付御承知相成度

### ● 警察官及消防官並巡查服裝規則中改正ノ件依命通牒

大正十二年五月一日  
内務省發警第四三號警保局長

本日當省訓令第十三號及第十四號ヲ以テ警察官及消防官服裝規則並巡查服裝規則中改正ニ相成常裝ノ場合ニ限リ手袋ハ茶又ハ鼠色ノモノヲ用ユルコトヲ得ルコトニ相成候處貴廳ニ於テ右ニヨラレル場合ニ於テハ茶又ハ鼠色ノ内何レカ其ノ一ヲ擇ヒ齊一時期セララルルコトニ致度右申進候也

### ●警察官吏ニ帶用セシムヘキ拳銃ニ關スル件依命通牒

大正十二年十一月十二日  
内務省發警第二號警保局長

十月二十日勅令第四百五十號及勅令第四百五十一號ヲ以テ警察官及消防官制服中及巡查制服中改正ノ結果土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ廳府縣長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ拳銃ヲ帶用セシムルコトト相成候處右ニ依リ帶用セシメラルル拳銃ハ「コレト」式又ハ「アローニンク」式大型若ハ小型トシ尙大型ノ分ハ制服著用ノ場合ニ帶用セシムル様御取計相成度候

### ●警察官吏ニ拳銃ヲ帶用セシムル件

大正十三年一月十四日  
内務省視警第九號警保局長

本件ニ關スル警視總監稟請ニ對シ乙號ノ通指令相成併セテ丙號ノ通牒致置候ニ付御了知相成度候  
追テ拳銃保管方法及帶用方法ニ付テハ別紙甲號警視總監稟請書拔抄ノ通ニ付申添候

(乙號)

大正十三年一月十四日内務省視警第九號内務大臣 警視總監宛

大正十二年十一月二日警務發第三五一號付稟申左ノ勤務ニ從事スル警察官吏ニ對シ必要アリト認ムル場合ニ於テ拳銃ヲ帶用セシムル件認可ス

記

- 一、人、物又ハ場所ノ警護
- 二、天災事變ノ際ニ於ケル警戒
- 三、犯人追捕、夜間ノ密行警邏巡視

(丙號)

警察官吏ニ拳銃ヲ帶用セシムル件(大正十三年一月十四日内務省視警第九號警保局長 警視總監宛)

大正十二年十一月二日附警務發第三五一號ヲ以テ内務大臣宛稟申相成候拳銃携帶並取扱ニ關スル件ハ警察官及消防官制服及巡查制服ニ基キ勤務ノ性質ニ依リ拳銃ヲ帶用セシムルノ必要アリトシテノ認可稟請ト認メ本日内務省視警第九號ヲ以テ認可相成候ニ付御了知相成度尙拳銃使用ニ付テハ相當規定設定ノ見込ヲ以テ目下詮議中ニ有之候ヘ共當分ノ内巡查帶劍心得方ニ準據セシメラレ度又性沈著ナラス思慮周密ヲ缺キ行狀上注意ヲ要スル者若ハ酒癖アル者又ハ拳銃使用ニ慣レサル者ニ帶用セシメサルコトニ御措置相成儀ハ異存無之拳銃保管方法及帶用方法ニ就テハ稟申書記載ノ通ニテ差支無之候

### ●警察官吏武器使用規程

大正十四年三月十七日  
内務省訓令第九號

廳府縣(東京府)  
(ヲ除ク)

警察官吏武器使用規程左ノ通定ム

警察官吏武器使用規程

- 第一條 武器ハ左ノ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 一 人ノ生命、身體若ハ財産ヲ防衛スルニ當リ情況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合
  - 二 職務上警護スル人、場所又ハ物件ヲ支持スルニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ受ケムトシ情況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ之ヲ排除スルノ手段ナキ場合
  - 三 多衆聚合シテ暴行ヲ爲シ又ハ爲サムトシ其ノ情況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ之ヲ鎮壓スルノ手段ナキ場合
  - 四 職務ノ執行ニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ受ケムトシ其ノ情況急迫ニシテ自衛上武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合

第二條 武器ノ使用ハ防衛上必要ノ範圍ヲ踰ユヘカラサルハ勿論其ノ使用ヲ始メタル後ト雖四圍ノ情況之ヲ必要ト

第一編 警務 第二章 庶務



セサルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ停止スヘシ

第三條 武器ノ使用ニ際シテハ關係ナキモノニ危害ヲ及ホシ又ハ損害ヲ與ヘサル様十分ニ注意スヘシ

第四條 武器ヲ使用シ又ハ使用セシメタルトキハ傷害ヲ與ヘタルト否トニ拘ラス遲滞ナク其ノ狀況ヲ所屬警察官署長ニ報告スヘシ

警察官署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ廳府縣長官ニ報告シ廳府縣長官ハ之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

附則

明治十五年內務省達乙第七十一號及明治十七年內務省達乙第三號ハ之ヲ廢止ス

### 警察官吏武器使用ニ關スル件

大正十四年三月二十四日  
訓示甲第五號

今般內務省訓令第九號ヲ以テ警察官吏武器使用規程別紙ノ通り制定セラレタルト本規程ハ第一條ニ於テ武器ヲ使用シタル場合ヲ列舉シ情狀急迫ニシテ之ヲ使用スルニアラサレハ防衛上他ニ手段ナキ場合ニ限定セラレ居リ從テ之レカ使用ニ當リテハ冷靜ノ態度ヲ持スヘキハ勿論一時ノ興奮ニ依リ判斷ヲ誤リ不測ノ結果ヲ惹起シテ刑法第三十九條ノ範圍ヲ踰越シ爲メニ法衙ノ裁斷ヲ受ケルカ如キコトナキ様慎重留意シ殊ニ先般警察官吏ニ對シ必要ニ應ジ拳銃ヲ帶用セシムルノ制ヲ認メラレ右帶劍ニ比シ使用ニ因テ生スル危險頗ル大ナルモノアリ之レカ取扱ニ當リテハ更ニ一層ノ注意ヲ要スル義ニ付キ帶用者ニ對シテハ平素ニ於テ充分訓練ヲナサシメ其ノ使用ハ特ニ已ムヲ得サル場合ニ限リ又已ムヲ得ス之ヲ使用スルモ可成傷害ヲ與ヘサル様注意シ殊ニ何等關係ナキモノニ傷害ヲ加ヘ物議ヲ誘發スル等ノコト無之様此際部下一般ニ對シ懇篤訓練シ以テ趣旨ノ徹底ニ努メ萬遺憾ナキヲ期スヘシ

(別紙)

### 警察官吏武器使用規程 (大正十四年三月十七日) 內務省訓令第九號

第一條 武器ハ左ノ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

〔神奈川警〕

一、人ノ生命身體若クハ財産ヲ防衛スルニ當リ情狀急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合

二、職務上警護スル人、場所又ハ物件ヲ支持スルニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ受ケムトシ情狀急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ之ヲ排除スルノ手段ナキ場合

三、多衆集合シテ暴行ヲ爲シ又ハ爲サムトシ其情狀急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ之ヲ鎮壓スルノ手段ナキ場合

四、職務ノ執行ニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ受ケムトシ其情狀急迫ニシテ自衛上武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合

第二條 武器ノ使用ハ防衛上必要ノ範圍ヲ踰ユ可カラサルハ勿論其使用ヲ始メタル後ト雖モ四圍ノ情況之ヲ必要トセサルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ停止スヘシ

第三條 武器ノ使用ニ際シテハ關係ナキモノニ危害ヲ及ホシ又損害ヲ與ヘサル様十分ニ注意スヘシ

第四條 武器ヲ使用シ又ハ使用セシメタルトキハ傷害ヲ與ヘタルト否トニ拘ラス遲滞ナク其情況ヲ所屬警察官署長ニ報告スヘシ

警察官署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ廳府縣長官ニ報告シ廳府縣長官ハ之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

附則

明治十五年內務省達乙第七十一號及明治十七年內務省達乙第三號ハ之ヲ廢止ス

### 短刀佩用ニ關スル件上申

大正十三年二月十八日  
十三警第三四號

大正十二年十月二十日勅令第四百五十號及同第四百五十一號ニ依リ警察官消防官竝ニ巡查服制改正ノ結果短刀ノ佩用ヲ擴張セラレ候處本縣ニ於テハ左記ノ者ニ對シ長刀ニテハ勤務上不便ト認メラルル場合ニハ便宜短刀ヲ佩用セシメ得ルコトト致度ニ付御認可相成度此段及上申候也

左記

- 一、停車場勤務ノ者
- 二、拳銃帶用者

- 三、雜沓取締ニ從事者
- 四、衛生、興行取締專務者
- 五、自轉車乗用者

(本號ハ勤務性質ノ如何ヲ問ハス總テ自轉車乗用ノ場合ヲ指スモノトス)  
 大正十三年二月十八日

内務大臣宛

神奈川縣知事

短刀佩用ニ關スル件  
 内務省神警第二一號

神奈川縣

大正十三年二月十八日附十三警發第三四號上申短刀佩用ノ件認可ス  
 大正十三年三月十四日

内務大臣 水野 鍊太郎

### ●拳銃帶用竝取扱ニ關スル件上申

大正十三年二月十八日附  
 十三警發第三五號

大正十二年十月二十日勅令第四百五十號及同第四百五十一號ニ依リ警察官消防官竝ニ巡查服制中改正ノ結果本縣ニ於テ左記ノ勤務ニ從事スル警察官吏ニ對シ必要アリト認ムル場合ニ於テ拳銃ヲ帶用セシメ其保管竝ニ拳銃ノ様式其他左ノ通り御認可相成様致度此段及上申候也

- 一、拳銃ヲ帶用セシムヘキ勤務

(神奈川縣)

- 1. 人、物、建造物、又ハ場所ノ警護
- 2. 天災事變ノ際ニ於ケル警戒
- 3. 犯人追捕、夜間ノ密行、警邏、巡視

#### 二、拳銃ノ保管

- 1. 警察部及署ニ銃器格納庫ヲ置キ拳銃ハ常時之ニ格納シ鎖鑰ヲ施スヘシ
  - 2. 格納庫ノ鍵ハ警察部ニ於テハ警務課長、署ニ於テハ署長又ハ分署長之ヲ保管ス
  - 3. 拳銃ハ部署毎ニ番號ヲ附シ豫メ其擔任者ヲ定メ修繕清掃ノ責ニ任セシムヘシ
- 三、拳銃ノ様式其他
- 1. コルト式大型若クハ小型拳銃トシ大型ハ制服員小型ハ私服員ニ區別シテ携帯セシムルヲ原則トス
  - 2. 特ニ命アル場合ノ外洋裝者ハ上衣下、和裝者ハ懷中等ニ携帯シ外部ニ露出セシメサルヲ要ス
- 追テ使用ニ關スル詳細ノ規定ハ近ク本省ニ於テ之ニ關スル規定ヲ制定セラルル趣ニツキ其上ニ於テ制定致度考ニ有之カ夫迄ハ巡查帶劍心得ニ準據致サセ度キ考ニ有之候
- 大正十三年二月十八日

内務大臣氏名宛

神奈川縣知事

拳銃帶用竝ニ取扱ニ關スル件  
 内務省神警第二二號

神奈川縣

大正十三年二月十八日附十三警發第三五號上申警察官吏ニ對シ拳銃ヲ帶用セシムル件認可ス  
 大正十三年三月十九日

内務大臣 水野 鍊太郎

### ●警察官消防官竝巡查服裝規則ニ關スル件

去月九日付本號ヲ以テ手套ハ常裝ノ場合ニ限リ白色ノ外鼠色ヲ用ヒテ差支ナキコトニ決定致候ニ就キテハ略裝ノ場合ニ於テモ之ニ準スルコトニ致候間重ネテ依命通牒候也

大正十二年六月二十三日  
十二番收第二八四九號

### 第十節 休暇、病氣

● 休暇日 明治六年一月七日  
太政官布告第二號

改正 明治六年六月太政官達第二二一號  
自今休暇左ノ通被定候事

一月一日ヨリ三日迄 十二月二十九日ヨリ三十一日迄

● 日曜日休暇ノ件 明治九年三月十二日  
太政官達第二十七號

改正 大正一一年七月閣令第六號

従前一六日休暇ノ處來ル四月ヨリ日曜日ヲ以テ休暇ト被定候條此旨相達候事

〔院〕省〔使〕廳府縣

● 休日ニ關スル件 大正元年九月四日  
勅令第十九號

改正 大正二年七月勅令第二五九號

朕休日ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭

一月三日  
一月五日

新年宴會

紀元節 二月十一日

神武天皇祭 四月三日

明治天皇祭 七月三十日

天長節 八月三十一日

天長節祝日 十月三十一日

神嘗祭 十月十七日

新嘗祭 十一月二十三日

春季皇靈祭 春分日

秋季皇靈祭 秋分日

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治六年太政官布告第三百四十四號ハ之ヲ廢止ス

● 休日ニ關スル件 大正二年八月  
官丑收第一九六〇號ノ一知事官房主事通牒

曩ニ休日ニ關スル勅令ヲ改正シ天長節ノ外ニ十月三十一日ヲ以テ天長節祝日ト定メラレ宮中ニ於テモ天長節ニハ皇室祭祀令ニ依ル賢所、皇靈殿、神殿ニ於ケル天長節祭ノミ行ハセラレ拜賀參賀賀表捧呈及宴會等ハ天長節祝日ニ於テ行ハセラレルコトニ御治定相成候ニ付テハ各廳ニ於テモ自今右ノ趣旨ニ依リ八月三十一日ハ一般休日トシテ聖壽ヲ奉祝スルニ止メ祝賀、祝砲、勅語捧讀式、觀兵式、滿體飾夜會、其他從來天長節ニ行ヒタル儀禮式典ハ總テ十月三十一日ニ舉行相成可然旨其筋ヨリ通牒有之候條依命此段及通知候也

● 官員父母ノ祭日ニ休暇ヲ賜フ

明治六年九月十四日  
太政官達第三百十八號

自今諸官員父母ノ祭日ニハ休暇ヲ賜リ候此旨相達候事

### ●服忌令武家ノ制ヲ用ヒ京家ノ制及産穢混穢廢止

明治七年十月十七日  
太政官布告第百八號

服忌ノ儀追テ被 仰出ノ品モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩様ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

明治五年二月二十五日  
太政官第五十六號布告

自今産穢不及憚候事

明治六年二月二十日  
太政官第六十一號布告

自今混穢ノ制被廢候事

(參考)

明治七年十一月十八日(京都府何)

服忌令ノ儀ハ追テ被仰出ノ品モ可有之云々本年第百八號ヲ以テ御布告相成右武家制服忌令ノ儀ハ元祿年中改正元文中増補ノ別冊相用ヒ可然哉爲念伺

(別冊)

服忌令

一 父母 忌五十日 服十三月〔閏月チカソヘス〕

一 養父母 忌三十日 服百五十日

遺跡相續〔或ハ分地配當〕ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ異姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之實方

ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類ハ服忌無之遺跡相續セ〔ス或ハ分地配當セ〕サル養子ハ同姓ニテモ異姓ニテモ養父母ハ定式ノ通忌服可受之養方ノ兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之

一 嫡母 忌十日 服三十日

對面無之候ハ、不可受服忌通路致シ候ハ、對面無之共服忌可受之父死去ノ後他へ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ〔妾ノ子〕不可受服忌 但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之

一 繼父母 忌十日 服三十日

初メヨリ同居セサレハ無服忌

父死去ノ後繼母他へ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌 但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之

一 離別之母 忌五十日 服十三月〔閏月チカソヘス〕

一 夫 忌三十日 服十三月〔閏月チカソヘス〕

一 妻 忌二十日 服九十日

一 嫡子 忌二十日 服九十日

家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス

一 末子 忌十日 服三十日

養子ニ遺シ候テモ服忌差別ナシ家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一 養子 忌十日 服三十日

家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一 夫之父母 忌三十日 服百五十日

一 祖父母 忌三十日 服百五十日

一 母方 忌二十日 服九十日

離別セラレ候祖母モ服忌無別儀

一 曾祖父母 忌二十日 服九十日

- 母方ニハ服忌無之 但シ遠慮一日
- 一 高祖父母 忌十日 服三十日
- 母方ニハ服忌無之 但シ遠慮一日
- 一 伯叔父姑 忌二十日 服九十日
- 母方 忌十日 服三十日
- 父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之
- 一 兄弟姉妹 忌二十日 服九十日
- 別腹タリトイフトモ服忌ニ無差別
- 一 異父兄弟姉妹 忌十日 服三十日
- 一 嫡孫 忌十日 服三十日
- 嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十日十三月ノ服忌可受之此外ノ親類服差忌別ナシ曾孫玄孫タリトイフモ同例也
- 一 末孫 忌三日 服七日
- 女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス娘方ノ孫服忌同前
- 一 曾孫玄孫 忌三日 服七日
- 娘方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之
- 一 從父兄弟姉妹 忌三日 服七日
- 父ノ姉妹ノ子並母方モ服忌同前
- 一 甥姪 忌三日 服七日
- 姉妹ノ子モ服忌同前
- 一 異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ服忌可受之
- 一 七歳未満ノ小兒ハ無服忌
- 父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異姓ニテモ一日遠慮日數過承候ハ、追テ不及遠慮 但シ八歳ヨリ定式ノ

服忌可受之

附七歳未満ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共開付ル日ヨリ五十日遠慮スヘシ

一 閉忌之事

遠國ニオキテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ開付ル日ヨリ忌五十日服十三月此外ノ親類ハ開付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前

一 重ル服忌之事

父ノ服忌イマタ不明内母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十三月ノ服忌可受之オモキ服忌ノ内カロキ服忌アテテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之

〔穢之事〕

〔一 産穢〕 〔夫七日〕 〔婦三十五日〕

〔遠國ヨリ告來七日過キ候ハ、穢無之七日ノ内承リ候ハ、殘ル日數ノ穢タル可シ血荒流産同斷尤モ妾ノ産穢ノ時モ同例〕

〔一 血荒〕 〔夫七日〕 〔婦十日〕

〔一 流産〕 〔夫五日〕 〔婦十日〕

〔形體有之ハ可爲流産形體無之ハ可爲血荒〕

〔一 死穢〕 〔一日〕

〔家ノ内ニテ人死候時一間ニ居合候ハ、死穢可受之敷居ヲ隔候ヘハ穢無之一間ニ居合候トモ不存候ヘハ穢無之二階ニテモ揚リ口敷居ノ外ニ有之候ヘハ穢無之候家ナキ所ニ死人有之時ハ其骸有之地計リ穢候家主死去候テモ死穢ノ穢差別無之死後其所ヘ參リ候者ハ骸有之候共踏合ノ穢也〕

〔一 踏合〕 〔行水次第〕

〔一 改葬〕 〔遠慮一日〕

〔子ハ不殘遠慮 但シ不承候ハハ追テ不及遠慮候忌掛リ候親類改葬ノ場ヘ出候者ハ遠慮ス可シ忌不掛親類ハ其場

〔出候共不及遠慮候改葬ノ主ニナリ候ハ、他人ニテモ一日遠慮ス可シ〕

〔附堀起シ候日ヨリ葬候迄日數有之候ハ、子ハ不殘堀オコシ候日ト葬候日ト二日ノ遠慮ナリ他人ニテモ改葬ノ主ニナリ候者ハ同斷 但シ堀起シ候翌日ヨリ葬リ候前日マテハ幾日ニテモ不及遠慮候〕

〔改葬ノ儀遠所ニテ申付日限存候ハ、其日遠慮スヘシ日限不存相濟候後承候ハ、追テ不及遠慮候〕

元祿六年十二月二十一日

追加

一 養父死去以後養母同居セストイフトモ他へ不嫁候へハ服忌可受之他へ嫁スルニ於テハ服忌無之

一 養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハ、嫡母ニ准シ其親類服忌無之

一 父ノ後妻ト通路イタシ候ハ、對面無之トモ繼母ノ服忌可受之

一 義絶ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絶トイフトモ服忌別儀ナシ

一 女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入聲ヲ取家督相續ノ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之

一 婚儀イマタ相調ハサル内ニテモ祝儀取カハシ候へハ夫婦相互ニ定式ノ忌ノ日數可遠慮 但シ服忌無之

〔父ノ妻服忌無之〕

〔一 妾ハ服忌無之 但シ子出生ニオイテハ三日遠慮血荒流産有之計リニテハ妾死去ノ時遠慮無之〕

一 遺跡相續セ「ス或ハ分地配當セ」サル養子養方ノ兄弟姉妹他家へ養ハル、者ニハ相互ニ服忌無之

一 同姓ニテモ異姓ニテモ一人へ兩様ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之

一 名字ヲ授候計ニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ通服忌可受之

一 離別ノ女ハタトヒ實子有之他へ不嫁候トモ夫婦ノ縁キレ候故相互ニ服忌無之

一 子無之死去候者名跡相續ノタメ新規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歳未満ニ候ハ、服忌無之五十日可遠慮死去候者ノ親類ハ相互ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之

一 養子願書差出之「老中」請取之其以後死去候ハ、家督不定内ニテモ養父母計リ五十日十三月ノ服忌可受之

一 半減ノ日數三十日ハ十五日ナリ餘ハ准之

但シ七日ハ四日也三日ハ二日也

一 一日ト有之ハ當夜ノ「九ツ時」ヨリ明ル夜ノ「九ツ時」マテ也「九ツ前」ニ候へハタトヒ「四ツ半」過ニテモ一日ノ積也

右十六箇條元祿六年追加ノ内也

今般聊省略而書載之

〔妾腹ノ子〕其父嫡母繼母ヲ以テ養母ヲ定ムル時ハ忌五十日服十三月可受之母方ノ親類ノ服忌養實ノ差別家督相續ノ養子ノ如クタル可シ嫡母ノ子繼母ノ服忌ニ於テモ父ノ極メ次第右ニ同シ 但シ繼母方ノ親類ニハ服忌無之

一家督相續ノ養子タル者實方ノ養母嫡母繼母服忌無之「分地配當セサル」養子ハ右ノ服忌可受之

一 養方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハル、者ハ半減ノ服忌可受之實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹他家ヨリ養ハル、者モ服忌無差別

一 其身養子ニ參リ實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹ノ内人ニ養ハル、トイフトモ其儘半減ノ服忌タル可シ

一 父養子ニテ其子人ノ養子ニ參リ候時ハ父ノ父母兄弟姉妹養實トモニ半減ノ服忌可受之或ハ父モ養子其身モ養子ノ時ハ養父ノ實方服忌無之若シ實方ニ付テ半減ノ服忌可受續有之ハ服忌可受之

一 半減ノ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟姉妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑兄弟姉妹モ同例

一 嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如クタル可シ

右七箇條更増補之

元文元年九月十五日

〔太政官指令〕明治八年一月七日

何之通

但産穢及ヒ混穢不及憚儀ハ明治五年第五十六條同六年第六十一號布告之通可相心得

### ● 巡查看守休暇概則

明治十八年七月三十日 内務省違番外

改正 明治二八年一月内務省訓令第一號

警視廳 北海道廳 府縣 東京府  
ヲ除ク

巡查看守休暇概則左ノ通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届出此旨相違候事  
但本文ニ概網スル從前ノ指令ハ取消候事

巡查看守休暇概則

第一條 巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許サ、ルヘキモノナレトモ其勤務上差支ナキニ於テハ皆勤ノ者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與ルコトヲ得

第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ

一ヶ年間皆勤ノ者

三週間

半ヶ年間皆勤ノ者

壹週間

前項ノ外五箇年已上皆勤ノ者ニハ一週間以内十箇年已上皆勤ノ者ニハ三週間以内特ニ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス

第四條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス

●巡查休暇細則

明治三十一年三月三十一日  
廳訓第八十一號

改正 明治三十四年五月廳訓第六八號

警察部 警察署 警察分署 巡查教習所

巡查休暇細則左ノ通り相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但シ明治十八年八月已第三十六號巡查休暇細則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

右訓令ス

巡查休暇細則

第一條 巡查ハ巡查看守休暇概則及ヒ此細則ノ規程ニ依リ休暇ヲ與フ

第二條 皆勤者ニハ豫メ別記様式ノ休暇證ヲ下付スルモノトス但シ半箇年若クハ五箇年皆勤ノ者ニ休暇證ヲ下付シタル後休暇ヲ爲サスシテ一箇年若クハ十箇年皆勤シタルトキハ之ニ對スル休暇證ヲ下付シ前ニ下付シタル休暇證ヲ返納セシムヘシ

第三條 休暇證ハ警察部課長警察署長分署長及巡查教習所長ニ於テ之ヲ下付シ出勤表ニ皆勤期間及下付年月日ヲ朱記スヘシ

第四條 皆勤日數ハ新任者又ハ缺勤者出勤ノ當日ヨリ起算ス

第五條 左ノ事項ニ係ル缺勤ハ缺勤日數ニ算入セス

一 慰勞休暇

二 職務上傳染病ニ罹リ療養中

第六條 左ノ事項ニ係ル場合ハ缺勤及皆勤日數ニ算入セス

一 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者被召集中若クハ休職中

二 傳染病ニ關シ其遮斷若クハ隔離中

三 忌引中

四 私事旅行中天災ニ據リ服務セサルモノ

五 看護其他特許ヲ得テ服務セサルモノ

第七條 休暇ハ皆勤滿期ノ翌日ヨリ起算シ左ノ區別ヲ以テ給與期トス

一 一箇年若クハ半箇年皆勤者ハ之ニ繼續スル一ヶ年若クハ半箇年間

二 五箇年又ハ十箇年皆勤者ハ無期限

第八條 休暇ハ課署所長ニ於テ事務ノ都合ニ依リ之ヲ認可スルモノトス

第九條 休暇ヲ爲サントスルモノハ休暇證裏面欄内ニ其年月日ヲ記入シ捺印シテ所屬課署所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 (削除)

第十一條 休暇ハ時宜ニ依リ之ヲ停止スルコトアルヘシ但シ此場合ト雖トモ給與期ハ第七條ニ依ル

第十二條 休暇ヲ以テ歸省又ハ旅行セントスルトキハ更ニ所屬課署所長ノ許可ヲ受クヘシ

第一編 警務 第二章 庶務

第十三條 休暇中ト雖トモ出火其他非常事變アルトキハ速ニ所屬課署所又ハ現場ニ參集スヘシ  
第十四條 休暇満期及給與期限満了シタルトキハ直ニ休暇證ヲ返納スヘシ

用紙西ノ内四ツ切

(特別) 休暇證

明治何年何月何日ヨリ	明治何年何月何日迄	何箇
年皆勤ニ付何週間ノ	休暇ヲ與フ但左ノ事項ヲ違	守スヘシ
一	休暇ヲ爲サントスルトキハ本證裏面欄内ニ	其年月日ヲ記入シ捺印ノ上所屬課署所長ノ
二	認可ヲ受クヘシ	更ニ所屬課署所長ノ認可ヲ受クヘシ
三	休暇中ト雖トモ出火其他非常事變アリタル	トキハ速ニ參集スヘシ
四	休暇満日及ヒ給與満期ニ至リタルトキハ速	ニ此證ヲ返納スヘシ
年月日	官氏	名印

表

裏

署	長	印	年	月	日	年	月	日	認	巡	印	查

● 年末年首ノ休暇ハ警察官吏ニ及ハス

明治二十二年十二月 令第八六七號

來ル二十八日御用仕舞ヨリ一月三日迄ノ休日ヲ以テ旅行云云届出候向モ有之候得共元來警察ハ無休不眠ノ機關ニシ

テ警察署分署ノ如キハ他官衙ト異ナリ休日ナルモ休憩スヘキ筈ニ無之依テ縱令年首ト雖モ素ヨリ平生ノ通りナラサ

● 巡查病氣引籠手續

明治三十三年八月 示令第一三三號

- 第一條 巡查疾病ニ罹リ引籠治療セントスルトキハ警察醫ノ診斷書ヲ添ヒ所屬課署所ニ届出ツヘシ
- 第二條 警察醫ノ診斷ヲ受ケントスル時ハ不得已場合ヲ除キ出務時限三十分前ニ其ノ旨所屬課署所ニ申出ツヘシ
- 第三條 其ノ輕症ニテ歩行差支ヘナキ者ハ出頭ノ上本條ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 所屬課署所長前條ニ依リ警察醫ノ往診ヲ要スルモノト認ムルトキハ當日午前十一時迄ニ受信者ノ住所氏名ヲ警察部警務課ニ通知スヘシ
- 第五條 其ノ歩行差支ナキ者ニハ受診書ヲ附與シ警察部執務時間内警務課ニ出頭受診セシムヘシ
- 第六條 警務課ニ於テ前條往診ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ警察醫ニ通知シ即日往診セシムヘシ
- 第七條 公暇日又ハ警察部執務時間外ニ於テ第二條ノ申出テアリタルトキハ所屬課署所長ハ一應其ノ實否ヲ取調ヘ事實引籠ヲ要スルモノト認メタルトキハ當日限り警察醫ノ診斷ヲ受ケスシテ引籠ヲ許可シ其ノ病狀疑ハシキトキハ適宜開業醫ヲ指名シテ診斷ヲ受ケシムヘシ
- 第八條 公暇日又ハ警察部執務時間外ニアラスト雖モ午前十一時後往診ヲ要スル場合又同シ
- 第九條 職務上ノ疾病及轉地療養ヲ要スルモノ若シクハ病院ニ入りテ治療中ノ者ノ外長日間引籠ヲ要スル場合ニハ三日目毎ニ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 引籠治療中ハ外出ヲ許サス但シ止ムテ得サル事情アルトキハ豫メ所屬課署所長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 郡部在勤巡查ハ第一條第七條ノ外之ヲ適用セス但シ診斷書ハ最寄り開業醫ニテ差支ヘナシ

● 巡查休暇ニ關シ出向者ノ前任地勤務ヲ通算ノ件

大正二年四月二十一日 警發第五七號

第一編 警務 第二章 庶務



巡查ノ休暇ニ就テハ夫々規定有之候モ其ノ他府縣ヨリ出向ニ係ルモノニ對スル取扱ニ就テハ往々質議ノ向モ有之候處自今右ノ前任地廳府縣ニ於テ附與セル休暇證ハ引續キ其ノ效力ヲ認メ同時ニ出向以前ノ皆勤日數ハ本縣就職後ノ皆勤日數ニ通算スルニトニ決定相成候條御了知相成度此段依命及通牒候也

● 巡查慰勞休暇ニ關スル件

大正七年十一月二十日  
午警發第二七八號

從來巡查慰勞休暇賜ニ付隔日勤務者ニ對スル取扱振各署區々ニ涉リ居候趣ニ有之就テハ爾今隔日勤務者ニシテ二當番日以上連續休暇ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ其ノ間ニ於ケル非番日ハ仍休暇日數ニ算入スルコトニ決定相成候條御了知相成度尙又往々十箇年皆勤者ニ對シテ休暇證ヲ下附スルニ當リ前ニ下附セル五箇年皆勤ニ對スル休暇證ノ引上テ爲サス漫然無期限ノ文字ニ拘泥シ重テ當該休暇證ヲ下附シ又ハ五箇年ノ休暇證ニ依リ實際賜暇ノ者ニ對シテモ尙皆勤ト認メ十箇年ニ對スル休暇證ヲ下附セラレ尙有之哉ニ及聞候右果シテ事實ナルニ於テハ全然違法ノ取扱ニ有之候條爾今休暇細則第二條但書ノ規定ニ依リ御取扱ノ上現ニ下附シタル者ニ對シテハ此ノ際規定ニ適合スル條夫々整理相成候條依命此段及通牒候也

● 巡查引籠届ニ關スル件

大正十三年六月三十日  
十三警發第〇八〇號

近來巡查ノ引籠缺勤スルニ當リ各署ニ配置セル防疫醫其他開業醫ニ受診ヲ乞ヒ診斷書ヲ添付届出セルヲ認許シ居ル哉ニ及聞候モ本件ノ如キハ署員紀律ノ張弛ニ關係スルモノト認メラレ候條明治三十三年八月示令第三百三十三號巡查病氣引籠手續ニ據リ必ス之カ履行ニ努メラレ度依命此段及通牒候也

● 巡查休暇細則ヲ消防手ニ準用ノ件

大正九年四月二十三日  
訓令第二十八號

警察署 警察分署 消防署

明治三十一年三月三十一日三廳達訓第八十一號巡查休暇細則ハ判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ニ之ヲ準用ス  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 巡查病氣引籠手續ヲ消防手ニ準用ノ件

大正九年一月二十三日  
訓示甲第二號

明治三十三年八月示令第一三三號巡查病氣引籠手續ハ判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ニ之ヲ準用ス

● 警部補以上旅行等ノ場合ニ於ケル手續ニ關スル件

大正十三年二月七日  
十三警發第二二號警務課長

警察署長消防署長宛

警部補以上ノ者休暇ヲ利用シテ旅行セムトスル場合ハ前以テ知事ニ願出テ許可ヲ得タル後旅行スヘキ筋合ナルニ近來往々ニシテ願書ヲ提出セル儘許否ノ決裁ヲ得サル以前ニ旅行スル向キアリ從テ願書到着力既ニ出發後ニ相成事不勘官紀上不都合ト認メラレ候ニ付自今篤ト御注意相成度依命此段及通牒候也  
追テ急迫ノ場合ハ電話モ有之ニツキ一應許可ヲ得ル様勵行相成度

### 第三章 會計

#### 第一節 會計規則

##### ●會計法

大正十年四月八日  
法律第四十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル會計法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
會計法

##### 第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 毎會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

##### 第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一 歳入豫算明細書

二 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各自ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出

〔神奈川縣〕

スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限り主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命ジ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歳入金、歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限り前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

第一編 善務 第三章 會計

七八五

歳入豫算額

一 關定済歳入額

収入済歳入額

不納缺損額

収入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

支出済歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

一 歳入決算明細書

二 各省決算報告書

三 國債計算書

第六條 歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條 數年ナ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ

經費所屬年度ノ毎項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル歳入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出済歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スチ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章 時効

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時効ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサル

本ニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律

本ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受ケルニ非ザンハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各處ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得  
特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年十二月勅令第四百八十六號ヲ以テ同十一年四月一日ヨリ施行)

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出並本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時效ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●會計規則

大正十一年一月九日 勅令第一號

朕會計規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
會計規則

第一章 總則

第一節 會計年度所屬區分

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
- 二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 三 俸給、給料、手当、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
- 五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ除クノ外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條 毎年度所屬歳入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲グルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入チ爲スコトヲ得

- 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ
- 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ

三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ、  
毎年度所屬歳出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ  
總豫算ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歳入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ  
歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ク所  
ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ  
前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テ  
ハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及  
會計検査院ニ送付スヘシ

〔神奈川縣〕

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支出

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏  
大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之  
ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ  
之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三  
十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十五條 大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共  
ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十六條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會  
常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝  
國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第七節 第一編 警務 第三章 會計

第七九一

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結ブノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收入

第一節 徵收

第二十八條 歳入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各處ノ長ヲ以テ之ニ充ツ

各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ前項ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 歳入徵收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徵收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第三十條 歳入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 歳入徵收官租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納済ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第二節 收納

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收済ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報告

第三十七條 歳入徵收官ハ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歳入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ毎月徵收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一節 總則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節 小切手ノ振出

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除ク外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條 支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間満了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

〔神奈川警〕

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲ケル經費ニ限ル

- 一 陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費
  - 二 陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費
  - 三 陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費
  - 四 官船ニ屬スル經費
  - 五 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
  - 六 運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
  - 七 廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 八 場所ノ一定セサル事務所ノ經費
  - 九 各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 十 監獄作業賞與金
  - 十一 囚人及刑事被告人押送費
  - 十二 證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與
- 第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル
- 一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得
  - 二 臨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り成ルヘク分割シテ交付スヘシ
- 第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲ケル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ



掲ケル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價
- 二 外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價
- 三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徴兵旅費
- 四 運費
- 五 外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
- 六 政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
- 七 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
- 八 外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
- 九 交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
- 十 軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費
- 十一 外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
- 十二 補助金
- 十三 諸謝金

第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲ケル經費ニ限ル但シ第三號ニ掲ケル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 旅費
  - 二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
  - 三 補助金又ハ補給金
- 第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲ケル官署ノ經費ニ限ル
- 一 在外各廳
  - 二 選信官署

- 三 區裁判所出張所
  - 四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署
- 前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歳出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條 各省大臣ハ左ニ掲ケル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲ケル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

- 一 旅費
- 二 埋葬費
- 三 在外公館ニ於ケル難民貸與金
- 四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲ケル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

- 一 鐵道官署
  - 二 選信官署
- 前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前ノカ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第七節 報告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ  
第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及收入支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對スル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲ケル事項ヲ示スヘシ

- 一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
- 二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算
- 三 最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ  
繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲ケル事項ヲ示スヘシ

- 一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 二 定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
- 三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 四 定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添付スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一編 警務 第三章 會計

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲ケル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三 購買ニ付スルトキ

四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ 指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登録前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既済部分又ハ物件ノ既済部分ニ對シ完済前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトス

〔附則〕

ルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏又ハ技術者ヲ命ジ事實ヲ測定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ 前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既済部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既済部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完済部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下ケル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セザリシ者

前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第一百條 競争ハ第九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第一百條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急テ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 競争入札ニ付スル事項
- 二 契約條項ヲ示ス場所
- 三 競争執行ノ場所及日時
- 四 入札ノ保證金額

第一百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第一百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無効トス

第一百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第四百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代

リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第一百八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第二百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第一百九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ賣賣リニ付スルコトヲ得

第三節 指名競争契約

第一百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得

一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ付スルノ必要ナキトキ

二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ

三 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

四 豫定賃借料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ

六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ

隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス

第一百十一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第三百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ

第一百十二條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第一百十三條 第九十七條乃至第一百一條、第一百四條乃至第一百七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

第一百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ

二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ

三 政府ノ行爲ヲ秘密ニスルノ必要アルトキ

四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ

五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

六 豫定賃借料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

- 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
  - 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
  - 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
  - 十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ
  - 十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
  - 十二 農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
  - 十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
  - 十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ
  - 十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
  - 十六 道府縣―市―町―村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈善ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
  - 十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ
  - 十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
  - 十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ
  - 二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
  - 二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ産物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
  - 二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ
  - 二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ間屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ
- 前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
- 前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
- 第百十五條 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限り該價格又ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徴スヘシ

第百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第百二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依リニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第百二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第百二十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第百二十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總則

第百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第百二十七條 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル

事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ應ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第二百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第二百三十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第二百三十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責任

第二百三十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二百三十三條 代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第二百三十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第二百三十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責任ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス  
會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第二百三十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第二百三十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ検査ヲ受ケルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第二百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定書ニ通テ作成シ検査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人之ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第二百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第二百四十條 租稅其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入徵收官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第二百四十一條 資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第二百四十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第二百四十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第二百四十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必要アリト認ムル

トキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ  
第四百四十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百四十條乃至第四百  
十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百四十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ  
命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ  
出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ  
前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ檢  
査判決ヲ爲スヘシ

第四百四十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス  
第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明  
第四百四十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ  
第四百四十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑  
ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ  
之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ  
大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調製シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五百十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑  
書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ  
大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五百十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行  
ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル  
第十一章 帳簿

第五百五十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ  
第五百五十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額、不納缺損額  
及收入未済額ヲ登記シ歳出主計簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記  
スヘシ

第五百五十四條 歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ  
第五百五十五條 歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登  
記スヘシ

第五百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出済額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ  
第五百五十七條 各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘ  
シ

第五百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ  
第五百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム  
第六十條 日本銀行ハ左ニ掲グル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿  
二 支拂豫算額及支拂済額ヲ登記スヘキ帳簿  
三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿  
四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿  
五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿  
六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム  
第六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ  
第十二章 雜則

第六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ  
依ルヘシ

第六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム  
第六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
第六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則  
第六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

第一編 警務 第三章 會計

第一編 警務 第三章 會計

第一編 警務 第三章 會計

第一編 警務 第三章 會計

仕拂命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第二百一十一號  
金庫規則

明治二十三年勅令第二號

明治二十三年勅令第二十號

明治二十三年勅令第三十二號

明治二十三年勅令第三十五號

明治二十三年勅令第四號

明治二十三年勅令第九十八號

明治二十三年勅令第九十三號

明治二十三年勅令第二百七十三號

明治二十三年勅令第二百九十五號

明治二十四年勅令第一號

明治二十四年勅令第二十四號

明治二十四年勅令第七十五號

明治二十四年勅令第六十三號

明治二十六年勅令第五十一號

明治二十六年勅令第七十號

明治二十六年勅令第二百二十八號

明治二十七年勅令第四十號

明治二十七年勅令第七十六號

明治二十八年勅令第四百號

明治二十九年勅令第五百十八號

明治二十九年勅令第二百四十號

明治二十九年勅令第二百六十八號

明治二十九年勅令第三百七十三號

明治三十年勅令第十五號

明治三十年勅令第二十一號

明治三十年勅令第五十八號

明治三十年勅令第二百二十七號

明治三十一年勅令第三十七號

明治三十一年勅令第三十八號

帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森林原野並產物特別處分規則

明治三十一年勅令第七十四號

明治三十二年勅令第二十五號

明治三十二年勅令第二百六號

明治三十二年勅令第二百二十九號

明治三十二年勅令第三百三號

明治三十二年勅令第三百六十三號

明治三十二年勅令第三百七十五號

明治三十二年勅令第四百十三號

明治三十二年勅令第四百二十四號

明治三十二年勅令第四百三十七號

明治三十三年勅令第三十九號

明治三十三年勅令第二百八十號

明治三十三年勅令第三百四十二號

明治三十三年勅令第四百八號

明治三十四年勅令第八號

明治三十四年勅令第二百二十號

明治三十五年勅令第二百五號

第一編 警務 第三章 會計



第一編 郵務 第三章 會計

- 明治三十五年勅令第二百三十六號
- 明治三十六年勅令第二十三號
- 明治三十六年勅令第八十號
- 明治三十七年勅令第十號
- 明治三十七年勅令第十七號
- 明治三十七年勅令第五十四號
- 明治三十七年勅令第七十八號
- 明治三十七年勅令第二百十七號
- 明治三十八年勅令第二十二號
- 明治三十八年勅令第三十二號
- 明治三十八年勅令第三十五號
- 郵便電信及電話官署經費渡切規則
- 明治三十八年勅令第二百二十八號
- 明治三十八年勅令第二百一號
- 明治三十八年勅令第二百二號
- 明治三十八年勅令第二百六十五號
- 明治三十八年勅令第二百九十號
- 明治三十九年勅令第九十三號
- 明治三十九年勅令第一百一號
- 明治三十九年勅令第二百四十六號
- 明治三十九年勅令第二百七十號
- 明治四十年勅令第八十四號
- 明治四十年勅令第五十號
- 明治四十年勅令第二百二十七號

〔神奈川書〕

- 明治四十年勅令第二百六十一號
- 明治四十年勅令第三百四十一號
- 明治四十一年勅令第三百三十八號
- 明治四十一年勅令第五百五十八號
- 明治四十一年勅令第二百四十八號
- 明治四十二年勅令第三百一十一號
- 明治四十二年勅令第六十一號
- 明治四十二年勅令第二百二十六號
- 明治四十三年勅令第三百四十一號
- 明治四十三年勅令第四百八號
- 明治四十四年勅令第四百九號
- 明治四十四年勅令第六十一號
- 明治四十四年勅令第六十二號
- 明治四十四年勅令第五十六號
- 明治四十四年勅令第二百二十號
- 明治四十四年勅令第二百七十九號
- 明治四十四年勅令第二百九十二號
- 大正元年勅令第七號
- 大正二年勅令第三百三號
- 大正三年勅令第三號
- 大正三年勅令第三百三十五號
- 大正三年勅令第三百三十六號
- 大正四年勅令第五十五號

第一編 郵務 第三章 會計

- 大正四年勅令第七十八號
- 大正四年勅令第八十七號
- 大正四年勅令第九十五號
- 大正四年勅令第二百二十五號
- 大正五年勅令第四十五號
- 大正五年勅令第一百五十五號
- 大正五年勅令第一百六十二號
- 大正五年勅令第一百七十三號
- 大正五年勅令第一百八十八號
- 大正五年勅令第一百九十八號
- 大正五年勅令第二百十九號
- 大正六年勅令第五十二號
- 大正六年勅令第六十二號
- 大正六年勅令第八十一號
- 大正六年勅令第二百三十四號
- 大正七年勅令第二百二十二號
- 大正八年勅令第三號
- 大正八年勅令第二十六號
- 大正八年勅令第三百六十二號
- 大正九年勅令第二百二十五號
- 大正九年勅令第三百三十六號
- 大正九年勅令第五百四十七號
- 大正十年勅令第四百四十四號

大正十年勅令第四百二十八號

大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍舊ノ效力ヲ有ス

**第六十八條** 金庫ニ納付セシムル爲メ納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲メ納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

**第六十九條** 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

**第七十條** 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度支拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歳出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

**第七十一條** 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

**第七十二條** 大正十年度支出濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歳出額ニ併算スヘシ

**第七十三條** 大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

**第七十四條** 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

### ● 出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件

大正十一年五月三十日  
大藏省令第四十三號

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數量ニシテ「一」「二」「三」「十」「廿」「卅」ノ數字ハ「壹」「貳」「參」「拾」「貳拾」「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス  
前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年大藏省令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

### ● 國庫出納金端數計算法

大正五年一月二十九日 法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫出納金端數計算法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス  
命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セシム  
法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス  
附則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

### ● 國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件

大正五年三月三十一日 勅令第五十六號

朕國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 一 切手及印紙類賣下代金
- 二 沒入金、沒收金及犯罪ニ基ク追徵金
- 三 法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金
- 四 貨幣交換差金
- 五 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金
- 六 缺損補填金
- 七 切手貯金拂込金

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ  
流用スルコトヲ得サル費途ノ件

大正十二年六月十三日  
勅令第三百五號

朕大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
左ノ名稱ノ費途ニハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

- 一 俸給
- 二 機密費
- 三 交際費
- 四 宴會費
- 五 接待費
- 六 渡切費
- 七 新營費
- 八 補助費

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續

明治三十一年七月六日  
大藏省訓令第四十八號

改正 明治三十六年二月大藏省訓令第九號

警視廳 北海道廳 府縣 稅關 造幣局 稅務監督局 稅務署 專賣局  
(臨時沖繩縣土地整理事務局) 臨時稅關工事部

明治二十七年五月大藏省訓令第三十號歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續左ノ通改正ス

歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續

- 一 歳入徴收官ニ於テ納額告知書又ハ納額通知書發付ノ後科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シ之レカ訂正ヲ爲ストキハ徴收簿ニ訂正ノ記入ヲ爲シ其ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ヲ爲シタル月ノ徴收報告書ニ事由ヲ附シテ之ヲ掲記スル事
- 二 前項ノ歳入金ニシテ既ニ納額告知書又ハ送付書若クハ納付書ニ依リ金庫ニ於テ現金領收ノ後ナルトキハ歳入徴收官ヨリ又收入官吏ニ於テ現金拂込書ノ科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ收入官吏ヨリ關係金庫ニ之レカ訂正ヲ請求スル事  
但シ科目ノ訂正ニシテ租稅ト租稅外收入トニ關聯セサルモノハ此限ニアラス
- 三 (削除)
- 四 金庫ニ於テ第二項ノ訂正請求若クハ明治二十四年大藏省令第十一號ニ依リ歳入年度ノ訂正請求ヲ受ケタルトキハ直チニ現金出納簿歳入金各廳内譯簿其ノ他關係帳簿ニ之レカ訂正ノ記入ヲ爲ス事
- 五 仕拂命令官ニ於テ仕拂命令集合仕拂命令ヲ發行シタル後年度科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ年度科目所管廳訂正書ヲ金庫ニ送付スル事
- 六 金庫ニ於テ第五項訂正書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直チニ支出簿其ノ他關係帳ニ訂正ノ記入ヲ爲ス事
- 七 歳入歳出ノ誤記ヲ訂正スルハ總テ翌年度六月三十日限リトス但金庫ニ於テ訂正ヲ爲スハ翌年度六月三十日以前訂正請求書ヲ受ケタルモノニ限ル
- 八 經常部ト臨時部トノ誤記モ本令ニ準シテ訂正スル事

### ● 郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件

大正四年一月二十八日  
勅令第六號

改正 大正一二年三月勅令第六號  
朕郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便官署ハ各官廳ノ徵收スル歳入金ノ受入及日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ於テ支拂ヲ要スル歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得其ノ範圍及取扱ニ關スル規程ハ逓信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱規則

大正四年一月二十八日  
逓信省令第八號

改正 大正七年五月逓信省令第三五號、九年一〇月第九八號、一一年三月第一六號  
郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱規則左ノ通定ム

郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱規則

第一條 大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ニ於テ取扱フ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ハ左ニ掲ケルモノニ限ル

- 一 稅務官署ノ直接徵收スル國稅金
  - 二 北海道、府縣及稅務官署ノ收納スル國庫ノ諸收入金
  - 三 收入官吏カ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ送付スヘキ前二號ノ收入金
  - 四 市區町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金
  - 五 日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歳出金
- 第二條 前條第一號及第二號ノ國稅金及諸收入金ヲ國庫ニ納付セムトスル者ハ歳入ヲ徵收スル官吏ニ於テ其ノ納付場所ヲ特ニ限定シタル場合ヲ除クノ外其ノ歳入ヲ徵收スル官吏ノ在勤廳ト同一ノ道廳府縣内ニ在ル任意ノ郵便局ニ就キ之カ納付ヲ爲スコトヲ得
- 納人前項ノ納付ヲ爲サムトスルトキハ歳入ヲ徵收スル官吏ノ發シタル令書ニ現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ

第三條 市區町村又ハ收入官吏其ノ領收シタル歳入金ヲ日本銀行ニ送付セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ送付書又ハ拂込書ニ現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ

第四條 郵便局ニ於テ前二條ニ依リ現金ヲ受入レタルトキハ其ノ通知書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ

取纏郵便局ニ於テハ受入郵便局ヨリ送付ニ係ル通知書ヲ取纏メ之ニ日計表ヲ附シ當該歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ且別記書式ニ依リ受入金額ニ相當スル歳入金振替證券ヲ發行シ之ヲ取扱店タル日本銀行ニ送付シ受入金拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 前條ノ振替證券ニ對シテハ日本銀行本店ノ請求ニ依リ貯金局ニ於テ其ノ振替計理ヲ爲スヘシ

第六條 日本銀行所在地外ニ於テ支拂ヲ受クヘキ債主ニ於テ支出官ヨリ郵便局扱歳出金支拂通知書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ受領年月日ヲ記入シ記名調印ノ上之ヲ當該郵便局ニ差出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ支拂通知書ヲ金庫ヨリ送付ニ係ル各廳歳出金繰替拂案内書ニ對照シタル上之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第七條 前條ニ依リ郵便局ニ於テ歳出金ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ其ノ支拂通知書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ

取纏郵便局ニ於テハ拂渡郵便局ヨリ送付ニ係ル支拂通知書ヲ取纏メ之ニ日計表ヲ附シ當該日本銀行ニ送付シ之ニ對スル代リ金振替拂證書ヲ受取ルヘシ

貯金局ニ於テハ前項ノ代リ金振替拂證書ニ依リ日本銀行本店ヨリ其ノ代リ金ノ振替受入ヲ爲スヘシ

第八條 郵便局扱歳出金支拂發行ノ日ヨリ六十日以内ニ債主ヨリ拂渡ノ請求ヲキトキハ郵便局ハ繰替拂案内書ヲ所屬日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ期間經過後ニ於テ債主ヨリ拂渡ノ請求アルモ拂渡郵便局ハ當該日本銀行ヨリ繰替拂案内書ノ再送ヲ受ケルニアラサレハ之カ拂渡ヲ爲サス

第九條 債主ニ於テ郵便局扱歳出金支拂ヲ亡失シタルトキハ金額、番號、所屬年度、小切手ヲ當テラレタル日本銀行名、拂渡郵便局名、支拂通知書ヲ發行シタル官廳名ヲ記載シタル届書ヲ拂渡郵便局ニ差出スヘシ

拂渡郵便局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該日本銀行ニ廻付スヘシ

第十條 拂渡郵便局ニ於テ日本銀行ヨリ前條届書ニ對シ相當證明ヲ付シ之カ返付ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ債主ニ

通知シ適宜ノ受領證ヲ發シ第六條ノ例ニ依リ之カ拂渡ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(大正十一年選信省令第十六號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

従前調製ニ係ル歳入金振替證券ノ用紙ハ當分ノ内之ヲ訂正使用スヘシ

(別記略ス)

### ●郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程

大正四年一月二十八日  
大藏省令第一號

改正 大正四年七月大藏省令第一九號、一〇年六月第二三號、一二年三月第三號  
大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程左ノ通相定ム

- 第一條 大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ル歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ハ左ニ掲ケルモノニ限ル
  - 一 稅務署ノ直接徵收スル國稅金
  - 二 北海道廳、府縣、稅務署、稅務監督局ノ收納スル國庫ノ諸收入金
  - 三 收入官吏カ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ拂込ムヘキ前二號ノ收入金
  - 四 市(區)町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金
  - 五 日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歳出金
- 第二條 歳入徵收官(分掌官ヲ含ム以下同シ)ハ其ノ在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニ對シ前條第一號及第二號ノ國稅

金又ハ諸收入金ヲ徵收セムトスルトキハ納人ニ對シ第一號書式ノ納稅告知書又ハ第二號書式ノ納入告知書ヲ發スルコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ郵便局ヲ特ニ指定スルコトヲ得

納人カ前項ノ道廳府縣管外ニ在ルトキハ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲ指定スヘシ但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ郵便局ヲ指定スルコトヲ得

歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニシテ當該道廳府縣管外ノ郵便局ニ歳入金ヲ納付セムトスルトキハ前項ヲ準用ス

第三條 國稅滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第三號及第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添附スヘシ但シ收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第三號書式ノ納付書ヲ添付スルコトヲ要セス

第四條 納人前二條ノ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ受ケタルトキハ現金ニ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條 收入官吏カ領收シタル收入金ハ第五號書式ノ現金拂込書ニ依リ所屬歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ出納官吏事務規程第十八條乃至第二十條ノ規定ニ拘ハラス其ノ領收シタル金額ハ毎日之ヲ取經メ翌日限之ヲ拂込ムヘシ

第六條 市(區)町村ニ對シ稅務署ノ發付スル納額通知書ニ指定スヘキ國稅金ノ送付場所ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

市(區)町村ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號書式ノ送付書ヲ添ヘ前項指定ノ場所ニ送付スヘシ

第七條 郵便局ニ於テ納人又ハ市(區)町村ヨリ領收シタル國稅金又ハ諸收入金ニ付テハ歳入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書ニ依リ徵收簿ニ收入濟額ヲ登記スヘシ

第八條 收入官吏ハ第五條ニ依リ郵便局ニ拂込タル金額ハ日本銀行ニ拂込タル金額ト區別シテ現金拂込仕譯書ヲ作成シ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第九條 歳入徵收官ハ前條ノ報告ニ依リ徵收報告書現金拂込仕譯欄ニ登記シ郵便局出納官吏ノ取扱ヒタル現金振替拂込仕譯ニ付テハ前月迄拂込未済及差引翌月へ越高チ收入官吏ノ現金拂込仕譯中各相當欄ノ次ニ外書登記スヘシ

第十條 日本銀行ハ取纏郵便局出納官吏ヨリ第七號書式ノ各應歳入金振替拂込書ニ歳入金振替證券ヲ添ヘ拂込ヲ受ケタルトキハ歳入ニ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

日本銀行ハ前項ノ振替證券ニ依リ日本銀行本店ニ振替廻送ノ計算ヲ爲シ振替證券ハ之ヲ日本銀行本店ニ送付スヘシ

第十一條 日本銀行本店ハ前條歳入金振替證券ヲ貯金局出納官吏ニ提出シ該證券金額ニ相當スル小切手ノ交付ヲ受ケ日本銀行ヨリ振替廻送受入ノ計算ヲ爲スヘシ

第十二條 支出官ハ日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ對シ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲、青島及天津ニ在ル支出官(以下單ニ朝鮮等ノ支出官ト謂フ)内地ノ債主ニ支拂ヲ爲ス場合亦同シ

第十三條 支出官前條ノ規定ニ依リ支拂ヲ爲サシメトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ受取人ノ住所、氏名及何地郵便局ニ於テ支拂ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ其ノ小切手ノ支拂店ニ送付シ第八號書式ノ郵便局扱歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ朝鮮等ノ支出官ニ在リテハ該通知書中ノ取纏郵便局ニハ選信大臣ノ指定スル郵便局ヲ記載シ欄外餘白ニ「特扱」ノ印ヲ捺捺スルモノトス

第十四條 日本銀行前條ノ小切手ヲ受ケタルトキハ第九號書式ノ各應歳出金繰替拂案内書ヲ作成シ之ヲ指定ノ拂渡郵便局ニ送付スヘシ但シ朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲、青島及天津ニ在ル日本銀行(以下單ニ朝鮮等ニ在ル日本銀行ト謂フ)ハ該繰替拂案内書ノ送付ト同時ニ適宜ノ通知書ヲ日本銀行本店ニ送付スヘシ

第十五條 日本銀行ハ取纏郵便局ヨリ各郵便局ニ於ケル繰替拂渡濟ノ郵便局扱歳出金支拂通知書並日計表正本ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ歳出金ノ計算及日本銀行本店ヨリ振替廻送ノ計算ヲ爲シ之ニ相當スル振替拂込書ヲ作成シ取纏郵便局ニ送付スヘシ

第十六條 前項ノ郵便局扱歳出金支拂通知書ニシテ第十二條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ日本銀行本店ハ之ヲ朝鮮等ニ在ル日本銀行ニ送付スヘシ

第十七條 日本銀行國庫金取扱規程第三十三條及第四十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 日本銀行本店ハ貯金局出納官吏ヨリ第十四條振替拂込書ニ預託金拂込書ヲ添ヘ振替拂込ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ振替ノ計算ヲ爲シ歳出ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ振替廻送拂出ノ計算ヲ爲スヘシ

第十九條 朝鮮等ニ在ル日本銀行第十四條第二項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル郵便局扱歳出金支拂通知書ハ之ヲ調査シテ前條ノ手續ヲ爲シ日本銀行本店トノ間ニ於ケル振替受拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 本令ニ定ムルモノヲ除ク外支出官ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムル場合ノ取扱手續ニ付テハ支出官事務規程第九條乃至第十二條、第十四條、第十五條、第十七條及第二十九條乃至第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 本令施行ノ際現存スル用紙ハ當分ノ内ニテ取繕ヒ使用スルコトヲ得(書式略ス)

### 郵便官署ヲシテ取扱ハシムル歳入事務取扱方

大正四年二月十三日  
大藏省訓令第五號

北海道廳 府縣 稅務監督局 稅務署

- 一 本年一 大藏省令第一號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムル歳入事務取扱方左ノ通心得ヘシ
- 二 租稅外諸收入金ニ付金庫ヲ納付場所ニ指定セントスルトキハ歳入徵收官在勤廳所在地ヲ出納區域トスル金庫ニ限ルモノトス
- 三 收入官吏ノ領收シタル現金ノ拂込ヲ爲スヘキ金庫ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ前項以外ノ金庫ニ拂込ヲ爲スナ便

- 二 宜トスルトキハ該金庫ニ對シ振替同送ノ請求ヲ爲スヘシ
- 三 大正四年<sup>一</sup>逕信省令第八號第四條ニ依リ取纏郵便局ニ於テ金庫ニ對シ振替拂込ヲ爲シタル後歲入金ノ附屬年度、所管廳又ハ歲入徵收官ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ歲入徵收官又ハ收入官吏ハ明治二十四年<sup>五</sup>當省令第十一號及明治三十一年<sup>七</sup>當省訓令第四十八號ノ手續ニ準シ取纏郵便局ニ對シ誤謬訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

### ● 證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件

大正五年三月七日  
法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 租稅其ノ他ノ政府ノ歲入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシトキハ命令ヲ以テ定メタル場合ニ限り初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス此ノ場合ニ於ケル證券ノ處分ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 前項ノ規定ニ依リ關稅又ハ噸稅ヲ初ヨリ納付ナカリシモノト看做シテ徵收スル場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ内國稅徵收ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第三條 本法ニ依リ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得
- 市町村其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ證券金額ノ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其ノ事實ヲ具シ政府ニ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得
- 前項ノ申出アリタルトキハ政府ハ事實ヲ審査シ市町村ノ責任ヲ免除スルコトヲ得
- 第四條 本法中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ政府ノ歲入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年十二月勅令第二百五十四號ヲ以テ同六年一月一日ヨリ施行)

### ● 證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則

大正五年十二月二十一日  
大藏省令第三十二號

改正 大正一二年四月大藏省令第三六號

證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則左ノ通定メ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歲入金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ之ヲ納付スヘシ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ之ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第二條 出納官吏(出納員ヲ含ム以下同シ)、日本銀行又ハ市町村(北海道及沖繩縣ノ區、朝鮮ノ府)ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ歲入金ノ領收證書、歲入徵收官ニ對スル領收報告書又ハ領收通知書ニ「證券受領」ノ印章ヲ捺捺スヘシ歲入金ノ一部分ヲ證券ヲ以テ受領シタル場合ニ於テハ其ノ證券金額ヲ附記スルコトヲ要ス
- 第三條 受領シタル證券ハ遲滞ナク其ノ支拂人ニ呈示シ支拂ノ請求ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ市町村ノ受領シタル證券ニシテ左記各號ノ要件ヲ具フルモノハ其ノ裏面ニ第一號様式ノ朱印ヲ捺捺シ第二號様式ノ仕譯書ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得
  - 一 持參人ニ支拂ハルヘキモノニシテ其ノ支拂場所カ日本銀行本店、支店又ハ代理店所在地ニ在ルモノ
  - 二 日本銀行ニ到達後呈示期間又ハ有効期間ノ滿了迄ニ三日以上ノ餘裕アルモノ
- 出納官吏支拂保證ヲ要セサル旨ノ承認ヲ得タル納人ヨリ支拂保證ナキ小切手ヲ受領シタル場合ニ於テ之ヲ日本銀行ニ拂込マムトスルトキハ其ノ裏面ニ「無保證承認」ノ朱印ヲ捺捺スヘシ
- 第四條 出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ル證券中前條規定ノ印章ヲ捺捺セサルモノアルトキハ日本銀行ハ之ヲ受領テ拒絕スヘシ
- 第五條 大正五年勅令第二百五十六號第二條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ直ニ其



ノ支拂ナカリシ金額ニ相當スル領收濟額ヲ取消シタル出納官吏又ハ日本銀行ハ遲滞ナシ其ノ旨ヲ歲入徵收官(分掌官)ニ報告スルコトヲ要ス

出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ルモノニ付領收濟額ヲ取消シタルトキハ日本銀行ハ直ニ其ノ旨ヲ出納官吏又ハ市町村ニ通知シ該證券ヲ返付スヘシ

出納官吏又ハ市町村前項ニ依リ證券ノ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第六條 歲入徵收官(分掌官ヲ含ム以下同シ)ニ於テ出納官吏又ハ日本銀行ヨリ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ收入濟額ヲ取消スヘシ

歲入徵收官收入濟額ヲ取消シタルトキハ納人ニ對シ前ニ發付又ハ交付シタルモノト同一納期日ノ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ヲ送付スヘシ但シ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタル日カ歲入金ノ納期日又ハ督促狀若ハ督促書ノ指定期日後ニ屬スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村ニ於テ領收濟額ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 大正五年勅令第二百五十六號第三條ノ通知書ハ納人ヨリ證券ヲ受領シタル出納官吏、日本銀行又ハ市町村之ヲ發スヘシ

前項通知書ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル公告ハ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ但シ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ノ揭示場ニ七日間揭示シテ之ニ代フルコトヲ得

第八條 支拂ナカリシ證券ノ還付ヲ受ケムトスル納人ハ其ノ證券ヲ納付シタル官署、日本銀行又ハ市町村役場ニ就キ之ヲ請求ヲ爲スヘシ

出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ領收證書ヲ徵シ之ト引換ニ證券ヲ還付スヘシ

第九條 郵便ニ依リ納付シタル證券ニシテ受領スヘカラサルモノ又ハ受領シタル證券ニシテ偽造、變造若ハ違式ナルモノニ付テハ第五條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條 證券ノ呈示期間若ハ有効期間ヲ經過シタルカ爲支拂ヲ受ケルコトヲ得サルトキ又ハ證券ヲ亡失シタルトキハ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ハ證券ノ種類ニ從ヒ直ニ當該法規ノ定ムル所ニ依リ必要ナル手續ヲ爲シ支拂又ハ償還ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判上ノ行爲ヲ必要トスルトキハ出納官吏在勤官署ニ在リテハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル所屬官廳ニ、日本銀行ニ在リテハ大藏大臣ニ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シテ之カ處理ヲ申請スヘシ

市町村ハ第一項ニ依リ支拂又ハ償還ヲ受ケルニ先タチ之ニ相當スル金額ヲ日本銀行ニ送付スルコトヲ得

第十一條 亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有効期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ償還ヲ受ケルコトヲ得ザルシモノノ金額ニ付テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ避クヘカラサル事由ヲ證明スルニアラサレハ其ノ責任ヲ免カレルコトヲ得ス

第十二條 歲入徵收官ニ於テ大正五年大藏省令第三十號第二條ニ依リ承認ヲ爲ストキハ納稅告知書、納入告知書、納付書、拂込通知書又ハ即納通知書ヲ用キルモノニ在リテハ其ノ餘白ニ第三號様式ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第十三條 出納官吏、日本銀行又ハ市町村ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

市町村ハ受領證券仕簿ヲ備ヘ納人別ニ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十四條 鐵道、郵便電信電話官署ノ出納官吏ニ於テ受領シタル證券ニシテ第三條第一項但書ニ該當スルモノハ之ヲ日本銀行ニ預託シ又ハ郵便局過超金ノ振換拂込ニ充用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ拂込マレタル預託金又ハ郵便局過超金ニ付テハ日本銀行ハ其ノ證券ヲ現金ニ引換ヘタル後ニ非ラサレハ預託金額收證書又ハ郵便局過超金額收證書ヲ交付スルコトヲ得ス

(様式略ス)

●歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

大正五年十二月二十一日(總、大、副署) 勅令第二百五十六號

改正 大正一一年三月勅令第一六五號 朕歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大正五年法律第十號ニ依リ租稅其ノ他ノ歲入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ掲グルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル

一 小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノ

- 二 無記名國債證券ノ利札ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ
  - 三 官内省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納人ノ爲發行シタルモノ
  - 四 郵便通常爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ
- 前項ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有効期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絶スルコトヲ得
- 證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦前項ニ同シ但シ支拂場所カ受領者ノ拂込又ハ送付ヲ爲ス日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 證券ヲ呈示期間内又ハ有効期間内ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絶アリタルトキハ歳入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス
- 第三條 前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滯ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ
- 前項ノ通知書ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所、居所不明ナルトキハ通知書記載ノ要旨ヲ公告スヘシ
- 第一項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第四條 出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム
- 第六條 大藏大臣ハ證券ノ金額、種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得
- 主管大臣ハ前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタルモノノ外主管歳入ノ納付ニ付更ニ制限ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第七條 市町村ニ於テ大正五年法律第十號第三條第二項ノ規定ニ依リ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主管大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ主管大臣ニ送付スヘシ

第八條 本令中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

第九條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ第六條第二項ノ場合ニ於テハ主管大臣ヲ經由スルコトヲ要ス

本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附 則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治三十八年勅令第三十四號ハ之ヲ廢止ス

● 歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件第六條第一項ニ依リ證券ノ納付ニ關スル制限

大正五年十二月二十一日  
 大藏省令第三十號

改正 大正一一年四月大藏省令第三四號

大正五年勅令第二百五十六號第六條第一項ニ依リ證券ノ納付ニ關スル制限左ノ通相定ム

第一條 政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日付ヨリ一年ヲ經過セサルモノニシテ且裏書禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス

前項以外ノ小切手ハ左ニ掲クル銀行ニ宛テタルモノニシテ且振出人ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

一 特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行(本店及支店)

- 二 手形交換所ニ加入シタル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル第  
三號乃至第五號之ニ依テ)
  - 三 國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行
  - 四 道府縣本金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行
  - 五 朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫、廳地方費金取扱所又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行
  - 六 第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店
- 第二條** 第一條第二項ノ規定ニ依ル小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一口ノ歳入納付ニ使用スル其ノ合計金額百圓以上ナルトキハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス
- 一 日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルコト
  - 二 歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ
- 歳入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歳入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直ニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限リ前項第二號ノ承認ヲ與フルコトヲ得
- 第三條** 爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行(當該本店若ハ支店ニ限ル)ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス
- 第四條** 爲替手形ハ日本銀行ニ歳入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

附則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目、制限及場所

大正五年十二月二十一日  
大藏省令第三十一號

改正 大正一一年四月大藏省令第三十五號  
第一條 大藏省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

- 一 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ左ニ掲クル歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
  - 二 間接國稅犯則者納金及間接國稅犯則者處分費辨納金
  - 三 關稅法第九十四條ノ規定ニ依ル納金
- 第三條** 郵便局ニ於テ取扱フ歳入ハ左ニ掲クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス
- 一 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ニシテ納付スヘキ郵便局所在地ノ手形交換所ニ加入セサル銀行ニ宛テタルモノ但シ其ノ手形交換所ニ加入セル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク
  - 二 郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ
  - 三 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在ラサルモノ
- 第四條** 町村又ハ戸長ニ於テ徵收スル歳入ハ政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クル町村ノ徵收スル歳入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 市又ハ區ニ接續スル町村
  - 二 大正五年大藏省令第三十號第一條ニ掲ケタル銀行ノ所在地タル町村
- 附則  
本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年十二月二十八日  
內務省令第十六號

- 第一條** 內務省主管ニ屬スル一般會計及樺太廳特別會計ノ歳入ハ總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得
- 第二條** 小切手又ハ爲替手形ハ左ニ掲クル歳入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 一 科料及過料
- 二 間接國稅犯則者納金及間接國稅犯則者處分費辨納金
- 第三條** 樺太廳郵便局ニ於テ取扱フ歳入ハ左ニ掲クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス

一 小切手

二 郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ  
三 小切手、郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在ラザルモノ

附 則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年十二月二十九日  
司法省令第三十五號

改正 大正二年六月司法省令第一四號

第一條 司法省主管ノ歳入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第二條 政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ爲替手形ハ罰金、科料、過料、刑事追徴金、訴訟費用及非訟事件ノ費用ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件

大正九年六月二十四日  
勅令第九十號

改正 大正二年五月勅令第二三六號、六月第二八八號

朕印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ニ納ムヘキ手数料、罰金、科料、過料、刑事追徴金、訴訟費用、非訟事件ノ費用及少年法第六十一條ノ規定ニ依リ徵收スル費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ得但シ印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手数料

ノ種目ハ主務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二條 法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入金ヲ納ムルトキハ收入印紙ヲ用ウヘシ

收入印紙ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 收入印紙ハ郵便局所、郵便切手賣捌所又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク賣捌ニ關スル規程ハ逓信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官、關東廳所轄地域以外ノ支那ニ在リテハ外務大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第四百五十二號

明治三十一年勅令第四百十號

明治三十二年勅令第二十六號

明治三十二年勅令第五十六號

明治三十八年勅令第二百二十七號

明治四十年勅令第三百四十二號

明治四十二年勅令第四十一號

● 内務省主管事項ニシテ收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料

料種目

明治三十年十月十一日  
内務省令第二十八號

改正 明治三十二年五月内務省令第一五號、七月第三〇號、三十八年六月第二〇號、三十九年六月第六號、一十一月第三五號、大正五年三月第三號

左ノ種目ノ手数料又ハ代價ヲ收入印紙ヲ以テ納ムルトキハ其ノ金額ニ相當スル印紙ヲ願書其ノ他ノ書類ニ貼用スヘ

一 醫術開業試驗手数料

一 藥劑師試驗手数料

- 一、藥品其ノ他検査手数料
- 一、藥品其ノ他再検査手数料
- 一、醫術開業免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)
- 一、藥劑師免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)
- 一、文官試験手数料
- 一、版權登録再度下付手数料
- 一、版權登録訂正手数料
- 一、版權免許料
- 一、版權免許證明書下付手数料
- 一、阿片代價
- 一、明治三十二年内務省令第二十六號第五條ニ依ル目錄簿閱覽手数料
- 一、明治三十五年内務省令第九號第三條ニ依ル健全證書交付手数料
- 一、沖繩縣及東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於ケル屠畜検査手数料
- 前項ニ依リ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印チ爲スヘキモノトス但出願者又ハ請求者ニ於テ自己ノ便宜上消印チ爲スハ妨ケナシ

### ● 收入印紙ヲ以テ納ムル手数料ニ關スル件

明治三十八年十一月十六日  
大藏省令第五十一號

改正 大正九年六月大藏省令第二一號  
收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼付スヘシ

### ● 阿片賣下及交付代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムルノ

〔神奈川警〕

### 件

明治三十二年三月二十八日  
勅令第六十五號

〔神奈川警〕

改正 大正六年二月勅令第二二八號、八年一〇月第四三一號  
除阿片賣下及交付代價ヲ收入印紙ニテ納付セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
阿片法ニ依リテ納ムヘキ醫藥用阿片賣下及交付代價ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

### ● 收入印紙整理簿ニ關スル件

明治四十一年二月十二日  
示令第一六號

備料金及手数料等ノ納付ニ貼用シテ提出スル收入印紙ハ收受後黒肉ヲ以テ書類ト印紙面トニ掛ケテ消印チ爲シ豫メ左記様式ノ帳簿ヲ備ヘ置キ其ノ都度貼用高ヲ記載シ荷モ粗漏ノ取扱ヘ之ナキ様注意スヘシ  
様式(用紙半紙録)

收入印紙收受整理簿

課署	印長	收受月日	摘要	用紙種類	貼同類上	取扱者氏名捺印

### 記載例

- 一、摘要欄ニハ科料或ハ狩獵免狀再渡手数料等ト記入スルコト
- 一、印紙貼用高ハ四位ニ朱線ヲ施シ數字ヲ以テ記入スルコト
- 一、印紙貼用高種類欄ニハ何圓何枚又ハ何十錢何枚ト記入スルコト

### ●諸收入收納取扱規程

明治三十三年四月六日  
大藏省訓令第二十七號

改正 明治三十三年一〇月大藏省訓令第六二號、三十四年四月第一二號、六月第二〇號、三十五年一月第四六號、四一年四月第二三號、四三年六月第一七號、大正一一年四月第一〇號

警視廳 北海道廳 府縣 稅關 稅務監督局 稅務署  
明治二十六年大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程左ノ通り改正シ明治三十三年度ヨリ施行ス

#### 諸收入收納取扱規程

- 第一條 警視廳北海道廳府縣稅關稅務監督局及稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ
- 但監獄ノ收入ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 歲入徵收官ハ諸收入ヲ徵收セムトスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人チシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス
- 第三條 歲入徵收官ハ其所屬部署長、官立學校長及北海道廳所管鐵道各驛主席官吏ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第四條 納入告知書ハ納人チシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ
- 第五條 歲入徵收官ハ納金ヲ其期限内ニ納付セサル者アルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 (削除)
- 第七條 歲入徵收官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計突合表ヲ添ヘ稅務署長ハ翌月五日マテニ其ノ他ハ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ
- 稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ
- 稅務監督局長前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ其月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

〔神奈川警〕

- 第八條 諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第九條 本規程中歲入徵收官ニ關スル規程ハ北海道支廳長ニ準用ス
- 北海道支廳長及北海道營林區署長ノ提出スル徵收報告書ハ北海道廳ヲ經由スヘシ
- 北海道廳長官前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ大藏省ニ送付スヘシ

〔別記略ス〕

### ●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

大正十二年十月九日  
勅令第四百三十九號

朕恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

- 第一條 內閣恩給局長ハ國庫ヨリ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ對シ請求スヘキ各經濟別恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ各經濟毎ニ仕譯書ニ通テ作成シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ對シ仕譯書一通ヲ添附シタル恩給金額分擔請求通知書ヲ發シ同時ニ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第二條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟前條ノ規定ニ依ル恩給金額分擔請求通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ
- 第三條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ內閣恩給局長ニ送付スヘシ
- 內閣恩給局長前項ノ分擔請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ同年九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 第四條 大藏大臣前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫以外ノ他ノ經濟ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ受クヘキ經濟ニ送付スヘシ

第六條 前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタル經濟ハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之カ請求ヲ爲シタル當該經濟ニ交付スヘシ

第七條 國庫ト府縣其ノ他國庫以外ノ經濟トノ間又ハ國庫以外ノ經濟相互間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲ストキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタル官廳ハ裁定後直ニ普通恩給又ハ扶助料ノ分擔請求ヲ受クヘキ經濟ニ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ其ノ裁定ノ要項ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ國庫ニ對スル通知ハ内閣恩給局長ニ宛テ之ヲ爲スモノトス

第八條 内閣恩給局長以外ノ官廳カ國庫ヨリ支給スヘキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ内閣恩給局長ニ通知スヘシ

内閣恩給局長カ國庫以外ノ經濟ヨリ支給スヘキ普通恩給又ハ扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ當該經濟ニ通知スヘシ

第九條 前二條ノ規定ニ依リ通知シタル裁定ノ要項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ通知スヘシ

普通恩給權又ハ扶助料權ノ消滅シタル場合亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ履歷書ノ添附ヲ要セス

第十條 文官、教育職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ支給ヲ受ケル者ノ恩給法第五十九條規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際支出官之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ當該出納官吏之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ當該支出官之カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

〔前条川條〕

前項ノ規定ニ依リ國庫納金ヲ控除シタルトキハ之ニ其ノ計算ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添附シ毎翌月十日迄ニ之ヲ歳入徴收官ノ定ムル出納官吏ニ納付スヘシ

第十二條 待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リテ控除シタル納金ハ當該經濟ノ定ムル所ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 轉任、轉職、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ百分ノ一ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ毎年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第十五條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ毎年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十六條 府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シ恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十七條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付テハ大藏大臣、其ノ他ノ事項ニ關スルモノニ付テハ内閣總理大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

- 一 官吏遺族扶助法納金收入規則
- 一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法納金收入規則
- 一 明治四十五年勅令第七十一號

本令施行前内閣總理大臣以外ノ官廳カ裁定シタル國庫支辨ノ年金タル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ權利ノ存続スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遲滞ナク裁定ノ要項ヲ内閣恩給局長ニ通知スヘシ  
第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ準用ス

### ●恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

大正十二年十二月七日  
大藏省令第三十號

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則左ノ通相定ム

- 第一條 恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則第一條ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書ハ別紙第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條ニ規定スル恩給金額分擔請求書及仕譯書ハ前項ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書及仕譯書ニ準シ之ヲ調製スヘシ
- 第三條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條第一項ノ出納官吏國庫納金ヲ控除シタル場合ニ於テハ收入除シタル國庫納金ハ出納官吏事務規程附屬第五號書式ニ準シタル仕譯書ヲ添ヘ之ヲ歳入徴收官ノ指定シタル收入官吏ニ納付スヘシ
- 第四條 收入官吏前條ノ規定ニ依リ國庫納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ所定ノ現金領收證書ヲ交付シ現金出納簿ノ登記報告等其ノ規定ニ依リ整理スヘシ
- 第五條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十三條ノ規定ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ返納額ノ百分ノ一ヲ控除シタル殘額ニ付返納告知書ヲ發シ返納ノ手續ヲ爲サシムヘシ

- 第六條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十四條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫ニ納付スヘキ金額ニ付テハ歳入徴收官ハ其ノ計算ヲ明ニシタル適宜ノ報告書ヲ徵シ一般歳入金徴收ノ例ニ依リ當該經濟ニ對シ納入告知書ヲ發シ日本銀行ニ納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 第七條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ノ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添付シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規定ニ依リ收入金ハ大藏省主管トシ諸收入收納取扱規程ニ依リ之ヲ整理ヲ爲スヘシ

#### 附則

本令ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス  
左ノ大藏省訓令ハ之ヲ廢止ス

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序  
大正十一年大藏省訓令第二十三號

第一號書式  
恩給金額分擔請求通知書

一金  
右大正何年分恩給金額分擔額及請求候條國庫ニ送付相成度別紙仕譯書添附及通知候也  
年 月 日

内閣恩給局長

何廳官職氏名宛  
送付書

恩給金額分擔請求仕譯書 (普通恩給又ハ) 遺族扶助料 何年分



火 軍 警 特	何某外何名ノ分 何某外何名ノ分 何某外何名ノ分 何某外何名ノ分 何某外何名ノ分 何某外何名ノ分 何某外何名ノ分 何某外何名ノ分	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	計	
------------------	--	--------------------------------------	---	--

備考 仕譯書ハ普通恩給ト遺族扶助料トニ分チ之ヲ記載スヘシ

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ノ規定ニ依  
ル裁定要項通知書書式

大正十二年十二月七日  
內閣訓令第一號

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ノ規定ニ依ル裁定要項通知書書式左ノ通定ム  
恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第七條及第八條ノ規定ニ依ル普通恩給又ハ扶助料裁定ノ要項通知ハ別記書  
式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(別記)

裁定要項通知書	退職當時ノ官職又 ハ公務員トノ續柄	氏 名	退職當時ノ官職又 ハ公務員トノ續柄	氏 名
恩給金額	年	月	恩給金額	年
恩給金額	年	月	恩給金額	年

勤務廳	事項	在職年數	最終俸給年額	勤務廳	事項	在職年數	最終俸給年額
恩給金額	在職年數	最終俸給年額	恩給金額	在職年數	最終俸給年額	恩給金額	在職年數
總在職年額	年	月	總在職年額	年	月	總在職年額	年
恩給金額	在職年數	最終俸給年額	恩給金額	在職年數	最終俸給年額	恩給金額	在職年數
退職當時ノ官職又 ハ公務員トノ續柄	氏 名	退職當時ノ官職又 ハ公務員トノ續柄	氏 名	退職當時ノ官職又 ハ公務員トノ續柄	氏 名	退職當時ノ官職又 ハ公務員トノ續柄	氏 名
右通知ス	年	月	日	應 御 中	年	月	日

●出納官吏事務規程

大正十一年一月十一日  
大藏省令第二號

出納官吏事務規程左ノ通定ム  
出納官吏事務規程

第一章 總則

第一條 出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第一編 警務 第三章 會計

第二條 出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ  
第三條 出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行ニ預入レ又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條 出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條 出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條 出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出す小切手ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第七條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出す小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第八條 現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第九條 外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例ヲ設ケルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 本令ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出納員ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章 收入官吏

第一節 收入金ノ領收

第十三條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ニ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領

收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添附セスシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歳入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十六條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ邦貨ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル金額ノ邦貨ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徵收官ニ送付スル報告書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十七條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納シタルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ歳入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二節 收入金ノ拂込

第十八條 日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未満ナルトキハ毎十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條 日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

一 領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日内

二 領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日内  
 三 領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日内  
 四 領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

第二十條 收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 收入官吏外國ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ前四條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二十三條 收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシテ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外一月分ヲ取纏メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ拂込ムヘシ

第三節 現金拂込報告

第二十四條 收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歳入徴收官ニ送付スルモノトス但シ歳入徴收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接之カ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 資金前渡官吏

第一節 總則

第二十五條 資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏ヲ任命シタル者豫メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

第二十六條 資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二節 前渡資金ノ受入、保管及引出

第二十七條 日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ其ノ地ノ日本銀行ニ預託スヘシ但シ當時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 日本銀行所在地外ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ在勤地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スルトキ亦同シ

第二十九條 資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金領收證書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第三十條 資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

第三節 支拂

第三十一條 資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ、資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十二條 資金前渡官吏文官判任以上ノ者ノ俸給ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十三條 民法ノ規定ニ依リ政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第三十四條 資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預託金ニ對スル小切手ヲ振出スヘシ但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 資金前渡官吏ハ其ノ振出シタル小切手ニシテ振出日附後一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ未ダ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額、年度、科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條 資金前渡官吏前條ノ金額ニ付歳入徴收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルトキハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絕セラレタルカ爲

其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳ニシテ憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名、支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏電信送金ヲ要スルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記入スルト共ニ前項ノ通知書ニ代ヘ電信ヲ以テ受取人ニ通知スヘシ

第四十一條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書所載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限トス

第四十三條 資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金額ニ相當スル現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四十四條 資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ該官廳ノ歳入徵收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第四十六條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徵收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ該告知書ヲ添ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 資金前渡官吏ハ前四條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十八條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金」ノ印第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第五節 證明

第四十九條 資金前渡官吏日本銀行ヨリ預託金月計突合表ニ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ送付ヲ受ケタルトキハ證憑書類ト對照シ證明ノ上五日內ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第四章 歳入歳出外現金出納官吏

第五十條 歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五章 繰替拂出納官吏

第五十三條 本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會計規則第六十三條ノ規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使用ヲ爲ス出納官吏ヲ謂フ

第五十四條 繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ニ付交互振替及繰替計算ヲ以テ之

第一編 警務 第三章 會計

カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一團トシテ取扱フヘシ

第五十五條 繰替拂出納官吏ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

第五十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰替拂出納官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ

送金ヲ爲スノ必要アル場合ニ付之ヲ準用ス但シ預託金支拂通知書ハ第七號書式ニ依ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ運輸交通ノ不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ求メタルトキハ其

ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預託金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ受取人

ニ送付スヘシ

第五十七條 第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十九條、第三十條、第三十四條乃至第三十八

條、第四十二條、第四十九條、第五十條及第五十二條ノ規定ハ繰替拂出納官吏ニ之ヲ準用ス

第五十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外繰替拂出納官吏ノ事務取扱ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第六章 事務引継手續

第五十九條 出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納

官吏ト共ニ記名捺印スヘシ

第六十條 日本銀行ニ預託金ヲ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明ヲ日本

銀行ニ對シ請求スヘシ

第六十一條 前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書竝其ノ引繼クヘキ帳簿、證憑其

ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日

及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スヘシ

第六十二條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ト共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知

書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサル金額ヲ區分記載ス

ヘシ

第六十三條 第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕譯書ハ後任收入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第六十四條 前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ會計規則第四百十六條ノ規

定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第七章 雜則

第六十五條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ

第六十六條 出納官吏領收濟報告書、現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌

年度五月三十一日迄ニ歳入徵收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十七條 出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人

ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第六十八條 出納官吏第四十條及第五十六條ニ規定スル小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ

遲滞ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十九條 出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨ

リ其ノ拂込濟ノ證明ヲ受クヘシ

第七十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第

二項及第五十六條第一項ニ規定スル預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ準用ス

第七十一條 出納官吏預託金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由

ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第七十二條 出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金ヲ依頼シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ

支拂未了ナル場合ニ限リ日本銀行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ

附則

第七十三條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十四條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

出納官吏現金取扱規則

明治三十年大藏省令第一號

帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續  
艦隊經費ヲ取扱フ出納官吏雜部保管金取扱手續

第七十五條 本令施行前金庫ニ寄託シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做ス  
第七十六條 本令施行前發行シタル保管金引出切符又ハ雜部保管金仕拂通知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ  
預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ  
(書式略ス)

### ● 支出官事務規程

大正十一年一月十一日  
大藏省令第一號

支出官事務規程左ノ通定ム  
支出官事務規程

#### 第一章 總則

第一條 支出官ハ本令ノ定ムル所ニ依リ支出ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條 支出官ハ支拂豫算ニ依リ定メラレタル日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其ノ振出ス  
小切手ノ支拂店ト爲スヘシ

第三條 支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
各廳長官又ハ部長長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ掲載シタルトキハ前項ノ通知ヲ要セス但シ至急  
支拂ヲ要スル場合又ハ特ニ各廳長官若ハ部長長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 會計規則第四十二條ノ規定ニ依リ代理官ノ任免アリタルトキハ前條第一項ノ規定ニ準シ之ヲ通知ノ手續ヲ  
爲スヘシ

第五條 支出官及其ノ代理官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第六條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ翌年度ノ支拂元受高ニ組入ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請  
求スヘシ

第七條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ當該會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ行ハ  
[神奈川警]

手ノ支拂店ニ請求シ振替受拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第八條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長  
官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

#### 第二章 小切手ノ振出

##### 第一節 總則

第九條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ支拂金額、支拂店名及受取人ノ氏名ト共ニ其ノ小切手ノ持參人カ支拂ヲ受ク  
ルコトヲ得ヘキコト、振出ノ年月日及支拂地ヲ記載スルノ外年度、所管、會計名、經常臨時部別、款項及番號ヲ  
附記スヘシ

第十條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘ  
シ

第十一條 前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十二條 支出官受取人ニ小切手ヲ交付シ支拂了シタルトキハ之ヲ領收證書ヲ徴スヘシ

第十三條 支出官本章ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出濟通知書ヲ小切手  
ノ支拂店ニ送付スヘシ

##### 第二節 隔地者ニ支拂ヲ爲サシムル爲振出ス小切手

第十四條 支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第二  
號書式ニ依リ債主ノ住所氏名及支拂場所等ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ合計額ヲ券面金額  
トスル小切手ヲ振出スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ記入ヲ爲シ第三號書式ノ金額氏名表ヲ添附スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ支出官ハ債主ノ爲最便利ナリト認ムル日本銀行ヲ支拂場所ト爲スヘシ但シ運輸交通  
不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居  
所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得

第十六條 支出官第十三條又ハ第十四條ノ手續ヲ爲シタルトキハ第四號書式ノ歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ前條但書ノ規定ニ依リ支拂場所ヲ指定シタル場合ニ於テハ歳出金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付シ電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第十七條 支出官歳出金支拂通知書ヲ送付シタル後債主ヨリ該通知書ヲ添ヘ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ事由アリト認めタルトキハ歳出金支拂通知書ニ記載セル支拂場所ヲ訂正シ之ヲ債主ニ返付シ直ニ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第十八條 支出官電信送金ノ通知ヲ爲シタル後債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ前條ノ規定ニ準シ電信ヲ以テ之カ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第五號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ直ニ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ但シ電信送金ノ場合ニ於テ必要アリト認めタルトキハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第二十條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ前條ノ規定ニ準シ債主ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第三節 國庫内移換ノ爲ニ振出ス小切手

第二十二條 支出官他ノ會計ニ資金繰入ノ爲歳出ヲ支出セムトスル場合ニ振出ス小切手ハ之カ繰入ヲ要求スル當該官廳ヲ受取人トシ其ノ裏面ニ歳入年度、所管、會計名及取扱廳名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ其ノ振替ニ依リ受入濟ノ旨ヲ當該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ス日本銀行ニ至急通知スルノ必要アルトキハ其ノ旨ヲ記載シ別ニ「要電信通知」ノ印ヲ捺捺スヘシ

第四節 俸給支拂、國庫納金及相殺ノ爲ニ振出ス小切手

第二十四條 支出官文官列任以上ノ者ニ俸給支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ國庫納金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ捺捺シ其ノ裏面ニ歳入年度、所管、會計名及取扱廳名ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十五條 支出官民法ノ規定ニ依リ政府ノ債務ノ一部ニ付私人ノ債務トノ間ニ相殺アリタル場合ニ振出ス小切手ハ政府ノ支拂金額ヨリ相殺額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ相殺額ニ相當スル金額ヲ券面金額トシ歳入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ捺捺シ之ヲ當該相殺額ニ對スル納入告知書ニ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ支出官ハ其ノ相殺額ニ付前條第二項ノ手續ニ準シ小切手ヲ振出シ其ノ收納スヘキ金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ其ノ超過額及相殺ノ相手方氏名ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三章 定額戻入

第二十七條 支出官會計規則第八十二條ノ規定ニ依リ經費ノ定額ニ戻入ヲ爲サムトスルトキハ返納人ニ對シ第七號書式ノ返納告知書ヲ發スヘシ

第四章 證明

第二十八條 支出官小切手ノ支拂店ヨリ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未済繰越金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ小切手ノ支拂店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第五章 雜則

第二十九條 支出官其ノ振出シタル小切手又ハ第二十七條ニ規定スル返納告知書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ小切手ノ支拂店ニ之ヲ訂正ヲ

請求スルコトヲ得

第三十條 支出官第十三條、第十九條乃至第二十二條及第二十四條ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ小切手ノ支拂店ニ對シ之カ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ第十四條ニ規定スル金額氏名表中金額以外ノ誤謬訂正ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 支出官歳出金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得

支出官前項ノ訂正ヲ爲サムトスルトキハ受取人ヲシテ該歳出金支拂通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第三十二條 支出官第十六條ノ規定ニ依リ受取人ニ送付シタル歳出金支拂通知書ニシテ受取人ノ受領前亡失シ日本銀行ニ於テ其ノ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ之カ支拂ヲ停止セシメ更ニ歳出金支拂通知書ヲ調製シ表面餘白ニ「再發行」ノ印ヲ捺捺シ之ヲ受取人ニ送付シ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第三十三條 支出官受取人ノ受領前亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ日本銀行既ニ支拂ヲ爲シタルコトヲ確メタルトキハ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十四條 受取人支出官ヨリ送付ヲ受ケタル歳出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ直ニ支拂場所タル日本銀行ニ支拂停止ノ請求ヲ爲シ且支拂未済ナルトキハ當該日本銀行ヲ經由シ支出官ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ歳出金支拂通知書ニ記載シタル金額、番號、年度、發行官廳及支拂場所ヲ記載スヘシ

第三十五條 支出官前條ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ支拂ヲ要スルモノト認メタルトキハ第三十二條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 第三十三條ノ規定ハ受取人ノ亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ既ニ支拂ヲ受ケタル者アル場合ニ付之ヲ準用ス

〔神奈川管〕

第三十七條 支出官歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未済繰越金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

附則

第三十八條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入ルル取扱規程

明治二十三年大藏省令第十七號

明治二十三年大藏省令第二十七號

明治三十四年大藏省令第十二號

仕拂命令等盜難又ハ亡失ノ場合ニ關スル取扱手續

第四十條 歳出金仕拂通知書ニシテ本令施行前其ノ支拂了セサルモノハ従前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第四十一條 前條ニ規定スル支拂期間經過後仍時效ノ完成セサル債務ノ支拂ニ付テハ會計規則第百六十九條第二項ノ規定ニ依ル

(書式略ス)

### ● 收入官吏任命方

明治三十五年十二月二十五日

大藏省訓令第五十五號

改正 大正二年一月大藏省訓令第二號

警視廳 北海道廳 府縣

明治三十三年大藏省訓令第十八號左ノ通改正ス

一 各廳長官ハ其ノ廳ノ收入事務ニ關シ部下ノ官吏ニ收入官吏ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ一人ヲ主任收入官吏トシ其ノ他ハ主任收入官吏所屬ノ分任收入官吏トスヘシ北海道廳ニ於テハ各支廳ノ收入官吏ノ一人ヲ主任收入官吏トスヘシ



二 (削除)

● 收入官吏ハ歳入歳出外現金出納ノ職務ヲ兼掌スルノ件

明治三十七年一月二十三日  
大藏省訓令第三號

北海道廳 警視廳 府縣 稅關 稅務監督局 稅務署 (樟腦事務局)  
〔臨時稅關工部部〕 〔臨時沖繩縣土地整理事務局〕 專賣局 造幣局  
印刷局 收入官吏

收入官吏タルモノハ歳入歳出外現金出納官吏トシテ歳入歳出外現金出納ノ職務ヲ兼掌スヘシ但シ各廳長官ハ必要ト認ムルトキハ他ノ官吏ニ歳入歳出外現金出納官吏ヲ命スルコトヲ得

● 出納官吏現金出納簿記帳方

明治三十五年三月二十四日  
大藏省訓令第十號

出納官吏

出納官吏現金出納簿ハ一人一冊トシ其職務主管廳ノ如何ヲ問ハス總テ混記スヘキ管ノ處其記帳方往々區々ニ相成居候向不尠不都合ニ付自今左ノ通心得ヘシ

- 一 現金出納簿ハ一人一冊トシ其職務主管廳ノ如何ヲ問ハス總テ之ニ混記スヘシ
- 一 現金出納簿ノ外別ニ補助簿ヲ設ケ其職務並ニ主管廳ヲ區別整理スルハ妨ナシ
- 一 保管金收入金ヲ兼取扱フ出納官吏ニシテ保管金ヲ歳入ニ納付スル場合ニ於テハ特ニ收入トシテ受入ノ記帳ヲ爲サス直チニ金庫ヘ拂込ノ記帳ヲ爲スヘシ
- 一 現金ハ其所屬年度ノ如何ニ拘ラス現ニ其取扱ヲ爲シタル年度ノ帳簿ニ登記スヘシ
- 一 金種類ノ同一ナル數廉ノ受拂ハ毎日取纏メ記帳スルモ妨ナシ
- 一 誤記訂正ハ必ス朱書スヘシ
- 一 記帳例左ノ如シ

月 日	摘 要	受		拂		残	
		圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘
年 十 六	前 業 締 高	90 00 0	80 00 0			10 00 0	
”	六月分前業締高	90 00 0	80 00 0				
十 八	何々金何某ヨリ收入	40 00 0				50 00 0	
二十 一	何々金何某ヘ拂込			10 00 0		40 00 0	
二十 三	何地金庫ヘ拂込			40 00 0		0	
年	六月分小計	130 00 0	130 00 0				
五	何々金何某ヨリ收入	25 00 0				25 00 0	
十 二	何地金庫ヘ拂込			25 00 0		0	
二十 五	何々金何某ヨリ收入	30 00 0				30 00 0	
三十 一	翌年度ヘ繰越高			30 00 0		0	
	三月分合計	55 00 0	55 00 0				
	總 計	185 00 0	185 00 0				

摘要	受		拂		残		年
	圓	錢	圓	錢	圓	錢	
前年度ヨリ繰越受入高	50	000					明治何六
何々金何某ヨリ収入	30	000			80	000	
何々金何某ヨリ収入	20	000			100	000	
何地金庫へ拂込			70	000	30	000	
四月分合計	100	000	70	000	60	000	
何々金何某ヨリ受入	30	000			30	000	明治何三
何々金何某へ拂渡			30	000	0	000	
出納官吏何某へ引繼高			30	000			
六月分小計	30	000	60	000			
總計	130	000	130	000			
明治何年六月何日							
前任出納官吏官氏名							
後任出納官吏官氏名							
前任出納官吏何某ヨリ引繼受高	30	000					
何々金何某ヨリ収入	50	000			80	000	
何地金庫へ拂込			80	000	0	000	
何々金何某ヨリ受入	10	000			10	000	
六月分追次締高	90	000	80	000			
追次締高	90	000	80	000			

〔神奈川警〕

年	月	日
明治何年	四	一
		六
		十
		三
	六	十
		三
		五
		六
		十

● 出納官吏検査規程

明治二十五年五月十七日  
大藏省訓令第三十號

出官吏納

出納官吏検査規程左ノ通り相定候條爲心得此旨訓令ス  
出納官吏検査規程

- 第一條 大藏大臣ハ其指定監督ノ下ニアル出納官吏ノ金櫃帳簿及事務取扱ノ實況ヲ検査スルヲ必要ト認ムルトキハ検査員ヲ特派シテ之ヲ施行ス
- 第二條 検査員ハ臨檢章ヲ携帶シ之ヲ出納官吏ニ示シタル後検査ニ著手シ其旨當該廳長ニ通告スヘシ
- 第三條 検査員ハ出納官吏ヨリ出納計算書ヲ差出サシメ之ヲ帳簿及保管ノ現在金ニ照合スヘシ
- 第四條 検査員ハ出納官吏ノ帳簿並ニ收支ノ手續等例規ニ反スルコトナキヤ否ヤヲ検査スヘシ
- 第五條 検査員出納官吏ノ金櫃帳簿等検査ニ關シ必要ト認ムルトキハ當該廳ニ向ヒ其關係書類ノ送附ヲ求ムルコトアルヘシ
- 第六條 検査員出納官吏ノ保管スル現金ノ検査ヲ了シタルトキハ檢定書二通ヲ調製シ該官吏ヲシテ之ニ署名捺印セシメ其ノ一通ヲ本人ニ交付スヘシ
- 第七條 検査員出納官吏ノ帳簿ノ検査ヲ了シタルトキハ帳簿表紙ノ裏面ニ何年何月何日マテノ出納ハ検査済ナルコトヲ記載シ更ニ記名調印ヲ爲スヘシ

### ● 出納官吏ハ何時タリトモ金櫃帳簿等ノ検査ニ應セシ

△ 明治二十五年五月三十一日  
大藏省訓令第三十五號

出納官吏

本年當省訓令第三十號ニヨリ出納官吏ノ金櫃帳簿等検査トシテ検査員臨檢ノトキ休暇日又ハ退廳後ニ際スルモ検査員ノ通知ニヨリ出納官吏ハ何時タリトモ其検査ニ應スル儀ト心得ヘシ

### ● 租税外ノ諸收入ニ係ル會計規則中検査員ノ任免並ニ本屬大臣及管理廳ノ職務執行方

明治二十三年八月二十一日  
大藏省訓令第二百十號

北海道廳 府縣

〔明治二十二年當省訓令第六十六號〕ニ依リ取扱フ租税外ノ諸收入ニ係ル會計規則〔第九十條〕第九十一條第一項第九十二條検査員ノ任命並ニ同〔第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第九十九條〕第百條ノ本屬大臣及事務管理廳ノ職務ハ道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

明治二十六年十二月七日  
大藏省訓令第四十五號

北海道廳 府縣

明治二十三年當省訓令第二百十號中會計規則〔第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條及第九十九條〕ニ關スル事務ハ明治二十七年一月一日以降ノ取扱ニ係ル分ヨリ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其取扱ヲ爲スヲ要セス但本年十月三十一日以前ノ取扱ニ屬スル分ニシテ明治二十七年一月一日以降ノ提出ニ係ルモノハ從前ノ通心得ヘシ

〔神奈川廳〕

### ● 保管金規則

明治二十三年一月七日  
法律第一號

改正 明治三十三年二月法律第一八號  
朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 保管金規則

- 第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル
- 第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス
- 第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス
- 第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス
- 第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス
- 第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス
- 第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

### ● 保管金取扱規程

大正十一年二月一日  
大藏省令第五號

改正 大正一三年七月大藏省令第一九號

保管金取扱規程左ノ通定ム

保管金取扱規程

#### 第一章 總則

- 第一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第二條 取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルヘシ但シ數日內ニ拂戻ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ其ノ官廳ノ出納官吏ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得
- 第三條 前條ノ規定ニ依リ預入ヲ爲ス取扱官廳ハ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其

第一編 警務 第三章 會計

ノ預金取扱店ト爲スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得

第四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章 保管金ノ提出

第五條 保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添ヘ現金ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ保管金ヲ提出スル者ハ預金部預金取扱規程第五條ノ規定ニ依リ保管金振込書ヲ添ヘ豫メ現金ヲ取扱官廳ノ預金取扱店ニ振込ミ預金部預金振込済通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ保管金提出書ヲ添ヘ取扱官廳ニ提出スルコトヲ得

取扱官廳前二項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條 取扱官廳前條ノ規定ニ依リ保管金ノ提出ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ保管金受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第三章 保管金ノ拂渡

第七條 保管金ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者ハ保管金拂渡請求書又ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書又ハ受領證書ニ領收ノ旨ヲ記載セシメ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ヲ除クノ外預金部預金ニ預入ヲ爲シタル取扱官廳ハ現金ノ交付ニ代ヘ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第七條ノ二 出納官吏事務規程第三十五條乃至第三十七條ノ規定ハ取扱官廳ノ振出シタル小切手ニシテ其ノ振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 保管金ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者其ノ拂渡ヲ請求セムトスルニ當リ取扱官廳ノ預金取扱店所在地外ノ預金取扱店ニ於テ支拂ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ請求書又ハ受領證書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ

請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノナルトキハ預金部預金取扱規程第十二條ノ手續ヲ爲シ第二號書式ノ保管金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ

第四章 保管金利子ノ拂渡

第九條 保管金ノ利子ノ拂渡ヲ受ケル權利ヲ有スル者ハ毎年三月三十一日迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘシ但シ保管金全額ノ拂渡ヲ受ケル權利者ハ其ノ拂渡ヲ受ケル時迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘキモノトス

前項ノ利子ハ保管金提出ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス保管金ノ一圓未満ノ端數ニ對シ亦同シ

第十條 前條ノ權利者保管金ノ利子拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ保管金利子請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十一條 取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ預金部預金取扱規程第十七條ノ規定ニ依リ預金部預金利子支拂請求書ヲ請求者ニ交付シ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ但シ前條ノ請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第五章 保管金ノ保管替

第十二條 甲官廳ニ保管金ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第四號書式ノ保管金保管替請求書ニ通テ甲官廳ニ提出スヘシ

第十三條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預金取扱規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尙有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利子參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第十四條 乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十五條 前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲サムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

第六章 政府ノ所得ニ歸シタル保管金

第十六條 保管金規則、遺失物法其ノ他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

第十七條 主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ

第十八條 第十六條ニ規定スルモノヲ除ク外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章 雜則

第十九條 保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 保管物取扱規程及明治三十六年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス

第二十四條 前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歳入納付、特殊資金ニ組入又ハ期滿失效年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

第一號書式 保管金受領證書(用紙寸法) (半紙判半裁)

保管金受領證書	
第 號 金	保管ノ事由
上記金額領收候也	上記金額領收候也
年 月 日	年 月 日
某廳取扱主任官官氏名圖	
何 某 宛	住所
某廳取扱主任官宛	
氏 名	

備考 一 本書ハ之ヲ縦書トスルコトヲ得 二 受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第一編 警務 第三章 會計

第二號書式 保管金支拂通知書 (用紙寸法 半紙判半裁)

領收證		保管金支拂通知書	
前記ノ金額領收候也 年月日	保管金受領證書日附番號	前記ノ金額日本銀行(何店)ニ於テ受領セラレヘシ	
	期滿失效年月日	年月日	
	小切手振出日附	何某宛	
	小切手ヲ宛テタル店名	某廳取扱主任官 官氏 名印	
印紙	住所	氏 名印	
收入			

備考

- 一 用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐フル用紙ヲ用ユヘシ
  - 二 官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シ發行スヘシ
  - 三 領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ捺捺スヘシ
- (注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

裏面書式

(注意事項)

- 一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ
- 二 受取人ノ印章ハ請求書ニ捺捺シタルモノト同一ノモノニ限ル
- 三 受取人カ代理人ヲ以テ支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記入スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ
- 四 代理人カ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ表面領收證ノ部ニ代理人タルノ肩書ヲ附スヘシ
- 五 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 小切手振出ノ日附ヨリ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス
- 七 本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支拂ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

印紙	委任狀
收入	
表面金額ノ受取方テ	ニ委任致候也
年月日	
住所	氏 名印

第三號書式 保管金利子請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

保管金利子請求書

年月日第 號 保管金 二對

某廳取扱主任官宛

氏 名印

第一編 警務 第三章 會計

金  
保管金 ニ對スル 年 月 ヲリ 年  
月迄年 分ノ割  
右支拂フヘキコトヲ證明ス  
年 月 日

某廳取扱主任官官氏名印

第四號書式 保管金保管替請求書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

保管金保管替請求書

金  
保管金受領證書日附番號  
保管スヘキ法令ノ條項  
保管ノ事由  
新取扱官廳名

上記ノ通保管替相成度候也

年 月 日

住 所

氏 名

某廳取扱主任官宛

日本銀行(何店)宛

前記金額領收候也  
年 月 日

住 所

氏 名

名

本書保管替ノ申出ヲ承認候間貴廳ノ保管金トシテ  
取扱相成度候也

但シ別紙保管金利子參考表ヲ添附ス (利付ノ分  
ニ限リ此ノ但書ヲ記入スルコト)

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名印

某 廳 宛

保管金利子參考表

摘 要	受	拂	残

某廳取扱主任官官氏名印

第五號書式 保管金利子參考表 (用紙寸法) (半紙判半裁)

備考 本書ハ之ヲ縦書トスルコトヲ得  
備考 摘要ノ欄ニハ前年度ヨリ越及月別ヲ記入ス  
ハシ

保管金政府所得調書

第 號 年度分

受 入 年 月 日	保 管 金 受 領 證 書 番 號	保 管 ノ 事 由	期 滿 失 效 年 月 日	金 額

第六號書式 保管金政府所得調書 (用紙寸法) (美濃判半裁)

### ●滿期失效保管金ニ關スル件

大正十三年一月十日  
十二會收第一一二八號會計課長

元金庫ニ寄託セル保管金ニシテ保管證書ヲ發セサル分期滿失效トナリ歳入ヘ編入ヲ要スルモノハ從來國庫大臣ノ令  
連書ニ依リ日本銀行(各地取扱店)ニ於テ歳入ニ組入レル手續ノ處自今ハ其ノ時々ノ令連テ省略シ同行(同上)ニ於テ  
時效證書ニ依リ直ニ歳入ニ組入レルコトニ改正相成候條此段及通牒候也  
追テ日本銀行ニ於テ調製セル時效證書取扱官廳ニ於テ證書證明ノ義ハ從來ノ通ニ有之候

### ●物品會計規則

明治二十二年六月十二日  
勅令第八十四號

改正 明治二十四年七月勅令第七七號、三十二年七月第三一八號、大正一一年三月第四八號  
朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 物品會計規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル
- 政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計検査院ヘ通知スヘシ
- 第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
- 第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
- 第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス
- 第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ
- 第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス
- 第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠情ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理者ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目録ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若クハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十條ノ二第十一條第十二條ノ調査ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 (削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第十七條 (削除)



第十八條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各處其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 會計規則第七十五條、第二百二十五條、第二百二十六條、第三百二十二條乃至第三百三十五條及第四百四十四條ハ物品會計官吏ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

### ●内務省及所管廳物品取扱規程

明治三十三年十月二十五日  
内務省訓令第三十號

改正 明治三十五年三月内務省訓令第四號、三十八年四月第一二號、四一年九月第八號、大正元年一月第五號、四年五月第三號、五年三月第六號、一一年四月第一號

〔總務局〕會計課 衛生局 樺太廳 廳府縣 土木出張所 衛生試験所 造神宮使廳  
 明治神宮造營局 海港檢疫所

内務省及所管廳物品取扱規程左ノ通相定ム

但明治二十二年内務省訓令第三十六號及明治二十九年拓殖務省訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

第一章 總則

第一條 本規程ニ物品ト稱スルハ物品會計規則第一條ニ定ムル諸品ヲ云フ

第二條 本規程ニ部局長ト稱スルハ本省大臣官房會計課長、衛生局長、内務省土木出張所長、造神宮副使、明治神宮造營局長、各廳長官ヲ云フ

第三條 物品ノ出納ハ物品會計官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第四條 物品會計官吏及分任物品會計官吏ハ各廳便宜ノ箇所ニ設置スヘシ

第五條 物品會計官吏、代理官、分任官、物品會計規則第十條ノ二第十一條第十二條ノ検査ノ官吏及第十五條第二項但書ノ官吏ハ部局長之ヲ命スヘシ

第六條 物品會計官吏ノ下ニ物品取扱主任ヲ置キ共用物品等ヲ取扱ハシムヘシ

第七條 (削除)

第二章 物品出納 帳簿

第八條 (削除)

第九條 薪炭油、郵便切手類、各材料品等ニシテ需用見込額ヲ以テ交付スル場合ハ物品取扱主任ニ假渡ヲ爲シ便宜ノ時期ニ於テ精算ヲ爲サシムヘシ

第十條 物品會計官吏ハ別記様式ニ據リ出納簿ヲ設備シ其出納ヲ登記スヘシ

會計検査院ヨリ委託検査ニ付セラレタル物品ニ對シテハ別冊ヲ以テ整理スルコトヲ要ス

第十一條 物品ノ出納ハ直チニ帳簿ヘ登記スヘシ但シ消耗品類ノ拂出ハ一箇月間取纏メ記帳スルコトヲ得

第三章 保管 責任

第十二條 貯藏ノ物品ハ物品會計官吏共用ノ物品ハ物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第十三條 物品會計官吏ハ既ニ交付シタル物品ト雖モ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責任アルモノトス

第十四條 (削除)

第十五條 本規程第十二條ノ保管ノ責アル者其物品ヲ故意若クハ怠情ニ由リ亡失毀損シタルトキハ部局長ハ之ニ對スル辨償ヲ命スヘシ

第十六條 直接ニ保管ノ責ナキ者ト雖モ故意怠情ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ仍前條ニ依ル

第十七條 物品會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ物品出納計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ部局長ニ差出スヘシ  
部局長ハ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第十八條 (削除)

第十九條 會計検査院ヨリ委託檢托ニ係ル物品ハ計算書ヲ省略シ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明スヘシ

第五章 不用品處分

第二十條 不用品ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ部局長之ヲ處分スヘシ

第六章 雜則

第二十一條 本規程ニ準據シ難キモノアルトキハ認可ヲ經テ特別ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 物品取扱ノ細則ハ部局長ニ於テ之ヲ定メ當省ヘ報告スヘシ

第二十三條 本規程ハ明治三十三年十月ヨリ施行ス但帳簿ハ本年度ニ限リ從前ノ儘使用スルモ妨ナシ

(別記標式)

年月口	摘要	單位		受						出						現	在	考
		之稱	越高	買入	何々	何々	計	何々	何々	何々	計	何々	何々	何々	計			

●法令ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬シタル收入印紙及郵便切手類引渡方

明治四十三年二月二十四日  
逕信省訓令第一號

裁判所 警視廳 北海道廳 府縣

法令ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬シタル收入印紙及郵便切手類ハ種類員數ノ明細書ヲ添ヘ之ヲ最寄郵便官署ノ當該會計官吏ニ引渡スヘシ

不訓令ニ抵觸スル從前ノ訓令達示等ハ之ヲ廢止ス

●官舍貸渡規則

明治九年五月十五日  
太政官達第五十三號

改正 明治一〇年三月太政官達第三七號、一月第八七號

〔官〕院省〔使〕府縣

明治七年<sup>七</sup>第九十三號同八年<sup>五</sup>第八十八號達ヲ廢シ更ニ官舍貸渡規則別紙ノ通相設候條從來ノ官舍或ハ官廳附屬ノ家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省ヘ可相納尤完金建坪等取調ノ儀院省〔使〕ハ大藏省廳府縣ハ內務省ヘ可申出此旨相達候事

但借地料ノ儀ハ明治八年<sup>七</sup>第百十四號布告官有地第二種但書ノ通可相心得事

(別紙)

官舍貸渡規則

第一條 官舍貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ

但獄舍〔懲役場〕倉庫定番見張番等並ニ鐵道各驛長各所證明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ官舍貸渡ス者ト雖モ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舍ノ內公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ

第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ〔右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其廳ニ備置修繕費ニ充ツヘシ〕

- 第三條 官舎新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上直段或ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ自今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ
- 但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ヲ加ヘテルヘシ
- 第四條 宿代ハ年ヲ以計算スヘシト雖モ取立方ハ月割タルヘシ
- 但十六日以後ニ貸渡タル時又ハ十五日以前ニ返却シタル時ハ半月分取立ヘシ
- 第五條 (宿代上納方ハ三ヶ月毎ニ取調修繕費遺拂ノ分ハ毎年六月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充區スヘシ)
- 第六條 官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ
- 第七條 拜借人自費建増等願出ル時ハ實地検査ノ上差支無之分ハ允許スヘシ
- 第八條 拜借人交換ノ節ハ篤ト検査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ但自費建増等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

### ●府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合

明治二十一年八月七日  
勅令第六十一號

- 大正七年三月勅令第二四號、八年五月第二二二號
- 廢地方稅中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス
- 第一條 (地方稅)中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ十分ノ六、大阪府ハ十分ノ三半トシ其他ノ府縣(沖繩縣)ハ六分ノ一トス
- 第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

〔神奈川縣〕

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

### ●巡查ノ用ニ供シタル國費支辨ノ物件ヲ府縣ニ讓渡スルノ件

大正五年三月三十日  
勅令第三十四號

朕巡查ノ用ニ供シタル國費支辨ノ物件ヲ府縣ニ讓渡スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
巡查ニ要スル經費ニシテ國費ノ支辨ニ屬スルモノヲ府縣費ノ支辨ニ移シタル場合ニハ其ノ巡查ノ用ニ供シタル物件ヲ當該府縣ニ無償ニテ讓渡スルコトヲ得

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●神奈川縣會計検査規則

大正二年六月六日  
縣令第六十七號

改正 大正五年二月縣令第八號、八年八月第六四號、九年四月第四四號、一二年五月第四三號  
神奈川縣會計検査規則左ノ通之ヲ定ム

#### 神奈川縣會計検査規則

##### 第一章 總則

- 第一條 縣ノ經濟ニ屬スル會計ハ本則ニ依リ検査スヘシ但シ縣經濟ヨリ補助其ノ他ノ交付ヲ受ケタル郡市町村其ノ他ノ團體ノ會計ハ臨時其ノ實況ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第二條 検査ヲ分チテ書類検査實況検査ノ二種トシ検査ヲ了シタルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ
  - 一 書類検査ニ在リテハ正當支出ト認メタルトキハ其ノ旨知事ニ具申スヘシ
  - 二 實況検査ニ在リテハ其ノ狀況ヲ詳具シ關係書類ヲ添付シ知事ニ復命スヘシ
- 第三條 検査員臨檢ノトキハ臨檢章ヲ携帯スヘシ但シ縣支金庫定期検査ニ在リテハ此限ニアラス  
廳長其ノ他當該者ハ検査員臨檢ノトキハ何時ニテモ之ニ應シ其ノ検査ニ立會フヘシ

##### 第二章 書類検査

##### 第一編 警務 第三章 會計

第四條 縣ノ會計ニ屬スル計算書其ノ他證憑書類ハ内務部長之ヲ検査スヘシ  
第五條 検査ノ事項ニ關シ必要アルトキハ内務部長ハ當該者ニ對シ審理書ヲ發スルコトヲ得

第三章 實況検査

第六條 實況検査ハ毎年一回以上之ヲ施行スヘシ  
第七條 検査員ハ會計課員ヲ以テ之ニ充ツ但シ縣支金庫定期検査ニ在リテハ郡役所所在地ノ縣支金庫ハ所屬郡長  
倉縣支金庫ハ師範學校長平塚縣支金庫ハ農業學校長其ノ他ハ所在地各府長ヲ以テ之ニ充ツ  
第八條 検査員ノ検査スヘキ事項左ノ如シ  
一 歳入其ノ他收入賦課徴收ノ當否  
二 歳出其ノ他仕拂ノ當否  
三 現金及證券ノ現在並ニ保管ノ當否  
四 帳簿及證憑書類ノ整否  
五 物品出納及保管ノ當否  
六 其ノ他必要ト認ムル事項

第九條 検査員ハ前條ノ外府長等ノ取扱ニ屬スル公金アルトキハ其ノ公金ノ會計ヲ併テ調査スルコトヲ得  
第十條 検査員ハ検査上必要ト認ムル帳簿及書類ノ提供ヲ求メ又ハ工事其ノ他施設ノ現況ヲ檢閲スルコトヲ得但シ  
機密ニ屬スル事項ハ知事ノ許可ヲ請フヘシ

第十一條 検査員ハ検査ノ事項ニ關シ當該者ニ對シ審理書ヲ發シ其答辯ヲ要求スルコトヲ得但シ重大ナル事項ト認  
ムルトキハ意見ヲ具シ知事ノ指揮ヲ請フヘシ  
第十二條 検査員ハ府長ヨリ臨檢當日現在ノ收支計算書(毎月提出ノ計算書ニ準シ調製シタルモノ)ヲ徴シ之ヲ關係帳簿ニ照查スヘシ  
第十三條 検査員検査ヲ了シタルトキハ檢閱簿ノ簿冊ノ表紙裏面ニ「何年何月何日檢了」ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第十四條 縣出納吏ノ現金出納ノ實況ハ毎年一回以上之ヲ検査スヘシ但シ縣出納吏解職ノトキハ臨時之ヲ検査スヘシ

第十五條 前條ノ検査ヲ行フニ當リ縣出納吏事故ニ依リ自身検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ知事ノ命シタル代理  
者ニ於テ之ニ立會フヘシ

第十六條 検査員ハ縣出納吏ヨリ臨檢當日現在ノ現金出納計算書ヲ徴シ之ヲ關係帳簿及保管ノ現金ト照查スヘシ  
第五章 縣金庫實況検査

第十七條 縣金庫ノ現金出納ノ實況ハ毎年三月三十一日之ヲ検査スヘシ尙必要アルトキハ臨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十八條 検査員ハ縣金庫ヨリ臨檢當日現在ノ現金出納計算書ヲ徴シ之ヲ關係帳簿及保管ノ現金ニ照查スヘシ  
第六章 附則

第十九條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第二十條 明治四十四年十月神奈川縣令第六十一號ハ之ヲ廢止ス  
(第三條式)

(紙質厚紙)

第 何 號

分 五 寸 二

會 計 實 況

神奈川縣 臨 檢 章

印

三 寸 八 分

(第一條第一號式)

第 號	大正 年 月 日	發議	判決	月 日	主任
知事	內務部長	財務課	(何課)	縣費	現金支出額照合濟
大正	年度	縣費	現金支出額照合濟	記帳	年 月 日
一金	右大正 年 月 日	月中支出總額ニシテ之ヲ證憑書類ニ對査シ	(又ハ不審ノ廉)	正當支出額ト認定	候間此段及具申候也

(第五條式)

審理書 大正何年度何月分何々(款)支出計算書

頭	末	事	項	答	辯
		一何々		一何々	
		右何月何日限リ答辯ヲ要ス		右答辯ス	
		年 月 日	內務部長 團	年 月 日	內務部長 宛
					團

備考

- 一 會計検査員臨檢ノ際發スル審理書モ本式ニ依ルヘシ
- 一 頭末欄ニハ主任ニ於テ完結又ハ再審理等ノ要領ヲ掲記スヘシ

(第十六條式)

大正何年度自何月何日現金出納計算書

一金	何程	受	入	高
內	金何程	前年度ヨリ越高		
	金何程	前任者ヨリ引繼高		
	金何程	本年度受入高		
	一金何程	拂	出	高
內	金何程	縣金庫へ拂込高		
	金何程	債主へ拂渡高		
	金何程	囑托廳へ送金高		
	金何程	滯納者へ還附高		
	差引金	現	在	高
內	金何程	紙	幣	
	金何程	銀	貨	
	金何程	銅	貨	

右大正何年何月何日現在出納計算書相違無之候也

何郡(市)役所 縣出納吏官職 氏 名 團

會計検査員 官 氏 名 宛

第一編 警務 第三章 會計

(第十七條式ノ一)

大正何年度自何月何日現金出納計算書

一金	何程	收	入	高
內	金何程	前年度ヨリ越高		
	金何程	本年度收入高		
	金何程	本	金	庫
	金何程	某	支	金
	金何程	仕	拂	高
內	金何程	本	金	庫
	金何程	某	支	金
	金何程	丙號支出現金未拂高		
	金何程	某	支	金
	金何程	某	支	金
	差引金	現	在	高
內	金何程	某	支	金
	金何程	某	支	金

(前同上)

(前同上)

(前同上)

第一編 警務 第三章 會計

金何程 本 金 庫

金何程 紙 幣  
金何程 銀 貨  
金何程 銅 貨

右大正何年何月何日現在出納計算書相違無之候也

縣本金庫

年月日 專務取締役 氏 名 印

會計検査員

官 氏 名 宛

備考

本式ハ一例ヲ示スニ過キササルニ依リ收支ヲ判明ナラシムル事項ハ適宜掲記スヘシ

(第十七條式ノ二)

(支金庫式)

大正何年度 自何月何日 現金出納計算書

入金 何程 收入 高

金何程 前年度ヨリ越高

金何程 本金庫ヨリ回收高

金何程 各 際 收入 高

内 金何程 何 際

金何程 何 際

金何程 何 際

一金何程 支 拂 高

金何程 本金庫へ回收高  
金何程 各 際 支 拂 高

内 金何程 何 際

金何程 何 際

金何程 何 際

差引金 何程 現 在 高

内 金何程 丙 號 仕 拂 高

金何程 何 際

金何程 何 際

金何程 紙 幣

金何程 銀 貨

金何程 銅 貨

右大正何年何月何日現在出納計算書相違無之候也

某支金庫

年月日 取扱主任 氏 名 印

會計検査員

官 氏 名 宛

備考

一 丙號仕拂ニ於テ現金未交付額アルトキハ適宜其金額ヲ掲記スヘシ

二 其ノ他第十七條式ノ一二同シ

縣出納吏検査ニ關スル件

大正十二年四月二十五日 十二會發第一一〇號會計課長

縣出納吏臨時検査之際從來検査員ニ對シ辭令ヲ交附シ來リ候處爾今臨檢章ノ携帶ニ止ムルコトニ改メラレ候條爲念及御通知候也

神奈川縣會計規則

明治四十二年三月二十九日 縣令第二十號

改正 明治四十二年三月縣令第一三號、四十二年三月第一九號、四十二年三月第一八號、五月第四四號、大正二年三月第三〇號、第四三號、四月第五八號、三年四月第二八號、七月第五〇號、四年三月第二六號、四月第二九號、五年四月第三〇號、七月第四三號、八月第六一號、八年四月第三二號、八月第七〇號、九年八月第六八號、九月第八〇號、一〇年二月第一三號、四月第五五號、八月第九九號、一一年三月第二二號、一二年六月第六四號、一三年六月第四七號

神奈川縣會計規則左ノ通之ヲ定ム

神奈川縣會計規則

第一章 總則

第一條 縣ノ經濟ニ屬スル會計ハ特別ノ規定アルモノ、外本則ニ依ルヘシ

第二條 收入支出ノ命令ハ本廳ニ在リテハ內務部長、各 際ニ在リテハ 廳長ニ委任ス但シ本廳所屬ノモノト雖之ヲ 廳長ニ委任スルコトアルヘシ

第三條 收入支出ハ總テ傳票ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第四條 本則ニ於テ各 際ト稱スルハ郡役所、警察署、警察分署、消防署、市役所、縣立學校、縣立農事試驗場、種畜場、穀物検査所、水産試驗場、養育院、測候所、蠶業試驗場、眞金町病院、橫須賀病院、藤澤病院、蠶業取締所、橫濱輸出羽二重検査所其ノ他知事ニ於テ指定シタルモノヲ謂フ

第五條 年度開始前ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ノ契約其ノ他ノ施設ヲ爲ス必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ニ稟申スヘシ

第六條 毎年度歲入歳出金ノ出納ハ各 際ニ在リテハ翌年度五月三十一日限リトス但シ歳入ニ限知事ノ許可ヲ請ケタルモノハ此ノ限ニ非ラス

第一編 警務 第三章 會計

第七條 本則ニ於テ一時取扱金トシテ收支スヘキ金種ハ縣經濟ニ關聯セル各種ノ保證金又ハ知事ニ於テ特ニ命令シタルモノニ限ル

第八條 會計年度ノ所屬ハ左ノ區分ニ依ル

歳入ノ年度所屬

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
- 二 隨時ノ收入ニシテ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發シタルモノハ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度但シ徵稅令書發付前徵稅傳令書ヲ發シタルモノハ其ノ徵稅傳令書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發シタルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 四 豫算ニ於テ特ニ其ノ收入ヲ定メタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度  
歳出ノ年度所屬
- 一 縣債元利、退隱料、扶助料、市町村立小學校教員加俸ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度
- 二 俸給、旅費其ノ他ノ諸給與、占用料使用料、手数料ノ類及市町村交付金ハ其ノ支出スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度
- 三 工事製造費廳中雜費其ノ他ノ物件ノ購入代價運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 四 罹災救助費、教育費、貸附金、缺損補填金、一時給與金ノ類ハ其ノ支辨又ハ給與ノ決定シタル日ノ屬スル年度
- 五 各種補助金獎勵金ノ類ハ其ノ支出ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ市町村ニ對スル補助ハ過年度ノモノヲ除キ其ノ市町村ニ於ケル支出ノ屬スル年度
- 六 豫算又ハ契約等ヲ以テ特ニ指定セルモノハ其ノ指定ノ年度
- 七 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度其ノ他ノモノハ總テ其ノ支出命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第二章 豫算

第九條 豫算ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第三章 收入

第十條 縣稅及縣稅外諸收入、教員恩給基金、郡市町村納金ノ徵收ノ規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 前條ノ規定ニ屬セサル國庫補助金其ノ他ノ下渡金、寄附金、貸付金元利、預金元利ノ類又ハ一時取扱金ノ收入ヲ要スルトキハ收入命令官ハ其ノ時々收入命令ヲ發スヘシ

第十二條 前條ノ收入ニシテ收入命令ヲ受ケタル納人ハ之ニ現金ヲ添ヘ指定ノ縣金庫ニ納付スヘシ  
縣金庫ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ收入命令ニ接續ノ領收證ヲ直ニ納人ニ交付シ收入命令ハ收入濟ノ旨ヲ附記シ收入命令官ニ送付スヘシ

第十三條 第十一條ノ納金(國庫補助金其ノ他)ハ所轄縣金庫ヲ受取人ト指定シタル郵便爲替又ハ銀行爲替手形ヲ以テ現金ニ代ヘテ納付スルコトヲ得但シ其ノ金券ハ受取人所在地ニ於テ直ニ現金ニ交換シ得ヘキモノニ限ル

前項ノ場合ニ於テ納人ハ其ノ金券ヲ郵送セムトスルトキハ領收證ノ送附又ハ本條第三項但書ノ場合ニ要スル郵稅ヲ郵便切手ヲ以テ同時ニ之ヲ收入命令官ニ送附スヘシ

收入命令官ニ於テ前二項ニ依リ金券ヲ受ケタルトキハ之ニ收入命令ヲ添付シ縣金庫ニ交付シ其ノ領收證ヲ受ケ納人ニ送付スヘシ但シ本條第四項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ付シ該金券ヲ添ヘ納人ニ通知スヘシ

縣金庫ニ於テ前項ニ依リ金券ヲ受タルトキハ直ニ現金ニ交換ヲ了シタル上領收ノ手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ金券事故ニ依リ現金ニ交換シ得サルトキハ金券及收入命令ヲ添ヘ收入命令官ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十四條 各縣ニ於テ寄附金、一時取扱金、貸付金ノ收入アリタルトキハ其ノ都度收入報告書ヲ調製シ本廳ニ提出スヘシ

第十五條 歳入金ノ所屬年度又ハ科目ノ誤謬ヲ發見シ若ハ一時取扱金ノ收入ヲ歳入ニ更訂セムトスルトキハ收入更訂傳票ヲ調理シ直ニ之ヲ更訂シ縣金庫ノ計算ニ關係セルモノハ同時ニ之ヲ縣金庫ニ通知スヘシ

第十六條 本廳ニ於テ各縣ノ收入支出ニ對シ縣本金庫ヨリ受拂統計報告書ヲ受ケタルトキハ廳長ヨリ提出セル收支科目内譯書ニ據リ現金收入支出ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 本廳ニ於テ各縣ヨリ縣稅及縣稅外諸收入其ノ他ノ收入計算書又ハ收入報告書ヲ受ケタルトキハ前條ノ收入額ニ對照シテ精算スヘシ

第十八條 內務部會計課長ハ收入總計算書ヲ調製シ收入命令官ヲ經テ翌月十日限り知事ニ提出スヘシ

第四章 支出

第十九條 經費其ノ他ノ支出ハ支出命令ニ依リ之ヲ仕拂フヘシ但シ本廳ニ在リテハ支出傳票ヲ金庫ニ提出シ支出命令ニ代ヘ直ニ債主ニ支拂ハシムルコトヲ得

第二十條 支出命令ハ甲、乙、丙ノ三種トシ左ノ區分ニ依リ之ヲ發ス可シ

一、甲號支出命令ハ直拂ニ之ヲ用ヒ其ノ效用ハ命令發行當日限リトシ直接債主ニ交付スヘシ

二、乙號支出命令ハ債主ノ居所ニ送金ヲ要スルトキ之ヲ用ヒ仕拂通知書及支出命令ヲ縣金庫ニ送付スヘシ但シ本命令ヲ發行スルハ甲號又ハ丙號ニ依ルチ不便トスル場合ニ限ル

三、丙號支出命令ハ管内各地ノ債主ニ對シ縣金庫又ハ縣支金庫ニ於テ仕拂ヲ要スルトキ之ヲ用ヒ仕拂通知書ヲ債主ニ送付セントスルトキ同時ニ支出命令ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

縣吏員其ノ他職員ノ俸給仕拂ニ限リ其ノ支出命令ニ縣吏員納付金引去高ニ對スル通知書ヲ接續セシメタル場合ハ縣金庫ハ現金引去保管ト同時ニ其ノ通知書ヲ收入命令官ニ送付スヘシ

數人ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ乙號及丙號ニ限リ集合支出命令ヲ發スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ金額氏名表ヲ添付スヘシ但シ本廳ニ在リテハ送金整理簿ヲ提示シテ金額氏名表ニ代フルコトヲ得

第二十一條 甲號支出命令ハ直接之ヲ債主ニ交付シ領收證ヲ徵スヘシ但シ第十九條但書ノ場合ニ於テハ領收證ヲ徵シ縣金庫ヲシテ現金ヲ支拂ハシムヘシ

乙號支出命令ニ對スル仕拂通知書ハ縣金庫ヲシテ債主ニ送附セシメ領收證ハ縣金庫ヲ經テ之ヲ徵スヘシ

丙號支出命令ニ對スル仕拂通知書ハ直接債主ニ送付スル場合ノ外債主所在地ノ廳長(橫濱市長)若ハ町村長其ノ他官吏職員職員ヲシテ債主ニ交付セシメ領收證ハ縣金庫ヲ經テ之ヲ徵スヘシ

第二十二條 甲號支出命令又ハ仕拂通知書ノ失效又ハ亡失汚染若ハ毀損シタルトキハ債主ニ於テ其ノ事由ヲ具シ支出命令官ニ再渡ヲ請求スルコトヲ得

支出命令官ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ支出傳票ニ再發行ノ旨ヲ附記檢印シ之ヲ再發行スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ失效又ハ汚染若ハ毀損ニ係ル支出命令又ハ仕拂通知書ハ還納セシムヘシ

第二十三條 左ノ經費ハ現金ノ仕拂ヲ爲サシムル爲メ縣出納吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

一 他府縣ニ於テ聯合開設セル共進會又ハ博覽會其ノ他ノ事務所々々要ノ經費但シ毎回一ヶ月所要見込額以內

二 罹災救助費但シ毎回所要ノ概算額以內

三 直營事業ニ關スル諸費但シ毎回前渡金參千圓以內

第二十四條 左ノ經費ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

一 機密費但シ豫算月割額三箇月以內

二 旅費但一旅行豫定三日以上ノ旅行ニ對シ五分ノ四以內

第二十五條 第二十三條ノ現金前渡ハ毎回ノ仕拂精算ヲ了セサレハ次ノ現金前渡ヲ爲スコトヲ得但シ直營工事ニ關スル諸費ハ此ノ限ニ非ラス

第二十六條 第二十三條ノ現金前渡ハ毎回ノ仕拂精算ヲ了セサレハ次ノ現金前渡ヲ爲スコトヲ得但シ直營工事ニ關スル諸費ハ此ノ限ニ非ラス

第二十七條 警務部長ハ機密費ヲ領收シ正當債主ニ交付シ其ノ領收證ハ別ニ之ヲ保存スヘシ

第二十八條 縣出納吏ニ於テ現金前渡ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ費途、金額、事由ヲ詳記シ知事ニ請求スヘシ

第二十九條 支出命令ヲ發セムトスルトキハ左ノ事項ヲ審査スヘシ

- 一 必要ノ經費ナルヤ
- 二 豫算ニ定メタル目的ニ違フコトナキヤ
- 三 金額ニ違算ナキヤ
- 四 支出科目及所屬年度ヲ違フコトナキヤ
- 五 豫算額ニ超過スルコトナキヤ



六 一時取扱金ノ類ニシテ支出豫算ノ定メナキモノニ對シテハ既納金額ニ符合セルキ  
第二十九條ノ二 過年度ニ屬スル經費ハ左ニ掲ケルモノニ限リ現年度ノ豫算定額ヨリ支出スヘシ

一 恩給、給料、旅費

二 交付金、各種補助金、獎勵金、其ノ他法令ニ基ク支出

第三十條 歳出金ノ所屬年度、科目等ノ誤謬ヲ發見シ又ハ一時取扱金ノ收入ヲ歳入ニ更訂セムトスルトキハ支出更  
訂傳票ヲ調理シ直ニ之ヲ更訂シ縣金庫ノ計算ニ關係セルモノハ同時ニ之ヲ縣金庫ニ通知スヘシ

第三十一條 歳出金ノ定額戻入ヲ要スルトキハ支出命令官ハ其ノ時々收入命令ヲ發スヘシ

收入命令ヲ受ケタル納入ノ現金納付手續ハ第十二條ノ例ニ依ル

第三十二條 (削除)

第三十三條 本廳ニ於テ各縣ヨリ支出計算書ヲ受ケタルトキハ會計検査委員檢了ノ後之ヲ前條ノ仕拂額ニ對査シ精  
算スヘシ

第五章 縣出納吏

第三十四條

本廳及各縣ニ縣出納吏ヲ置キ本廳ニ在リテハ内務部會計課長、各縣(市役所)ニ在リテハ廳長、市役所  
ニ在リテハ收入役ヲ以テ之ニ充ツ但シ止ムヲ得サル場合ニ限リ其ノ責任ヲ以テ他ノ者ヲシテ其ノ事務ヲ補助セシ  
ムルコトヲ得

前項ノ外特ニ縣出納吏ヲ置クノ必要アルトキハ知事之ヲ命ス

第三十五條

縣出納吏ハ其ノ責任ニ屬スル會計ニ對シ自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシ責任ヲ免ル、コトヲ得ス但  
シ知事ノ命シタル代理者ノ所爲ニ對シテハ此ノ限ニ非ラス

第三十六條

縣出納吏ニ於テ徵收處分ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ納人ニ交付スヘシ  
前項領收現金ノ内歳入金ハ納付書ヲ添付シ直ニ縣金庫ニ拂込ミ他廳ノ囑託ニ依リ領收シタル現金ハ直ニ回送ノ手  
續ヲ爲スヘシ

縣稅外諸收入徵收規則ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ納人ニ交付スヘシ但入浴料ノ徵收ニ關シテハ此ノ  
限ニ在ラス

前項ノ收入金ハ七日以内ニ縣金庫ニ拂込ムヘシ但シ保管ノ現金ハ五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス  
縣金庫ニ於テ歳入金ヲ領收シタルトキハ納付書ニ接續ノ領收證ハ直ニ納人ニ交付シ納付書ハ納付済ノ旨ヲ附記シ  
收入命令官ニ送附スヘシ

第三十七條

縣出納吏ノ保管ニカ、ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第三十八條

縣出納吏ニ於テ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳具シ知事ニ稟申スヘシ但シ市役  
所ニ在リテハ市長ヲ經由スヘシ

第三十九條

縣出納吏ニ於テ現金前渡ヲ受ケ其ノ仕拂了リタルトキハ三日以内ニ仕拂精算書ヲ調製シ之ニ證憑書  
類ヲ添付シ知事ニ提出スヘシ

第四十條

工務執行ニ關スル規定ハ別ニ定メアルモノ、外第五十九條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十一條

物件ノ賣買貸借、其ノ他ノ請負ハ競争入札ニ附スヘシ  
左ノ場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 一人又ハ一會社ノ専有スル物件ヲ買入又ハ借入ル、トキ

二 臨時急施ヲ要シ競争入札ニ付スル暇ナキトキ

三 競争入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ尙豫定價格ノ制限ニ達セサルトキ但シ最初競争入  
札ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更セサル場合ニ限ル

四 同一物件ノ賣買、貸借、其ノ他ノ請負ヲ既約ノ請負人ニ追加請負ハシムルヲ利益ト認メタルトキ

五 土地、建物ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限リアルトキ

六 試験若ハ産業ノ保護獎勵ノ爲工作又ハ製造ヲ命シ若ハ物件ヲ買入又ハ借入ル、トキ

七 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品ヲ直接ニ買入ル、トキ

八 官廳又ハ學校、農事試驗場其ノ他ノ公共團體及公益法人若ハ慈善團體ヨリ直接ニ物件ヲ買入又ハ借入ル、ト  
キ

九 種畜種穀種苗其他ノ商工見本品ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

- 十 見積金額又ハ豫定貨料年額五百圓ヲ超エサル物件ノ賣拂、貸付又ハ見積金額千圓ヲ超エサル物件ノ買入借入若ハ請負ヲ爲サシムルトキ
- 十一 學校病院又ハ試験場ニ於テ生産又ハ製造セル物件ヲ賣拂フトキ
- 十二 勞力供給又ハ運送保管ヲ請負ハシムルトキ
- 十三 公共用又ハ公益事業ニ供スル爲メ必要ナル物件ヲ直接ニ其ノ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

第四十一條ノ二 左ノ場合ニ於テハ指名競争ニ附スルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的ニヨリ競争ニ加ハルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ附スルノ必要ナキトキ
- 二 五千圓ヲ超エサル工事若クハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル物品ノ買入ヲ爲ストキ
- 三 貸借料年額又ハ總額參千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 四 豫定貨料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 五 前三號以外ノ契約ニシテ其ノ金額貳千圓ヲ超エサルトキ

第四十二條 競争入札ニ付スヘキ事件ハ左ノ方法ニ據ルヘシ

- 一 一廉見積價格千圓以上ノモノハ新聞紙及公報ヲ以テ公告スヘシ
- 二 一廉見積價格千圓未滿ノモノハ公報又ハ揭示ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四十三條 競争入札公告ハ入札期日ヨリ少クモ五日以前ニ於テシ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 競争入札ニ付スヘキ事項
- 二 入札人心得書、契約書案、見本其ノ他ノ必要ノ事項ヲ示スヘキ場所
- 三 入札並開札執行ノ場所及日時
- 四 入札ノ保證金額
- 五 入札人ノ資格ヲ制限シタルトキハ其ノ要件

第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ハ爾後二年間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人支配人番頭手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

- 一 請負契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ物件其ノ他ノ調達ヲ粗雑ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者
- 二 競争入札ニ際シ漫ニ價格ヲ競上ケ若ハ競下クルノ目的ヲ以テ連合シタル者
- 三 競争入札ノ加入ヲ妨害シ若ハ競落者ノ契約履行ヲ妨害シタル者
- 四 物件其ノ他調達品ノ検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
- 五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セザリシ者
- 六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ其ノ代理人支配人番頭手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第四十五條 入札保證金ハ入札金額ノ百分ノ五以上ノ現金トス但シ有價證券ノ賣買又ハ單價請負ニ關スル入札保證金額ハ其ノ時々之ヲ定ム

第四十六條 入札セムトスル者ハ豫定ノ日時ニ指定ノ場所ニ出頭シテ保證金ヲ提供シ書面ニ依リ之ヲ爲スヘシ但シ代理人ニ依リテ入札ヲ爲サムトスルトキハ同時ニ其ノ委任狀ヲ差出スヘシ

入札書ハ郵便ニ付スルコトヲ得此ノ場合ニ置ケル入札保證金ハ第十三條ニ依リ代用金券ヲ以テ同時ニ本廳ニ在リテハ内務部會計課長ニ各聯ニ在リテハ其ノ廳長ニ送付スヘシ

入札書ハ一旦提出シタル後ハ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 入札ニ付シタル目的物ノ豫定價格ハ之ヲ封緘シテ開札ノ際其ノ開札場所ニ備ヘ置クヘシ

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ無効トス

- 一 入札人ノ資格ヲ制限シタルトキハ其ノ資格ヲ證スル書類ヲ提出セス又ハ入札人タル資格ナカリシトキ
- 二 代理人ノ入札ニシテ委任狀ヲ提出セサルトキ
- 三 郵便ニ付シタル入札書ニシテ入札保證金ノ代用金券ト同時ニ入札期日ノ前日迄ニ到達セサルトキ

四 入札保證金ヲ提供セス又ハ規定ノ額ニ達セサルトキ

五 入札書ノ金額其ノ他要件ノ認知シ難キトキ

第四十九條 開札ハ公告ニ示シタル場所日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札人出席セサルカ又ハ出席セサルモノアルトキハ入札ニ關係ナキ官吏、吏員、職員ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

第五十條 開札ノ上入札價格一モ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏吏員職員ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十一條 入札ノ際不正ノ入札アリ又ハ競争入札ノ實ナシト認ムルトキハ其ノ入札ノ執行ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五十二條 落札決定シタルトキハ之ヲ落札人ニ告知スヘシ

落札人ハ前項告知ノ日ヨリ三日以内ニ其ノ契約ヲ締結スヘシ

第五十三條 落札人前條末項ノ期限内ニ其ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ入札ヲ行フヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ第四十三條ノ公告期間ヲ三日マテニ短縮スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ先キノ入札ニシテ採用スヘキ制限以内ノモノアルトキハ入札ノ手續ヲ爲サス順次之ヲ採用スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ追徴セサルコトヲ得

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札保證金ハ違約金トシテ縣ノ所得トス

一 入札人タル資格ナキトキ

二 指定ノ期日内ニ契約ヲ結ハス又ハ契約保證金ヲ納付セサルトキ

第五十五條 入札保證金ハ落札人定マリタルトキ又ハ競争入札ヲ取消シタルトキハ直ニ之ヲ還付ス但シ落札者ノ入札保證金ハ契約ヲ締結ノ上契約保證金ヲ納付シタル後之ヲ還付スヘシ  
落札者ノ入札保證金ハ本人ノ申請ニ依リ契約保證金ニ轉用スルコトヲ得

第五十六條 契約書ニハ契約ノ目的金額數量履行期限保證金額契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分危險ノ負擔其他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ設計書又ハ仕様書アルモノハ之ヲ添付スヘシ

契約書ハ當該官吏吏員職員記名捺印スルコトヲ要ス

左ニ掲ケル場合ニ於テハ契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ必要ナル事項ヲ記載シタル調書請書又ハ見積書ヲ徴スヘシ

一 千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

三 物品買入ノ場合ニ於テ直ニ現品ノ受渡ヲ爲シ得ルトキ

四 雜賣ニ付スルトキ

五 第四十一條第二項第八號第十一號第十三號ニ該當スルトキ

第五十七條 契約保證金ハ請負金額ノ百分ノ十以上ノ現金トス但シ有價證券ノ賣買又ハ單價契約ニ關スル契約保證金ノ額ハ其ノ時々之ヲ定ム  
契約保證金ハ本廳ニ限リ請負金額千圓以上ノモノハ國債證券又ハ勸業債券ヲ現金ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル價格ハ券面額ノ貳割減ヲ以テ之ヲ算定ス

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ契約保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三項第二號乃至第五號ノ場合亦同シ

第五十八條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約又ハ本則ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外保證金ハ縣ノ所得トス  
履行期限ノ延滞ニ對シテハ延滞日數一日ニ付契約金額ノ二百分ノ一以上ニ相當スル過怠金ヲ徵收スルコトアルヘシ此ノ場合ハ契約金ノ支拂ニ際シ之ヲ控除スルモノトス

第五十八條ノ二 指名競争ニ付セントスルトキハ三人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第四十三條ニ規定シタル事項ヲ入札者ニ通知スル外一般競争ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第四十五條ノ入札保證金ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第五十八條ノ三 物件ノ賣買又ハ請負ニ付特ニ必要アリト認ムルトキハ本章ノ規定ニ準シ之ヲ變ニ付スコトヲ得但

シ此ノ場合ハ豫定價格ヲ公示スルコトアルヘシ

第五十八條ノ四 物品ノ賣拂ヲ爲ストキハ其ノ引渡前代金ヲ完納セシムヘシ

第五十八條ノ五 金千圓ヲ超ユル製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣工又ハ完納ノ後之ヲ検査シタル官吏職員又ハ技術者ヲシテ其ノ調査書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ製造ノ既済部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完済前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハントスルトキハ検査ノ官吏職員又ハ技術者ヲシテ調査ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調査ニ依ルニ非ラサレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十八條ノ六 前條第二項ノ支拂ヲ爲サルトスルトキハ製造ニ付テハ其ノ既済部分ニ對スル十分ノ八物件買入ニ付テハ其既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ個々ニ分立シ得ヘキ性質ノ製造ニ於ケル各個ノ既済部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第五十八條ノ七 前二條ノ規定ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 各麻(市役所)ニ於テハ左ニ記載セル事件ハ其ノ事實ヲ詳具シ稟申認可ヲ受ケタル後之ヲ執行スヘシ但シ契約ヲ要スルモノハ其契約書案ヲ添付スヘシ

一 土地建物ノ賣買貸借但シ賣却ニ在リテハ豫定價格ヲ低減シ買受ニ在リテハ豫定價格超過ノトキ貸借ニ在リテハ豫算ニ指定ナキカ又ハ豫算ニ定ムル貸借料ヲ低減若ハ超過ノ場合ニ限ル

二 豫算ニ指定セル備品ノ購買及工事其ノ他ノ施設ヲ變更セムトスルトキ但シ購買ニ在リテハ同品目ノ總價格百圓以上ノモノナルトキ工事ニ在リテハ新營又ハ指定修繕ノ設計ヲ變更セムトスル場合ニ限ル

三 其ノ他豫算ニ計上セザリシ臨時ノ事件及第四十五條第一項但書又ハ第五十七條第一項但書ニ依ル保證金額ノ決定

第六十條 (削除)

第七章 支出證明

第六十一條 本廳内務部會計課長及各麻長ハ毎月支出ノ證明トシテ支出計算書ヲ調製シ之ニ證憑書類ヲ添付シ(本廳ニ在リテハ支出命令官ヲ經テ)翌月十日限り知事ニ提出スヘシ

内務部會計課長又ハ各麻長交送アリタルトキハ前任者ノ取扱ニ係ル金額ハ後任者ニ於テ其ノ月ノ支出計算書ヲ調製スヘシ

各麻長ハ縣金庫ヨリ提出セル收支月計對照表ノ證明ハ直ニ之ヲ爲シ第六十一條式ノ二ノ收支科目内譯書ヲ添付シ當該縣支金庫ヲ經テ知事ニ提出スヘシ

第六十二條 支出計算書ニハ左ノ事項ニ該當ノ廉アルトキハ其ノ事由書ヲ添付スヘシ

一 支出期限ノ定メアル經費ニシテ其ノ期日ニ先チ又ハ後レテ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ費目及事由

二 債主所在不明若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキハ其ノ費目並金額、事由、債主氏名

三 過誤拂ニ依リ定額ノ戻入並更訂又ハ追拂ヲ要スルモノヲ發見シ其月内ニ整理シ得ザリシトキハ其費目並金額、事由、債主氏名、整理豫定期日

四 前各號ノ外特殊ノ事件ハ其事由

第六十三條 支出計算書ニ添付スヘキ證憑書類ハ左ノ書類トス

一 支出傳票、戻入又ハ更訂傳票

二 工事及物件購入又ハ借入ニ關スル契約書及入札書類

三 工事ノ既済部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ内渡金ヲ爲シタルトキハ主任官吏、吏員、職員ノ作成シタル既済又ハ既納額ノ證明書

四 迂路ヲ經テ旅行シ又ハ病氣滞在其ノ他ノ事故ニ依リ公務外日數ヲ要シタルトキ若ハ旅費其他ノ實費拂ヲ爲シタルトキハ本廳直轄ノ經費ニ對シテハ知事若ハ委任ヲ受ケタル部長、各麻ノ經費ニ對シテハ麻長ノ認許書又ハ理由書及其ノ附屬書類

五 管外ニ於ケル郵便線路ナキ地ノ旅行ニ對シ車馬賃ノ支給ヲ爲シタルトキハ其ノ地官公署ノ里程證明書

六 正當債主ノ領收證ヲ得難キ場合ニ於テハ本廳直轄ノ經費ニ對シテハ主務部長、各麻ノ經費ニ對シテハ麻長ノ認定書

七 外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其ノ譯文

八 債主領收證未到達ノモノアルトキハ其ノ仕譯書

第六十四條 證憑書ハ支出科目ノ款毎ニ編冊シ冊中ニ項、目、節毎ニ區分シ其ノ金額及科目ヲ表記シ(二目、節出テ)ノ傳票ニ併合シタルトキハ併合セラレタル目節ノ表紙ニ(以上ノ支ハ内金何程何々(目節)ニ併合(又ハ何々目節ニ併合ト附記シ) 尙之ヲ總括シ表紙ヲ附シ其ノ表紙ニ金額ヲ記載スヘシ但シ各解ニ在リテハ其ノ總括ノ表紙ニ解名ヲ記スヘシ) 前條第二乃至第七ノ書類ハ其ノ所屬傳票ニ添付シ戻入竝更訂傳票ハ戻入又ハ更訂ヲ受ケタル科目毎ニ支出傳票ニ付屬編纂スヘシ

第八章 決算

第六十五條 決算ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第九章 縣金庫

第六十六條 縣金庫ニ關スル規定ハ別ニ定メアルモノ、外本則ニ依ルヘシ

第十章 帳簿

第六十七條 本廳ニ於テハ原簿、補助簿、送金整理簿ヲ設ケ其ノ收支ヲ整理スヘシ

第六十八條 縣出納吏ハ現金出納簿ヲ設ケ現金ノ出納ヲ整理スヘシ

第六十九條 各解ニ於テハ左ノ帳簿ヲ設ケ其ノ收支ヲ整理スヘシ

一 經費支出整理簿

二 雜部收入整理簿

三 送金整理簿

四 補助簿(第六十七條式ノ九乃至一四ニ準ス)

第七十條 收入支出ハ當日記帳ヲ完了シ其ノ傳票ハ收入支出ノ二類ニ分チ各別ニ回覽書ヲ添付シ所屬收支命令官ノ檢閱ニ供スヘシ

本廳ニ在リテハ前項ノ外收支日計表並毎月末月計表ヲ調製シ收支命令官ノ檢閱ニ供スヘシ

第七十一條 前條ノ回覽書及收支日計表ヲ檢閱スルトキハ左ノ要件ヲ確ムヘシ

收入支出ノ金額ハ本廳ニ在リテハ縣金庫保管金計算表ニ各解ニ在リテハ縣金庫收入報告書及支出報告書ト符合スルヤ否ヤ又收入傳票ニハ縣金庫ノ領收通知書ノ添付シアルヤ否ヤ

支出傳票ニハ領收證ノ添付シアルヤ否ヤ又送金拂ニ係ルモノハ縣金庫ヨリ提出セル送金領收證書計算書ト符合セルヤ否ヤ

ルヤ否ヤ

第十一章 物品出納

第七十二條 物品出納ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十二章 附則

第七十三條 收支命令官又ハ縣出納吏ハ出納上照較ニ供スル印鑑ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

第七十四條 每年末支出ヲ要スルモノハ十二月二十二日迄ニ請求シ同月二十五日限り金錢ノ支出ヲ停止ス但シ臨時

急施ヲ要スルモノ又ハ支出期限ノ定メアルモノハ此ノ限ニ非ラス

第七十五條 本則ノ帳簿諸表其ノ他ノ様式並傳票調理要項ハ別冊附録ニ依ルヘシ

第七十六條 金錢出納ニ記載スル數字ハ必ス壹、貳、參、拾、ノ字體ヲ用ウヘシ

第七十七條 各解長又ハ縣出納吏交替ノトキハ帳簿及證憑書類、現金ノ受授ヲ了シ後任者ヨリ其ノ旨直ニ知事ニ報告スヘシ

縣出納吏前項ノ場合ニ於テハ帳簿ノ末尾ニ引繼年月日ヲ記入シ双方署名捺印スヘシ

第七十八條 縣出納吏死亡其ノ他ノ事故ニ依リ自身ニ事務ノ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ知事ハ他ノ官吏、吏員

又ハ職員ニ命シテ前條ノ引繼ヲ爲サシム

第七十九條 本令ハ明治四十二年度所屬ヨリ之ヲ施行ス但シ第六條ノ出納期限ハ明治四十一年度所屬ヨリ之ヲ施行ス

第八十條 明治三十四年三月神奈川縣訓令第十六號及廳訓第四十二號、達第五十號神奈川縣會計規程ハ之ヲ廢止ス

(書式略ス)

● 縣稅外諸收入徵收規則

明治四十四年三月二十七日 縣令第二十二號

改正 明治四十五年三月縣令第二十二號、大正二年三月第二十九號、第四四號、四月第五八號、四年四月第三一號、五年四月第三一號、七月第四四號、

八年四月第三三號、八月第七一號、九年九月第八五號、一〇年二月第一四號、四月第五六號、一一年三月第二三號  
縣稅外諸收入徵收規則左ノ通之ヲ定ム

縣稅外諸收入徵收規則

第一條 本則ニ縣稅外諸收入ト稱スルハ財產收入、雜收入、財產賣拂代等ノ諸收入ヲ謂フ

第二條 本則ニ麻長ト稱スルハ郡長、縣立學校長、警察署長、警察分署長、消防署長、縣立農事試驗場長、種畜場長、穀物検査所長、水産試驗場長、薰育院長、測候所長、原蠶種製造所長、眞金町病院長、橫須賀病院長、藤澤病院長、蠶業取締所長、輸出羽二重検査所長、市町村長ヲ謂フ

第三條 縣稅外諸收入ヲ徵收セムトスルトキハ麻長ハ納人ニ對シ納額告知書ヲ發スヘシ但シ縣吏員納付金ハ俸給支出ノ際其納付金引去高ヲ支出命令又ハ仕拂通知書ニ督促手數料ハ督促狀ニ之ヲ記載シ納額告知書ヲ發付セス左ニ掲ケル收入ハ納額告知書ヲ發セス縣出納吏ニ於テ現金ヲ領收スルコトヲ得

一、辨償金、入學料、手數料、畜犬票交付料、入浴料、自轉車鑑札料  
二、生産物又ハ製造品賣拂代、作業收入

但シ一廉金五拾圓未滿ノ場合ニ限ル

前各項ノ外證紙ヲ以テ徵收スルコトアルヘシ

第四條 知事又ハ麻長(市町村長ヲ除ク)ニ於テ發スル納額告知書ハ第一號式、縣立學校ニ於ケル授業料ニ在リテハ第二號式、市町村長ニ於テ發スル納額告知書ハ第三號式ニ依リ調製シ遲クモ納期五日前授業料ニ在リテハ學年始月ノ納期十日前半途轉入ノ際ハ其ノ時々之ヲ納人ニ交付スヘシ但シ隨時徵收ニ係ル納額告知書ハ其ノ時々納人ニ交付スヘシ

納額告知書發付ノ後其ノ金額ヲ更正セントスルトキハ増額ハ納額告知書ヲ追發シ減額ハ其ノ納額告知書ヲ更正スヘシ

第五條 納金ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ代納人ヲ定ムルコトヲ得

前項代納人ヲ定メタルトキハ麻長(町村長ヲ除ク)ニ申告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 麻長(町村長ヲ除ク)ニ於テ前條ノ申告ヲ受ケタル場合ニ其代納人ニ於テ數名ノ代納人タルトキハ一通ノ納

額告知書ニ一人別納額ヲ記載シタル仕譯書ヲ添付スルコトヲ得

第七條 本則ノ收入(法律ノ規定ニ依リ滯納)ヲ定期内ニ納メサル者ニ對シ督促並ニ滯納處分ヲ要スルトキハ郡部縣稅徵收細則ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ督促手數料ハ別ニ規定スル所ニ依ルヘシ

第八條 麻長ハ納人又ハ其ノ者ノ財產ニシテ他郡市内ニ在ルトキハ郡部縣稅徵收細則ノ規定ニ準シ所轄郡市長ニ其ノ徵收ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九條 納人ニ於テ現金ヲ納額告知書指定ノ場所ニ納付セムトスルトキハ該告知書ヲ添付スヘシ

督促手數料又ハ第八條ニ依リ徵收處分引繼ニ係ル滯納金ヲ納付セムトスルトキハ郡市役所ヨリ第四號式納付書ノ交付ヲ受ケ之ニ現金ヲ添ヘ縣金庫又ハ市收入役ニ拂込ムヘシ

納金ハ郵便爲替又ハ銀行ノ爲替手形ヲ以テ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ納額告知書指定ノ市町村收入役又ハ縣金庫ヲ受取人ニ指定シ受取人所在地ニ於テ直ニ現金ニ交換シ得ヘキモノニ限ル

前項ノ場合ニ於テ其ノ金券ニ納額告知書ヲ添付シ郵送セムトスルトキハ領收證ノ送付又ハ第十條第二項但書ノ場合ニ要スル郵稅ヲ郵便切手ヲ以テ同時ニ送付スヘシ

第十條 市町村收入役ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ所定ノ領收證ヲ直ニ納人ニ交付シ當日ノ徵收額ハ第五號式ノ日計表ヲ作リ納額告知書ヲ添付シ市町村長ニ通知スヘシ

前條第四項ノ場合ニ於テハ市町村收入役ハ現金ニ交換テ了シタル上前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ金券事故ニ依リ直ニ現金ニ交換シ得サルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ金券及納額告知書ヲ添付シ市町村收入役ヨリ之ヲ本人ニ通知スヘシ

第十一條 市役所町村役場ニ於テ徵收シタル本則ノ諸收入ハ翌月十日限り第六號式ノ納付書ヲ添付シ縣金庫ニ拂込ムヘシ

第十二條 縣金庫ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ納額告知書又ハ納付書接續ノ領收證ヲ直ニ納人ニ交付シ納額告知書又ハ納付書ハ納付済ノ旨ヲ附記シ知事又ハ麻長ニ送付スヘシ

縣立學校ニ於ケル授業料ニ在リテハ縣金庫ハ納額告知書裏面ニ式ノ如ク領收證印ノ上第八號式ノ通知書ヲ添付シ麻長ニ送付シ麻長ハ其ノ納額告知書裏面ニ式ノ如ク檢印ヲ爲シ納人ニ交付スヘシ

第九條第四項ノ場合ニ於テハ縣金庫ハ第十條第二項ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 町村又ハ納入ニ於テ既納額中過誤納ヲ發見シタルトキハ其下戻ヲ麻長ニ請求スヘシ  
麻長ニ於テ過誤納ヲ發見シタルトキ又ハ前項ノ請求ヲ受ケ相當理由アリト認ムルトキハ神奈川縣會計規則ニ依リ  
之ヲ還付スヘシ但シ其過誤納ニシテ過年度收入ニ屬スルトキハ知事ニ之ヲ請求スヘシ

第十四條 本廳及各縣ニハ左ノ簿冊ヲ設備スヘシ但シ補助簿ハ適宜之ヲ設備スルコトヲ得

- 一、縣稅外諸收入徵收簿第九號式(本廳及各縣但シ市役)
- 二、授業料徵收原簿第十號式(縣立學校)
- 三、縣稅外諸收入徵收簿第十一號式(町村役場)

第十五條 本廳內務部會計課長及各縣長(町村長)ハ毎月第十二號式ノ收入計算書ヲ調製シ翌月十日限リ知事ニ提出スヘシ

第十六條 收入計算書ニ添付スヘキ證憑書類ハ左ノ書類トス

- 一、收入傳票
- 但シ各縣ニ於テハ第十三號式ノ收入仕譯書ヲ調製シ收入傳票ニ代ユルコトヲ得
- 二、入札書、契約書、請書、見積書、評價書、豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類
- 三、過誤納下戻支出傳票

附則

第十七條 本令ハ明治四十四年度所屬ヨリ之ヲ施行ス明治三十九年三月神奈川縣令第二十一號縣稅外諸收入徵收規則ハ之ヲ廢止ス

(書式略ス)

會計規則疑義ニ關スル件

大正元年十月三十一日  
會收第二五四五號內務部長

一、本縣會計規則第五十九條ノ二號中「變更」トアルハ例之ハ備品ニアリテハ豫算ニ指定スル五十圓以上ノ甲ナル物品ノ購入ヲ中止シテ乙ナル物品ヲ購入セントスル場合又工事ニ在リテハ甲ナル工事ノ經費ヲ以テ乙ナル工事ヲナ

シ或ハ同一工事ニテモ全ク其設計ヲ變更セントスル場合ニ限リタルモノニシテ備品購入又ハ工事執行ニ當リ時價ノ高低ニ依リ金額ニ多少ノ増減ヲ生スル場合ハ備品購入ノ目的又ハ工事施設ノ變更ニアラサルヲ以テ認可ヲ受ク  
ルヲ要セザルナリ

二、本年十月二十二日付內會發第一一四號支出傳票調製方ノ件通牒中「指定豫算ノ不足ノ理由及補充方法云々」トアルハ備品ニアリテハ價格五十圓以上ニ適用シ又同通牒中「豫算ノ制限」トアルハ會計規則第五十九條一號ノ三ニ關スルモノナリナリ

右御廳議承知致度候間至急何分ノ御回示相成度候也(縣立第四中學校長)

右照會ノ件ハ左記ノ通り御了知相成度候也(內務部長)

第一項ハ御見込ノ通り但シ指定豫算超過ノ場合ハ十月二十二日付內會發第一一四號支出傳票調製方ノ件通牒ニヨリ其ノ理由及補充方法ヲ支出傳票ニ明記ヲ要ス

神奈川縣縣有財產管理規則

大正五年十二月二十七日  
縣令第八十六號

神奈川縣縣有財產管理規則通常縣會ノ議決ヲ經左ノ通之ヲ定ム

神奈川縣縣有財產管理規則

第一條 本則ニ於テ縣有財產ト稱スルハ縣ノ所有ニ屬スル土地、森林、建物、船舶及其ノ附屬物並特別ノ基金若ハ資金トス

第二條 縣有財產ノ賣却、讓與、交換貸付及保管ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ本則ニ依ル

第三條 縣有財產ノ保管ハ左ノ區分ニ依ル

- 一、有價證券ハ縣廳ニ保管シ又ハ日本銀行橫濱正金銀行若ハ日本興業銀行ニ保護預ケト爲ス
- 二、現金ハ縣金庫ヲシテ保管セシメ又ハ大藏省預金若ハ確實ナル銀行ニ利附預金ト爲ス

三前各號以外ノ財産ハ縣廳又ハ直接ニ使用スル各弊ニ於テ保管ス

第四條 縣有財産ノ賣却ハ總テ公告シテ競争ニ付ス但シ左ノ場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 公共又ハ公益ノ事業ニ供スル爲官廳公共團體又ハ其ノ他ノ起業者ニ賣却スルトキ

二 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ尙豫定價格ニ達セサルトキ

三 見積價格三百圓未満ノ財産ヲ賣却スルトキ

四 官有財産管理規則第十三條及官有地特別處分規則第三條ニ依リ讓受ケタル土地ヲ賣却スルトキ

五 前各號ノ外特ニ縣參事會ノ議決ヲ經タルトキ

第五條 縣有不動産ノ貸付ハ縣參事會ノ議決ヲ經ルモノトス但シ公共又ハ公益ノ事業ニ供スル場合又ハ一時限ノ貸付ニ付テハ知事ニ於テ直ニ貸付ヲ爲スコトヲ得

第三條第三號ノ保管者ハ其ノ目的ノ使用ニ支障ヲ生セサル限り其ノ保管ニ係ル財産ヲ一時他ニ使用セシムルコトヲ得

第六條 縣有財産ノ賣却代金ハ其ノ財産引渡前ニ納付セシム但シ官廳ニ賣却スル場合又ハ特別ノ事情アルモノニ在テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 縣有財産ノ貸付期限ハ五ヶ年以内トシ相當貸付料ヲ徵收ス但シ左ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ徵收セサルコトヲ得

一 公共又ハ公益ノ事業ニ供スル爲若ハ營利ノ目的ニアラサル事業ノ爲ニ貸付スルトキ

二 一時限ノ貸付ヲ爲ストキ

三 前各號ノ外特ニ縣參事會ノ議決ヲ經タルトキ

第八條 縣有財産ノ貸付料ハ官廳ニ貸付ノ場合又ハ特別ノ事情アルモノヲ除クノ外毎年度四月ニ前納セシム但シ新ニ貸付ニ係ルモノハ貸付許可ノ際月割又ハ日割ニ依リ其ノ年度分ヲ前納セシム

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用負擔ノ方法竝ニ必要ナル條件ハ貸付契約ニ依リ之ヲ定ム

第九條 縣有財産ノ借受人故意怠慢ニ因リ其ノ財産ヲ荒廢シ若ハ毀損亡失シタルトキ又ハ許可ヲ受ケスシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シタルトキハ其ノ損害ヲ賠償セシメ又ハ其ノ原形ニ回復セシム

第十條 縣有財産ノ借受人ハ知事ノ許可ヲ受ケタルニアラサレハ之ヲ轉讓讓渡シ又ハ借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

第十一條 縣有財産ノ貸付期間内ト雖モ前條ノ規定ニ違背シ又ハ縣ニ於テ必要アルトキハ貸付契約ヲ解除シ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ貸付契約ノ條件ニ違背シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ既納ノ貸付料ハ之ヲ還付セス但縣ニ於テ必要アルカ爲返還セシメタル場合ハ月割又ハ日割ヲ以テ之ヲ還付ス

第十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ契約ヲ解除シタルカ爲借受人損害ヲ受ケルコトアルモ縣ハ之カ賠償ノ責任ニ任セス

第十三條 縣有財産ハ左ノ場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

一 公共ノ用ニ供スルトキ

二 縣ニ於テ道路、河川、竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設ノ爲官有財産管理規則第十三條ニ依リ讓受ケタル土地ヲ新敷地ノ寄附者ニ之カ代價トシテ讓與スルトキ

第十四條 縣有財産ヲ以テ他ノ財産ト交換スル場合ハ少クとも評定價格相均シキモノニ限ル

第十五條 基金若ハ資金ハ特別ノ必要アルモノヲ除クノ外左ノ各號ニ依リ運用スルモノトス

一 國債證券又ハ其ノ他ノ有價證券ヲ買入ル、コト

二 縣農工銀行株式ノ引受ニ應スルコト

第十六條 縣有財産ヲ賣却貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏吏員ハ之ヲ買受借受又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十七條 縣有財産ノ保護ニ關シテハ本則中貸付ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條 本則ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本則施行前ニ於テ縣有財産ニ付爲シタル契約ハ其ノ期間滿了ニ至ル迄其ノ契約ノ定ムル所ニ依ル

附則

第一編 警務 第三章 會計

九〇七



### ●警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件

大正八年七月十七日  
勅令第三百五十四號

朕警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ハ内地ニ於テハ内務大臣、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百六十三號ハ之ヲ廢止ス

### ●警察署警察分署ニ拘禁留置者ノ食糧金額

明治三十年八月十七日  
內務省令第二十三號

警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ食料ハ一食拾錢以下トス

明治三十年十二月十七日  
內務省令第三十六號

明治三十年省令第二十三號警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ食料ニ關スル規程ハ北海道廳ニモ適用ス

### ●警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ニ關スル件

明治三十五年二月二十七日  
法律第十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

〔監獄則〕第一條ニ依リ警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ニ關スル費用ハ總テ警察費ヲ以テ之ヲ支辨ス但シ其ノ費額ニシテ北海道地方費及府縣ノ負擔ニ關スル部分ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監獄費ヨリ之ヲ償還スヘシ

附則

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來監獄所屬ノ物品ニシテ警察署内ノ留置場ニ設備セルモノハ本法施行ノ際之ヲ北海道地方費及府縣ノ所屬トス但シ警察費ノ國庫支辨ニ屬スル地方ハ此ノ限ニ在ラス

### ●監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額

明治三十五年三月十七日  
司法省令第四號

明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ハ一人一日ニ付金貳拾錢トス但拘禁又ハ留置ノ初日ハ一日ヲ以テ計算シ出監ノ日ハ之ヲ算入セス

### ●警察留置場ニ於ケル拘禁費請求方

大正二年一月三十一日  
內務省元警第一九九二號警保局長

明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ償還ニ要スル金額ハ一ヶ月毎ニ請求セラルヘキ旨及通牒置候處自今三ヶ月毎ニ取纏メ請求セシメラレ候様致度

### ●留置場費收入金取扱方

明治三十七年四月二十六日  
訓令第十九號

明治三十九年一月訓令第三七號、四一年七月第四三號、四二年一月第一號、大正二年二月第七號、八年五月第二四號

留置場費收入金ハ本廳ニ於テ收入スヘキニ依リ其ノ取扱方左ノ通心得ヘシ  
 第一 警察署長、警察分署長ハ別紙様式ノ仕譯書ヲ調製シ翌月十日限り當廳へ提出スヘシ  
 第二 本令ハ明治三十七年度所屬ノ收入ヨリ之ヲ施行ス  
 別紙 (用紙半紙)

何年度第何期留置場費仕譯書式

一金 何 程

但シ何之某外何名此ノ延日數何日分壹日金貳拾錢

内譯

刑名 又ハ令狀	入監月日	出監月日	事	由	延日數	氏名
拘留十日	前月ヨリ越	何月何日			何日	何
同 七日	何月何日	同			同	何
拘留狀	同	同	餘罪發覺ニ依リ何裁判所ニ送致ノ爲メ出監		同	同
何	同	同	何所ノ拘留狀ニ依リ入監ノ處何々ノ爲メ出監		同	同
何	同	同			同	同
計	同	同			何日	同

右之通ニ候也

年 月 日

神奈川縣知事 某 殿

何警察(分署)署長 氏

名

備考

(神奈川縣)

- 一 仕譯書ハ二通提出シ副本ニハ宛名ヲ要セス
- 二 出監月日ハ現ニ出監セシ月日、延日數ハ其ノ月ノ償還ヲ受クヘキ日數トス
- 三 拘留狀ニ依ル入監日數ハ即日押送ニ付スル能ハサル場合ニ一時入監セシメタル日數ヲ掲記スヘキモノトス
- 四 本仕譯書ハ一ヶ年度ヲ第一期自四月第一期自七月第三期自十月第四期自一月二分ヲ調製スルモノトス

### 留置場費仕譯書提出方ノ件

大正十一年一月十六日 戊内會發第五號會計課長

留置場費仕譯書調製及提出ニ關シテハ屢々注意ノ次第モ有之候モ爾今往々提出期甚シク遅延シ又ハ内容調査不備ノ  
 廉有之方照復ヲ重ナル等ノ手數ヲ要シ候ニ付左記事項特ニ御注意ノ上今期(第三期)ノ分至急提出有之度候

(左記)

- 一、前期ヨリ今期ニ繰越シタルモノノ刑名、刑期、入監月日、氏名等前期分ニ對查スルコト
- 一、令狀執行セラレタルモノハ直ニ指定ノ場所ニ押送スヘキモノニテ假ニ一時留置場ニ留置スルモ監獄費請求スヘキモノニアラス但シ日出前日没後又ハ非常避クヘカラサル事變ノ爲メニハ此限リニアラス
- 一、訂正ノ箇所ハ必ス署長職印押捺ノコト
- 一、書體ハ明確ニ記入ノコト
- 一、二通ノ内一通ハ知事宛トシ一通ハ宛名ヲ要セス
- 一、摘要記入ニ注意(滿期放免保證金納入ニ付釋放橫濱區裁判所へ送致等) (終)

### 留置人賄料ノ件

大正八年九月十九日 未警發第二二九號

從來留置人賄料ハ市部一食八錢郡部七錢五厘ニ有之候處物價騰貴ノ爲メ從來ノ單價ニテハ到底支辨シ能ハサルモノ

ト認メラレ九月一日ヨリ市部一食十錢部同九錢五厘ニ増額支給ノコトニ決定候條右ニ依リ御經理相成度依命此段及通牒候也

### ●警察官署附屬留置場ニ拘禁スル既決囚及刑事被告人ノ朝食ニ關スル件

明治四十一年三月二十六日  
警發第一二〇號警務課長依命通牒

警察署又ハ分署所屬ノ留置場ニ拘禁スル既決囚及刑事被告人ニシテ其ノ出場ニ當リ當日朝食時刻後ナルモ之ヲ給與セサル向有之哉ニ相聞ヘ候右ハ差入ヲ認可シタルトキ若クハ本人ノ希望セサル場合ハ格別遠隔ノモノニアツテハ通常給與スヘキモノニ有之候條御了知相成度依命此段及通牒候也

### ●拘留保證金取扱方ノ件

明治四十四年五月十日  
内會第三六七號内務部長

違警罪即決例ニ依ル處分ニ關シ警察署ニ領置セシ拘留保證金ハ本犯正式裁判ヲ求メタル場合ノ取扱方ニ關シ今回其飭ニ稟議ノ未實際ノ便宜上保證金ハ訴訟書類ト共ニ當該裁判所ニ移送スルコトニ決定致候條此段及通牒候也

### ●會計事務取扱方繁文省略ニ關スル件

明治四十三年一月  
縣内會第五一號内務部長

縣經濟ニ屬スル會計事務取扱方繁文省略ノ主旨ニ則リ左記ノ通決定相成度候也

左記

- 一、工事及物件賣買貸借其ノ他請負ニ對シ從來債主ヨリ請求書ヲ徴セシモ特ニ必要アルモノノ外爾今請求書ヲ徴セス工事ニ在ツテハ出來形検査濟物件ノ賣買貸借ニ在ツテハ物件ノ供給又ハ登記濟其ノ他ノ請負ニ在ツテハ相當履行濟ノ後其ノ他契約書或ハ請書ニ定メアル期日ニ至ラハ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

一、支出傳票調理方於テ同科目ノ經費ヲ同時ニ數名ニ送金拂ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ集合シ仕譯書ヲ附シタル傳票ニ依ルヘシ

一、保證金ニシテ契約相當履行濟ノモノハ徴セス還付方申報スヘシ

### ●公簿ヲ以テ事實ヲ協定シ得ヘキモノハ請求書ヲ要セサルノ件

明治四十二年六月二日  
内會第四一二號内務部長通牒

縣經濟ニ屬スル經費支出ニ當リ旅費ノ如キ請求書式ノ定メアルモノノ外出勤簿、宿直日誌、脚夫差出簿、留置場名簿其ノ他公簿ニ於テ其仕拂フヘキ事實ヲ認メ得ルモノニ對シテハ爾今請求書ヲ徴セサルコトニ決定相成候條依命此段及通牒候也

### ●支出傳票併合整理ニ關スル件

明治四十二年六月  
内會第四五八號

各警察署長

縣經濟ニ屬スル經費支出傳票調理方ニ於テ支出期日ノ同一ナル費途ニ對シ併合整理ノ場合ハ會計規則第三條式ノ三及同則第六十四條ニ依リ整理スヘキ管ナルニ其整理方區々ニ涉ル向モ有之候條爾後右様式並ニ規定ニ則リ無遺漏整理方御注意相成度候  
追テ第三條式ノ三中二項以上ニ涉ル場合ハ科目ノ欄ヲ款ニ止メ内譯目ノ上ニ項ノ科目ヲ附記スヘキ義ト御承知相成度候

### ●縣經濟ニ基ク出納傳票ニ計算ノ基ク事由附記方

明治三十九年七月  
内會計第二一七號會計課長

縣經濟出納整理ニ於テ收支傳票ニ計算ノ基ク事由付記方簡略ニ失シ其ノ事件執行判明セサル向往々有之爲ニ推問或ハ照會等ノ手数ヲ重ネ事務整理上支障不尠候條爾今別紙要項ニ基キ調理シ計算ヲ遂ク審査勉メテ不備ノ廉無之様御注意相成度依命此段御通牒及候也  
別紙

收入傳票調理注意要項

- 一、徵罰金ハ其科率、月俸額、發令月日、其他計算ノ基ク事由等ヲ付記スル事
- 一、占用及使用料ハ其占用又ハ使用月數(自何年何月何ヶ月分ト記スルノ類)其他計算ノ基ク事由、占用又ハ使用ノ許可記號年月日等ヲ付記スル事
- 一、物品賣拂代ハ其品名、數量、單價、賣拂決行月日許可又ハ當廳ノ通知ニ依リ執行セシモノハ其記號年月日等ヲ記スル事
- 一、授業料ハ何月分ノ區分其名稱人員一人當リ料金等ヲ付記スル事
- 一、入學料ハ其名稱、人員、一人當リ料金、入學許可ヲ與ヘタル月日等ヲ付記スル事
- 一、手数料ハ其名稱、數料人員一個當リ料金、徵收スヘキ事實ノ生レタル月日(督促手数料ハ督促狀發付月日、蠲定、免許狀書換、再度手数料ハ市町村役場ニ於テ徵收月日分析手数料ハ出願月日)其他計算ノ基ク事由蠲種検査手数料ノ如キ検査所ノ通知ニ依リ徵收セシモノハ其記號年月日等ヲ付記スル事
- 一、作業收入ハ何月分ノ區分、其品名、數量、單價其他計算ノ基ク事由ヲ付記スル事
- 一、賦金ハ何月分ノ區分其標準額課率其他計算ノ基ク事由等ヲ付記スル事
- 一、請願巡查費ハ配置月數(自何年何月何ヶ月分ト記スルノ類)配置時間、配置人員、其他計算ノ基ク事由許可記號年月日等ヲ付記スル事
- 一、辨償金ハ官給其他物品ニアツテハ其品名、原價、給與年月辨償事實ノ生レタル月日其他計算ノ基ク事由行政執行費及滯納處分費其他ノ辨償金ハ總テ計算ノ基ク事由辨償事實ノ生レタル月日許可ヲ經テ辨償セシメタルモノハ其記號年月日等ヲ付記スル事

- 一、其他ノ收入ハ前各項ニ準シ總テ計算ノ基ク事由ヲ詳記シ事件ノ執行ヲ判明ナラシムルヲ要ス
- 一、收入傳票ニ添付スヘキ入札書見積書契約書類ハ遺漏ナキヲ要ス

支出傳票調理注意要項

- 一、俸給(月俸ノ雇員給)ハ何月分ノ區分新任轉免休職、退職、復職、増減俸等ノ發令月日、死亡月日、其他計算ノ基ク事由轉任ニアリテハ前後ノ任地等ヲ詳記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ仕譯書ニ支給額計算ノ基ク事由官職氏名(巡查ニアリテハ部長、署在管區、駐在管區、請願等ノ區分ヲ付記シ)等ノ區分ヲ付シ前段ノ要項ヲ具備スル事
- 一、諸備給(日給雇員給)ハ何月分ノ區分、新任、解備、日給額、増減給額等ノ發令月日、死亡月日、新任ノトキハ就職月日、缺勤ハ其該當日等ヲ付記シ其他臨時人夫ハ備入ノ用途使備月日、人員一人當リ日給額ヲ付記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事
- 一、惠與、退職給與金等ノ一時限リ給與ノモノハ其給與スヘキ理由發令月日、諸手當ハ何月分ノ區分、月額、轉免、増減額等ノ發令月日、死亡月日其他計算ノ基ク事由ヲ付記シ巡查特別手當ハ刑事、通辯、主計、速記ノ專務又ハ兼務ノ用務名、控除スヘキ該當日ヲモ付記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事
- 一、旅費ハ旅行ノ用務ヲ判明ナラシメ巡查囚人護送ニアツテハ囚人氏名、刑事被告人又ハ刑名ノ區分押送先等ヲ付記シ一旅行ノ爲メ同一用務地ニ二回以上往復シタルトキハ其必要ノ理由、許可ヲ經テ出張セシモノハ其記號年月日ヲ付記シ在勤地近傍出張心得ニヨリ距離ノ地ニ宿泊ノトキハ其宿泊ノ必要ナル理由ヲ詳記シタル認可書ヲ添付シ巡查月額旅費ニアツテハ何月分ノ區分、部長、署在管區、駐在管區、請願等ノ勤務別、勤務ニ付キ又ハ離レタル月日控除スヘキ該當日等ヲ付記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事
- 一、被服料ハ何月分ノ區分、勤務ニ就キタル月日、轉免發令月日、死亡月日、其他計算ノ基ク事由巡查ニ在リテハ刑事專務ノ用務名、船員ニアツテハ水夫、火夫、其他ノ用務名、全月分支給ヲ要セサルモノハ其理由、氏名等ヲ付記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事
- 一、巡查宿料ハ何月分ノ區分、宿分、宿所、指定地ニ居住月日、離職轉任等ノ發令月日、死亡月日、其他計算ノ基ク事由ヲ詳記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事

- 一、賄費ハ宿直又ハ徹夜勤務日、一直當リ給額徹夜勤務ニアツテハ其必要ナル用件等ヲ付記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事
- 一、脚夫賃ハ特使ヲ用セシ用件、用務地、備使月日、里程、一里當リ賃金、其他計算ノ基ク事由、物品運搬費ハ其物品ノ用途送達地發送月日數量、一個當リ料金、其他計算ノ基ク事由ヲ付記スル事
- 一、建物其他ノ借料ハ何月分ノ區分其物件名、用途、數量、其他計算ノ基ク事由、借入ニ關シ許可ヲ經タルモノハ其記號年月日等ヲ付記シ巡查駐在所借料ハ其所名、居住月日、轉免、其ノ他發令月日、死亡月日等ヲモ付記シ數名分ヲ集合仕拂トナストキハ前項ニ準スル事
- 一、留置人賄費ハ留置又ハ拘留ノ區分、氏名、其期間、一人別給與度數（自何月何日夕食何度外差入何度ト記スルノ類）等ヲ仕譯書ニ具備スル事  
但拘留囚ニアツテハ其期間留置場費收入仕譯書ニ符合セルヲ要ス
- 一、囚人押送賃費ハ船車馬賃ニアツテハ押送月日、押送先囚人氏名ハ姓名ノ區分  
刑名ノ區分  
刑名ノ區分  
囚人每ニ其度數（何月何食何度ト）等ヲ付記スル事
- 一、工事ハ建築又ハ修理箇所工費仕譯書ニ著手及出來月日、許可ヲ經テ執行セシモノハ其ノ記號年月日等ヲ具備スル事
- 一、物品購買ハ購入目的トシテハ直接ノ用途、細別欄内ニハ現品ノ如何ヲ知悉シ且價格ノ當否ヲ識別スヘキ品質及形狀ヲ（單ニ品名ヲ以テ盡シ細別シ能）付記シ許可ヲ經テ購買セシモノハ其記號年月日ヲ付記スル事  
ハサレモノハ此限ニアラス
- 一、其他ノ費途モ前各項ニ準シ算出ノ基ク事由及事件ノ執行ヲ判明ナラシムル記載ヲ要ス
- 一、支出傳票ニ添付スヘキ請求書、契約書又ハ請書、入札書又ハ積書、實費拂認可書等ハ遺漏ナキヲ要ス

### ●經費整理簿並ニ物品出納簿記帖整理方

明治四十二年四月  
內會發第二四二號內務部長

經費整理簿並ニ物品出納簿記帖整理方農業學校照會ニ對シ左記ノ通回答候條及通牒候也

左記

- 一、經濟支拂精算額ニ對スル豫算殘額ハ精算濟豫算減額トシ朱書控除記帖ノ事
- 二、物品出納簿ハ年度末ニ於テ計ヲ附スルヲ要セサルモ消耗品ノ殘高ハ翌年度へ繰越シト墨書拂出記帖ノ事

### ●經費ノ支出及徵收事務ニ關シ現金授受セシメサルノ件

明治四十四年八月  
內會第四五五號

各障長

會計事務整理方ニ關シテハ屢々訓示セラレ且通牒ノ次第モ有之候ニ付兼テ相當措置可相成管ナルニ經費支出ニ當リ  
支出命令ヲ正當債主ニ領收證引換ニ交付セシテ會計主任ニ於テ債主ノ委任ナキニ自ラ便宜代ツテ縣金庫ヨリ現金  
ヲ領收シタル後債主ニ交付シ其際領收證ヲ徵シ尙徵收金ヲ納人ヨリ會計主任ニ於テ假領置ヲ爲シ便宜代ツテ縣金庫  
ニ拂込ヲ爲セル趣相聞ヘ如斯ハ終ニハ救済スヘカラサル失態ヲ醸生シ甚々不都合ノ義ニ有之候條相當委任アル場合  
ノ外其障吏員職員等ニ於テ便宜代ツテ縣金庫ト現金ノ授受ヲ爲サシメサル様篤ク御監督可相成依命此段及通牒候  
也

### ●收支計算書其ノ他報告書提出方督勵ニ關スル件

明治四十二年八月  
內會第五八六號

各障長

收支ニ關スル計算書其ノ他報告書ハ其提出期日夫々規定アルニモ不拘往々等閑ニ附スル向モ有之如斯ハ會計事務整  
理上至大ノ關係ヲ及ホシ甚々不都合ニ有之候條爾後主任者ヲ督勵シ各其期日內完了方篤ト御留意相成度候

### ●支出命令ト支出傳票トノ記載要件精細對查スルノ件

明治四十四年八月  
內會第七三七號

經費其他ノ支出ニ當リ支出命令調理ノ際ハ其ノ記載ノ要件ハ支出傳票ニ逕照査後之ヲ發行スヘキ筈ニ有之然ルニ其照査方ノ遺漏ヨリ支出命令記載ノ仕拂金額等ニ相違ノ廉アリ爲メニ縣金庫ハ該支出命令ニ基キ現金ノ支拂ヲ爲スモノナレハ終ニ現金ノ過誤拂ヲ爲スニ至リシ向相聞ヘ如斯ハ支出命令發行者ノ職責上甚々不都合ナルハ勿論整理上ノ支障モ不尠候條支出命令發行ノ際ハ廳長ニ於テ其ノ記載要件ヲ精細支傳票ニ逕對査毫モ現金ノ過誤拂等ノ失懸ヲ來ササル様篤ク御留意可相成依命及御通牒候

### ● 租稅外諸收入金收入方ノ件

明治四十一年七月十八日  
內會第七〇六號內務部長通牒

今般神奈川縣訓令第四二號ヲ以テ警察署、警察分署諸收入收納順序廢止相成候ニ就テハ本月二十一日ヨリ沒收金及沒收物品賣拂代ノ納入告知書ハ當廳ニ於テ發付シ貴署經由ノ上納入シテ現金ヲ其地ノ金庫ニ納入セシメ候ニ付違警罪即決例第十一條ニ依リ拘留保證金ノ沒收ト決定シタルトキ若クハ遺失物法、行政執行法其他ノ法規ニ依リ保管セシメ金品ノ期滿失効ニ屬シ賣却等ノ處分ヲ爲ス場合ハ其都度金額事由及納入ノ住所氏名ヲ詳記シタル納入告知書發付請求書送付有之度候也

追テ物品拂下代ニ係ル納入告知書發付請求書ニハ其拂下決議書(品名、數量及品名毎ニ拂下價格ヲ詳記アルモノ)及五拾圓以上ノモノハ其入札書共添付ヲ要シ候

### ● 經費支出方ニ關スル件

大正十年二月八日  
西警發第一九號警務課長

皇族殿下御警衛ニ關シ御先導其他ノ爲メ備上ノ人力車又ハ自動車賃金仕拂方ニ付テハ豫算經理上其ノ乘用者ノ所屬ニ依リ國費又ハ連帶警察費ヨリ支辨スヘキ筈ニ有之候處從來ノ例ニ依ルトキハ甲署ハ縣費配當豫算內ヨリ支出シ、乙署ハ立替拂ノ形式ニ依リ本廳ヘ請求シ實際其ノ取扱區々ニ相涉リ豫算經理上支障不尠義ト思料候條爾今本件ニ付

テハ乘用者ノ所屬ヲ明カニシ左ノ區分ニ依リ御處理相成度候

追テ本年度中既ニ縣費(市部費又ハ郡部費)ヨリ支出相成候モノ有之候ハ、此ノ際戻入ノ上本廳ヘ請求候條御取計相成度候

記

- 一、署長(警部)乗用ノ場合ハ國費支辨ニ屬スルニヨリ乘用者ノ官職氏名ヲ表示シタル立替拂請求書ニ並當領收證ヲ附シ本廳ヘ提出ノコト
- 二、警部補及巡查乗用ノ場合ハ連帶警察費支辨ニ屬スルニヨリ尙前同様ノ取扱ヲ以テ本廳ヘ提出ノコト但シ連帶警察費諸備給豫算配付ノ向ニ在リテハ當該豫算內ヨリ支出スルモ妨ケナシ

### ● 滯納處分費ニ關スル件

大正九年十二月二十一日  
申內會發第二八九號內務部長

本年十二月十七日縣訓令第八十三號發布相成候就テハ將來滯納處分費ヲ要スルトキハ理由ヲ具シ之カ豫算ノ配布ヲ求メ縣會計規則ニ據リ支出整理相成度依命此段及通牒候也

### ● 窓掛日覆ノ區別及該費途區分ノ件

明治三十年八月  
知事決裁

窓掛ハ廳費日覆ハ營繕費ノ支辨ニ有之候處窓掛ト日覆トノ區別ニ就テハ是迄窓ノ内部ニ取付クヘキモノハ窓掛外部ニ取付クヘキモノハ日覆トシ或ハ窓ノ内部ニ布若ハ竹簾ヲ以テ調製取付クヘキモノハ窓掛同上木片ヲ以テ調製取付クヘキモノハ日覆トシ又ハ單ニ名義ノミヲ以テスル等一定ノ區分方無之爲メニ廳費ト營繕費ト混同致シ取扱上ハ勿論經費支出上不穩當ト存候間爾來別紙大藏省調查局長及內務省庶務局長通知ノ主意ニ基キ左ノ區別ヲ以テ兩費ノ區分相立可然哉此段相候候也

追テ本議御決裁ノ上ハ郡役所警察署監獄支署等ノ各官署ニハ各主務部課ヨリ通知相成度此段副申候也

一窓掛 廳費ニ屬スル分  
是ハ主トシテ室內裝飾ノ爲メ用ユル「ド」シチヨウ「即チ普通日覆ノ外更ニ取設クヘキ種類ヲ云フ

一日限  
是ハ窓ノ内外若クハ構造等ノ如何ニ拘ハラヌ主トシテ日光ヲ避クル爲メ用ユルモノ即チ前項窓掛以外ニ屬スル種類ヲ云フ

### ●縣費所屬各廳經費支出記帳整理ニ關スル件

大正元年九月  
知事決裁會計課發議

縣費所屬各廳ノ經費支出ニ對シテハ毎月支出計算書ヲ檢査員檢了ノ後廳別ニ各科目毎ノ支出高ヲ本廳備付ノ内譯簿ニ登記スル例ニ相成居候處右ハ本廳直接出納整理スルモノト異ナリ各廳ニ經費支出整理簿ノ備アリ本廳ハ毎日解長ヨリ提出セシ計算高ニ對シ縣金庫ヨリ毎旬ニ報告ノ現金支拂高ト照查スヘキ管ナレハ本年度以降各廳内譯簿ハ從前ノ通り設備シ廳別ニ豫算高ヲ登記シ支出高ハ毎月ノ記帳ヲ省略シ一々年度決算額ニ限り登記整理致度本議ニ對シテハ整理上別ニ支障ノ虞モ無之重ナル府縣ノ實例ヲ參照セシニ東京、京都、大阪ノ三府ノ如キハ既ニ本案ノ如ク整理致居候旁以テ事務簡捷上本議仰高裁候

### ●豫算ノ制限ヲ超過シ又ハ不足ヲ來シタル場合支出傳票調製方ニ關スル件

大正元年十月  
內會發第一一四號

縣總濟所屬物件ノ賣買貸借及工事其他事件ニシテ豫算ニ指定アルモノハ該豫算ニ基キ執行相成ヘキハ勿論ナルモ萬一執行上豫算ノ制限ヲ超過シ又ハ制限ニ達セザリシ場合ニ於テ本縣會計規則第五十九條ニ依リ執行ノトキハ其認可記號年月日理由其他ハ指定豫算不足ノ理由及補充方法又會計規則第四十一條各號ノ一ニ該當ノ事件ハ其額末等遺漏支出傳票ニ掲記シ其事件ノ執行判明候様處理相成度此段及通牒候也

### ●官報及法令全書代金納付ニ關スル件

大正二年十一月  
丑內財收第六五一四號

印刷局發賣ノ官報法令全書ノ代金ニ對シテ從來納入告知書ヲ發送セサルコトニ相成居候處購讀廳ニ於テ代金納付方遲延ノ向多ク整理上不得止時々同局ヨリ代價納付通知書ヲ發送相成居候處自今此等手續ト費用ヲ省ク趣旨ニテ該通知書ノ發送ヲ廢止相成ヘキニ付購讀廳ハ三ヶ月ヲ越ヘサル範圍内ニ於テ隨時左記様式ノ仕譯書ニ仕拂命令又ハ金券相添ヘ印刷局ヘ代金納付相成候様通達方其筋ヨリ通知有之候ニ付自今代價納付方遲延セサル様篤ト御注意相成度及移牒候也

追テ明治四十年法律第五號ニ依リ前金拂込相成候ハ、便宜ニ可有之申添候  
左記

仕 譯 書  
一 金

內 譯

品名	金額	月	別	部	數	摘	要
官報		至自	月	月			
法令全書		至自	月	月			
		號	號				

職員錄ハ做之  
右納付ス

年 月 日  
宛  
官 職 氏 名

### ●金錢領收委任ニ關スル件

大正三年六月  
寅內財發第一九四號

官吏吏員ニシテ物品供給者ノ委任ヲ受ケ金錢ヲ領收セラルル向有之候得共穩當ナラサル義ニ付爾今委任ヲ受ケサル

第一編 警務 第三章 會計

標御取計相成度爲念及通課候也

### ●沒收金納入告知書發付請求書送付方ノ件

明治四十五年三月八日  
內會第一五七號內務部長

四十一年七月十八日付內會第七〇六號ヲ以テ租稅外諸收入金收入方ノ件ニ關シ通課置候處右ニ依リ當廳ヘ送付ノ沒收金納入告知書發付請求書中往々事由不明ノ向有之取扱上差支候ニ付爾今左記様式ニ依リ請求書送付相成度候也  
(四十一年七月十八日附內會第七〇六號參照)

左記様式 (半紙罫紙)  
何 號

歳入歳出外納官吏  
何々警察(分)署長 官 氏 名 〇

知 事 宛

納入告知書發付請求ノ件

一、金 何 圓 也  
內 課

金 額	拘留言渡 月 日	拘留日數	保證金納入 月 日	留置日數	納人ノ住所氏名	備 考
-----	----------	------	-----------	------	---------	-----

右拘留保證金沒收ニ付納入告知書發付相成度候也

### ●癩患者送致費用請求方ノ件

明治四十三年一月二十一日  
警衛發第二七號

癩患者ニシテ第一區東京全生病院ヘ送致シタル費用ノ請求方ハ左記様式ニ依リ調製ノ上送致シタル日ヨリ三日以内ニ御回送相成候様致度候也

左記

仕 譯 書

一、金 何 圓

但何月何日癩患者何ノ某外何名ニ對スル送致費用

金 何 圓

重症癩患者何某外何名何處ヨリ何停車場ニ至ル擔荷運搬人夫料何人分患者一人ニ付人

金 何 圓

夫二人宛別紙第一號請求書ノ通り

癩患者何某外何名何停車場ヨリ東村山停車場ニ至ル汽車賃三等實費一人ニ付金何十錢

ツ、別紙證明書ノ通り

右之通りニ候也

年 月 日

何警察署分署長

警(視)部 何

ノ

某 〇

人夫請負 何ノ某 〇

某 〇

證 明 書

一、金 何 圓

但明治何年何月何日別紙癩患者何ノ某外何名何停車場ヨリ東村山停車場ニ至ル汽車賃實費一人金何

錢宛

右乘車證明候也

何警察署詰

護送官吏巡查 何ノ某 〇

別紙(第一號)

請 求 書

一、金 何 圓

但明治何年何月何日重症癩患者何ノ某外何名何處ヨリ何停車場ニ至ル擔荷運搬人夫料此里數往返

何里一里ニ付一人金何程ノ割

右及請求候也

年 月 日

何那何村字何々番地



(別紙)

送致患者調

何ノ某  
何ノ某

何ノ某  
何ノ某  
何ノ某  
計 何ノ某名

●修繕費支辨ニ關スル件

大正十一年八月十四日  
戊内會發第二四八號内務部長

廳舎ノ室内又ハ廊下階段等ノ敷物「リノリユーム」ニ塗布スル「リノリユーム」購入支辨科目ヲ誤リ支出セ  
ル向キモ有之候處右ハ廳舎ノ修繕費ヨリ支出スヘキ義ト了知ノ上將來相當經理相成度此段及通牒候也

●歳入歳出外現金取扱順序ニ關スル件

大正十一年八月二十八日  
内會發第二五九號内務部長

明治四十五年五月本縣訓令第三十六號歳入歳出外現金出納規程ニ依ル現金ハ從來明治二十六年九月大藏省令第二號  
保管物取扱規程ニ依リ取扱來リタルモ會計法改正ノ結果本年二月大藏省令第五號ヲ以テ右保管物取扱規程ノ現金ハ  
保管金取扱規程トシテ改正發布セラレ從前取扱振ニ異動ヲ生シタルヲ以テ關係法規等充分講究ノ上左記事項御留意  
相成度依命此段及通牒候也

追テ明治四十四年五月十六日附内會第五二一號内務部長通牒現金取扱順序ニ關スル件ハ自然消滅ニ歸シタル儀ト  
御了知相成度

- 一、從前ノ規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ保管取扱規程第二十三條ニ依リ大藏省豫金部豫金トナリタルヲ  
以テ該保管金、四月一日現在額ヲ現金出納簿ニ預金トシテ受入ヲ要ス
- 二、保管金取扱規程第二條ニ依リ拾得金埋藏金等預入ノ場合ハ預金部預金取扱規程第四條ニ依リ第一號書式ノ預  
金部預金拂込書ヲ添ヘ所在地又ハ最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ミ預金部預金領收證書(日本銀行國庫金取扱  
規程第五十二條ニ依ル第五號書式)ヲ受クルコトトナリタルヲ以テ取扱官廳ニ於テハ從前ノ保管物取扱規程

第五號書式ニ準シ内課書ヲ作製保管シ權利者ニ拂渡シ歳入ニ振替納付等ノ關係ヲ明記シ整理スルヲ要ス  
追テ拘留保證金及留置人所持金等ハ出納官吏保管シ受拂ヲ爲スコト

三、預金部預金ヲ拂渡ス場合ハ保管金取扱規程第七條ニ依リ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スコト

- (1) 權利者ハ拂渡ス場合ハ保管金取扱規程第七條ニ依リ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スコト
- (2) 預入レタル日本銀行代理店以外ノ日本銀行又ハ同代理店ニ於テ權利者ニ拂渡ヲ要スルトキハ保管金取扱規  
程第八條ニ依リ第二號書式ノ保管金支拂通知書ヲ交付シ預入シタル日本銀行代理店ニ對シテハ預金部預金  
取扱規程第十二條ニ依リ預入シタル日本銀行代理店渡シノ小切手ニ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トシ  
裏面ニ權利者ノ氏名住所及支店名ヲ記入シ交付スルコト
- (3) 保管金取扱規程第十六條ノ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキ同條ニ依リ第六號書式ノ保管金政府所得  
調書ヲ作製シ期日ヲ違ハス之レヲ當廳ニ提出スヘシ
- (4) 前項ノ調書ヲ當廳ニ於テ受理シタルトキハ保管物取扱規程第十七條ニ依リ納入告知書ヲ送付スヘキニ付  
納官吏ハ出納官吏事務規程第七條ニ依リ該告知書ノ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行代理店ヲ受取  
人トシ裏書禁止ノ旨ヲ記載シ尙表餘白ニ「要振替」ノ印ヲ捺捺シテ振出シ納入告知書ヲ添ヘ預入シタル日本  
銀行代理店ニ交付シ告知書接續ノ領收書ヲ受クルモノトス
- (5) 出納官吏預金ノ拂戻ヲナサントスルトキハ預金部預金取扱規程第十條ニ依リ小切手ヲ振出シ預金部預金ノ  
拂戻ヲ受クルモノトス
- (6) 從來ノ規程ニ依リ預入シアル保管金ヲ拂渡場合ハ保管金取扱規程第二十四條二項ニ依リ其ノ振出小切手ニ  
金庫ノ發付シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スルヲ要ス

四、預金部預金取扱規程第四條第二項ニ依リ取扱官廳ハ小切手用紙及預金部預金帳ヲ預入レタル日本銀行代理店  
ニ請求シ交付ヲ受クルコト

- 五、現金出納簿記載方別記ノ通り取扱ヲ要ス
- 六、出納官吏交替ノ場合ハ出納官吏事務規程第六十一條ニ依リ第八號様式ノ現金現在高書及其引繼クヘキ帳簿證  
憑其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ作製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ了シ現在高書及目錄ニ年月

七、日及受授了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スルコト  
 出納官吏ハ其取扱ニ關シ會計規則第四百十二條ニ依リ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ計算證明規程第五  
 十六條乃至第五十九條ニ依リ計算書及證憑書尙同規程第五十一條ニ依リ檢査書ヲ添付シ第五十條第一項ノ二  
 ノ期限内ニ提出ヲ要ス

受		拂			残		
預金	計	現金	預金	計	現金	預金	計
100.00							
	127.50				27.50	100.00	127.50
	307.50				335.00	100.00	435.00
	44.00						
		15.00		15.00	364.00	100.00	464.00
317.50	317.50	317.50		317.50	46.50	417.50	464.00
			7.50				
			10.00	17.50	46.50	400.00	446.50
417.50	796.50	332.50	17.50	350.00			
			100.00	100.00	46.50	300.00	346.50
		45.50	300.00	341.50	0	0	0
		46.50	400.00	446.50			
417.50	796.50	379.00	417.50	796.50			
300.00	346.50				46.50	300.00	346.50

トス

●歳入歳出外現金出納事務取扱方ニ關スル件

大正十一年十一月十六日  
 成内會發第三三七號内務部長通牒

年月日	摘要	現金
4 1	拾得金保管金取扱規程第二十三條ニ依リ受入	
	拾得金何某ヨリ受入	15.00
	拘留保證金何某ヨリ受入	9.00
	留置人所持金何某ヨリ受入	3.50
2	埋藏金何某ヨリ受入	300.00
	拾得金何某ヨリ受入	7.50
4	拾得金何某ヨリ受入	10.00
	拘留保證金何某ヨリ受入	29.00
	同 何某ヨリ受入	5.00
	拾得金何某へ拂渡	
21	拾得金及ヒ埋藏金日本銀行代理店へ拂込	
25	拾得金何某へ拂渡ノ爲メ小切手振出	
	同何某へ拂渡ノ爲メ小切手振出	
	四月分計	379.00
5 5	國庫歸屬金歳入ニ納付ノ爲メ小切手振出	
	出納官吏何某へ引繼高	
	五月分計	
	總計	379.00
	大正十一年五月五日	
	前任出納官吏官 氏 名	印
	後任出納官吏官 氏 名	印
5 5	前任出納官吏何某ヨリ引繼受高	46.50
	備考	
	追次締高及前業締高等ノ記載方従前ノ通り	

標記ノ件ニ關シ本年八月二十九日戊内會發第二五九號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處尙其ノ取扱ヒ區々ニ互ル向有之候ニ付左記各項御了知ノ上違算ナキナ期セラレ度及通牒候也

記

- 一、從前ノ規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ニシテ保管金取扱規程第二十三條ニ依リ預金部預金トシテ受入ルトキ四月一日現在額トハ金庫ニ寄託シタルモノニシテ三月三十一日迄ニ拂渡證書ヲ發行シタルモノ及ヒ同日迄ニ期滿失効トナリタルモノハ算入スヘカラサル管ナルニ往々金庫ヨリ日本銀行ヘ引繼キタル現在額ヲ受入レタル向アリタルヲ以テ特ニ注意ノコト
- 二、出納官吏カ日本銀行ヘ預入シタル現金ヲ拂渡ス場合ハ原則トシテ現金ノ交付ニ代ヘ小切手ヲ振出スヘキ規程ナルモ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ預金部預金取扱規程第十條ニ依リ出納官吏ニ於テ當該預金ヲ引出シ交付スヘキモノトス
- 三、保管金取扱規程第十六條ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金トハ遺失物法ニ依リ期滿失効トナリタルモノヲ指シタル儀ニシテ同法ニ依ル期間内ニ小切手ヲ發行シタルモノハ權利者ニ於テ日本銀行ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルト否トチ不問所得調書ニハ掲上スヘカラサルモノトス
- 四、小切手ヲ振出ス場合ニ遺失物法ニ依ル期滿失効年月日ヲ小切手ニ記載シ交付セル向アリタルモノ右ハ遺失物法ノ期滿失効月日ト小切手ノ有效期間トハ全然別個ノモノニ付期滿失効年月日ハ記載スヘカラサルモノトス
- 五、交付ヲ受ケタル小切手ヲ盜難ニ罹リ又ハ紛失シタル場合ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ニ依リ公告、催告ノ手續ヲ以テ裁判所ノ無効判決ニ依リ其ノ權利ヲ行使スヘキ儀ニ付之レニ對シ小切手ヲ再度交付スヘカラサルモノトス
- 六、預金部預金仕拂傳票ハ明治四十五年五月訓令第三十六號歲入歲出外現金出納規程第一號書式ノ乙ニ依リ「歲入歲出外現金仕拂傳票」トアルヲ「歲入歲出外現金預金部預金出傳票」トシ「月日現金仕拂濟」欄ヲ「月日小切手振出濟」トシ取扱フコト

### ● 收支科目内譯書更訂ニ關スル件

〔神奈川警〕

大正十一年十月十四日 戊内會發第三〇五號内務部長通牒

收支科目内譯書提出後科目ノ誤謬ヲ發見シ之方更訂ヲ要スル場合從來引替亦ハ更訂方チ縣支金庫經由提出セラレルモ爾今總收支金額ニ異動ナキモノハ直接當廳ヘ御申出相成度

### ● 期滿失効トナリタル歲入歲出外現金ニ關スル件

大正十二年五月二十三日 十二會發第一四〇號内務部長通牒

元金庫ニ於テ領收證書ヲ發シタル保管金ニシテ大正十一年四月以降期滿失効トナリタルモノハ保管金取扱規程第二十四條ニ依リ從前ノ通り日本銀行ニ於テ歲入ニ編入手續ヲ爲スヘキノ處右ノ内期滿失効前出納官吏ニ於テ小切手ヲ振出シタルモノアル場合ト雖モ日本銀行ニ於テハ現金ヲ拂渡ササルモノニ對シテハ之レヲ知ルノ途ナキヲ以テ歲入手續前時效調書ヲ作製シ一應之ヲ取扱官廳ニ提出シ照査ヲ求ムルコトニ相成候ニ付調書ヲ受ケタルトキハ篤ト精査ヲ遂ケ該調書ニ登載シアルモノノ内已ニ小切手ヲ振出シタルモノアルトキハ其金額ノ左側ニ「何年何月何日小切手振出濟」ト朱書シ尙調書ノ末尾ニ「證明濟」ト記載シ年月日取扱官廳名ヲ記入シ應印ヲ押捺シ返付相成度此段及通牒候

### ● 賞與金支出方ノ件

大正十二年五月 十二會發第一六〇號警務課長會計課長

各警察署(分)署長殿  
各消防署長殿

從來警部補巡查及消防手ニ對スル功勞賞金ハ本廳ニ於テ支拂ノ處本年度以降支拂敏活ヲ期スル爲メ警察官署又ハ消防官署ニ於テ直接支拂ヲナス事ト廳議決定ス夫々豫算配當相成候條自今左記ニヨリ支拂方御取計ヘ相成度依命此段及通牒候也

追テ警部及人民等ノ賞與ハ從來ノ通り本廳ニ於テ支拂相成ヘク候條御了知相成度申添候

(左記)

- 一、本廳ヨリ送付スル受領人ノ金額ニ依リ直ニ支出傳票ヲ調製支拂ヲナスコト
  - 二、犯罪事件ノ賞與ニアリテハ事件送致警察官署ニ於テ其ノ他ノ事件ノ賞與ニアリテハ行爲地所轄ノ警察又ハ消防官署ニ於テ支拂ヲ爲スコト
- 但シ此場合同一經濟ナルトキハ尙本人ノ所屬官署ニ於テ支拂ヲ要ス

● 出納期限ニ關スル件

大正十三年四月 十三會發第八四號內務部長通牒

客年六月縣令第六十四號ヲ以テ神奈川縣會計規則第六條但書改正ノ結果各府ノ歳出ハ翌年五月三十一日ト限定セラレ出納ノ延期ハ爲シ得サルコトニ相成候就テハ期限内ニ必ス支出完結ノ上計算書提出相成度爲念及通牒候也

● 小切手ヲ受取人ニ於テ喪失シタル場合等ニ關スル件

大正十三年八月二十一日 十三會收第八三一〇號內務部長通牒

保管金仕拂ノ爲振出シタル小切手ヲ受取人ニ於テ喪失セシ場合等ノ取扱方ニ關シ別紙甲號ノ通リ司法大臣官房會計課長ヨリ照會有之乙號ノ通大藏省主計理財兩局長ヨリ回答相成候旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條右ニ依リ御處理相成度及通牒候也

(別紙甲號)

大正十二年十一月二十二日司法省會甲第四〇九四號

司法大臣官房會計課長 近藤三郎 圖

大藏省

主計局長 田 昌 殿  
理財局長 小野 義一 殿

保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セシ等左記事項ニ關シ至急取扱方垂示相成度

一、小切手振出日附後一年ヲ經過セシ分ト否ラサル分トヲ問ハス燒失其他喪失毀損セシ分ニ付テハ債主ハ如何ナル方法ニ依リ現金支拂ヲ受ケ得ヘキヤ

二、喪失等ニ因リ公示催告、除權判決アリタル分ニ付テ同上

三、現實所持セル小切手ニシテ漫然一年ヲ經過シタル後ノ分ニ付テ同上

四、前各號ノ小切手ニシテ保管金規則第一條ニ依ル五年ノ期間ノ經過セサル中ハ何時ニテモ現金支拂ヲ受ケ得ラルルヤ

五、前各號ノ分ハ前キニ債權者ニ對シ小切手ヲ振出ス場合現金出納簿ノ拂ニ立テアルニ付若シ一年經過ノ事由ニ依リ一旦歳入ニ編入スヘキモノト假定セハ帳簿上ノ整理其後現金支拂ヲ受ケル場合ノ記帳ノ要否及歳入科目ヲ指定セラレ度

(別紙乙號)

客年十一月二十二日附會甲第四〇九四號ヲ以テ保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手ニシテ受取人ニ於テ喪失セシ等ノ場合之カ支拂方ニ付御照會ノ趣了承右ハ左記ノ通御承相成度此段及御回答候也  
大正十三年七月二十四日

大藏省

主計局長 田 昌  
理財局長 富田勇次郎

司法大臣官房會計課長殿

- 一、小切手振出後其ノ小切手カ燒失、紛失其他喪失毀損セシトキハ民法施行法第五十七條及民事訴訟法第七百七十七條以下ニ規定スル公示催告手續ニ依リ當該小切手ヲ無効トスル除權判決ヲ受ケ其ノ小切手振出日附後未ダ一年ヲ經過セサル場合ニアリテハ小切手ノ支拂店ニ其ノ判決原本ヲ提示シ現金ノ支拂ヲ求ルコトヲ得ヘク若又振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニアリテハ小切手ヲ振出シタル當該官廳ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘシ
- 二、前項ニ依ル
- 三、償還請求ニ必要ナル書類ヲ提出セシメ審査ノ上更ニ償還金トシテ之カ支拂ヲ受ケ得ヘシ
- 四、保管金規則第一條ニ所謂「五年」ノ時效ハ保管金支拂請求權行使ノ期間ニシテ此期間内ニ於ケル其請求ニ對シ

第一編 警務 第三章 會計